

ども、噴火頗る猛烈にして、十四五座の活火山あり。其内クリヌチ山最も高くして、殆ど一万六千餘尺に達せり。
 (河流) 地勢概ね北方に傾斜せるがゆゑに、南方山岳、及び森林帶等に涵養せらるゝ水は、皆北流するを普通とせり。而して此等諸河流の支流は、又皆其方面を北西若くは北東にとるがゆゑに僅少の運河を開鑿すれば、舟楫の便は頗る大なるべき筈なれども、氣候寒烈にして結氷多く、且人口及び貨物に乏しく其利益を享受すべき機會極めて短小なるを以て、未だ之が計劃を施すに至らず。

オブ河 源をアルタイ山に發し、曠野を緩流してイルチン河を合せ、北流して森林帶に入り、ツンドラ中に進み、幅三十哩乃至四百五十哩の峽灣によりて北極洋に注ぐ。全流程凡そ二千六百哩あり。而して河口の幅五哩に達し、深さ十五尋に及ぶものあり。流域の大なること實にシベリア第一に位せり。本河夏期は舟運の便頗る大にして、漁業の利も亦甚だ多しといふ。而も之を北米ミシシッピ河等に比すれば航運其他の利甚少しとす。

イルチン河 源をアルタイ山に發し、西北に流ること凡そ千五百哩。オビ河第一の支流にして、其沿岸にはオムスク・トボルク等の都邑あり。
 本河は其始めウルクンと稱する湖の潜流を受け、黒イルチンとなり、ロシア領に入りて五派に分れ、ザイサン湖に入り、該湖を出て、漸くイルチンと稱するものなり。

Irtish

イエニセイ河 上流二派あり。其に源を北部蒙古に發す。即ち一をウルクンと稱し、サヤン山脈の南をめぐり、一をアングラと稱し、北邊に發して一旦バイカル湖に入り、更に出で、イエニセイスクの南方に會し、北流して中・下のツングスカ河を入れ、イエニセイ灣に注ぐ。流程千五百哩。下流に於ては十二三哩乃至十五六哩の三角洲を擁き、運輸の便オブに及ばざる遠しといふ。

ツングスカ河 イエニセイ河の右方に注ぐ一大支流にして、上・中・下の三あり。上は即ちイエニセイの本流にして、中ツングスカはボトカメシ、ツングスコイに於て、下ツングスカはトロイトチキに於て、本流に合するなり。
 レナ河 源をバイカル湖西畔のバイカル山脈に發し、東北に流れて、ビチム・オレクマ・アルマン等の支流を入れ、北流してノルデンシエルド海に注ぐ。流程凡そ千五百哩。本河は實に東部シベリアに於ける最大河にして、河身處々幅五六哩に達する所あり。而して河口は七派に分れ、又廣大なる三角洲をなせり。而も此の地方人口猶未だ密ならず、利源の開發未だ十分ならず、河川の利用又盛ならざるは惜むべきなり。

北亞細亞の三大河 右にあげたるオブ、イエニセイ、レナの三つを北亞細亞の三大河と稱し、運輸交通及び地形上注目すべきものとす。

アマール河(黒龍江) アジア大陸東岸の一大河にして、其の名アマールは大河の義なり。

Amur

Olekma, Aldan

Lena Vitim

Tunguska

Angara

Yenisei Ur-kem

北亞細亞の三大河

ツングスカ河

シベリア地相

シルカ・アルゲン(額爾古納)の兩源あり。共に北部蒙古に發し、前者は直に此國に入れども後者は暫く支那との境を流れ、相合して後、更にオーノン河を入れ、ケルロン河を合せ、滔々として滿洲との境を劃し松花江を入れ、更に東北に走りて烏蘇里江を入れ、ニコルスク港に至り、韃靼海峡に注ぐ。流程凡そ三千哩。

アムル河の
價值

蒙古人の根
據地

此他の河流

シベリアに
於ける大河
の成因

オムル河の價值 本江はシベリアの交通、漁業並にロシア東方政策上、最重要なるものなり。而して吃水五尺の汽船は江口より千五百哩の地點に達すべく、しかも東方に向つて太平洋に注ぐを以て、産業上、國防上利する所極めて大なり。蓋しロシア勢力の東漸せしは、全く本江の賜にして、此河流によりて、以て今日の強を致したりといふも、實に聲音にあらざるなり。而して又ウラジボストックに達するには、支流烏蘇里によるを便なりとす。黒龍江或は弱水又は弱洛水と云ひ、蒙古人は黃水、滿洲人は黒水と云ふ。其の水源地方は實に蒙古人の根據地たりし所なり。

此他の河流 ハタンカ及びオレンクの兩河はイエニセイ及びレナ兩河の間にありて、流程頗る大なれども、舟楫の便極めて乏しきがゆゑに稱するに足るものなく、又ヤナ・ピアシナ等あれども、殆んど數ふるに足るなし。此他北氷洋方面に注ぐものには、インナギルカ・コリマ等ありて、太平洋方面に注ぐものには、アナチル・カムチアツカ等あり。

シベリアに於ける大河の成因、シベリアは雨量甚だしく、年内僅に二三十ミリメートルに過ぎざるにも拘はらず、非常の大河の成立せるは何故なるか。之れ一は南方にある連山が水蒸氣を冷縮して雨雪を降らしめて水源を養へると、一は氣候冷涼にして流域地方の流水を蒸散せず、且地面は年内の大部分氷凍し居りて水分を浸透するこ

- Indigirka Kolyma
- Yana Piasina
- Hantanka Olenek
- Sachlin Ula Sarga
- Onon Kerulun
- Shilka Argun

と少なく悉く河道に向て放流するに依るものとす。

《バイカル湖》



景の湖ルカイバ

一にダライ、ノル即ち聖海の稱あり。往昔シナ人は柏海又は北海といへり。アジア第一の淡水湖にして長さ四百哩。幅二十五乃至六十哩面積凡そ一萬三千方哩、大約我九州島に似たり。深さ千四百四十米を越ゆる所あり。

本湖は亦海拔四百七十六米に位し、毎年十二月より翌年五月までは、湖面全く結氷し氷の厚さ五呎に達するがゆゑにシベリア鐵道は碎氷船を備附け、以て兩對岸間の列車を運轉しつゝありしが、日露戰役中、其不便に鑑みこの湖の回避線を敷設し、湖畔を東南に廻るに至れり。夏季は汽船の便あり。

傳へ云、蘇武が羊を牧せしは、即ち此湖畔なりと。

此他の諸湖 ハンカ(興凱)湖は滿洲と接せる東境にありて面積凡そ千七百方哩。頗る魚族に富めり。此他キジ・チエニ等の諸湖あり。

- Khanka Kiji

沿岸

沿岸一帯の地は寒氣頗る酷烈にして、一年の大半は堅氷に閉さるゝがゆゑに、

シベリア沿岸

シルカ・アルゲン（額爾古納）の兩源あり。共に北部蒙古に發し、前者は直に此國に入れども後者は暫く支那との境を流れ、相合して後、更にオーノン河を入れ、ケルロン河を合せ、沿々として滿洲との境を劃し松花江を入れ、更に東北に走りて烏蘇里江を入れ、ニコルスク港に至り、韃靼海峽に注ぐ。流程凡そ三千哩。

アムル河の
價值
蒙古人の根
據地
此他の河流

アムル河の價值 本江はシベリアの交通、漁業並にロシア東方政策上、最重要なるものなり。而して吃水五尺の汽船は江口より千五百哩の地點に達すべく、しかも東方に向つて太平洋に注ぐを以て、産業上、國防上利する所極めて大なり。蓋しロシア勢力の東漸せしは、全く本江の賜にして、此河流によりて、以て今日の強を致したりといふも、實に誣言にあらざるなり。而して又ウラジボストックに達するには、支流烏蘇里によるを便なりとす。黒龍江或は弱水又は弱洛水と云ひ、蒙古人は黃水、滿洲人は黒水と云ふ。其の水源地方は實に蒙古人の根據地たりし所なり。

此他の河流 ハタンカ及びオレネクの兩河はイニセイ及びレナ兩河の間にありて、流程頗る大なれども、舟楫の便極めて乏しきがゆゑに稱するに足るものなく、又ヤナ・ピアシナ等あれども、殆んど數ふるに足らぬ。此他北氷洋方面に注ぐものには、インサギルカ・コリマ等ありて、太平洋方面に注ぐものには、アナデル・カムチアツカ等あり。

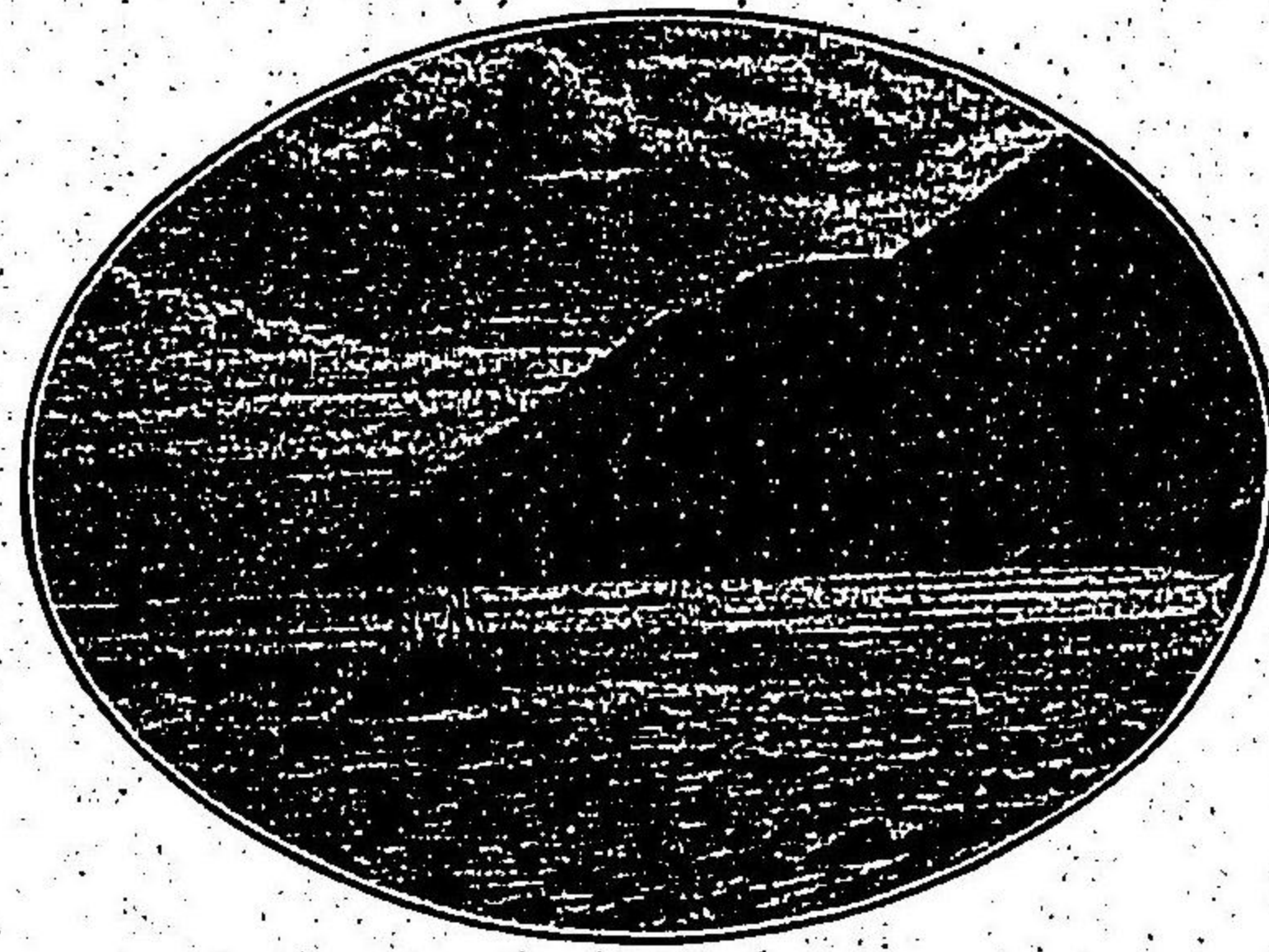
シベリアに於ける大河の成因、シベリアは雨量甚だしく、年内僅に二三十ミリメートルに過ぎざるにも拘はらず、非常の大河の成立せるは何故なるか。之れ一は南方にある連山が水蒸氣を冷縮して雨雪を降らしめて水源を養へると、一は氣候冷涼にして流域地方の流水を蒸散せず、且地面は年内の大部分氷凍し居りて水分を浸透するこ

シベリアに於ける大河の成因

Indigirka Kolyma
Yana Piasina
Entanka Olenek
Sachlin Ula Sarga
Onon Kerulun
Shilka Argun

と少なく悉く河道に向て放流するに依るものとす。

《バイカル湖》



景の湖ルカイバ

一にダライ、ノル即ち聖海の稱あり。往昔シナ人は柏海又は北海といへり。アジア第一の淡水湖にして長さ四百哩。幅二十五乃至六十哩面積凡そ一萬三千方哩、大約我九州島に似たり。深さ千四百四十米を越ゆる所あり。

本湖は亦海拔四百七十六米に位し、毎年十二月より翌年五月までは、湖面全く結氷し氷の厚さ五呎に達するがゆゑにシベリア鐵道は碎氷船を備附け、以て兩對岸間の列車を運轉しつゝありしが、日露戰役中、其不便に鑑みこの湖の回避線を敷設し、湖畔を東南に廻るに至れり。夏季は汽船の便あり。

傳へ云、蘇武が羊を牧せしは、即ち此湖畔なりと。

此他の諸湖 ハンカ(興凱)湖は滿洲と接せる東境にありて面積凡そ千七千方哩。頗る魚族に富めり。此他キジ・チニニ等の諸湖あり。

沿岸

沿岸一帯の地は寒氣頗る酷烈にして、一年の大半は堅氷に閉ざるゝがゆゑに、

Khanka Kiji

Baikal

此他の諸湖

古來地理學上明瞭ならざるもの頗る多く、又探檢極めて不完全なりしが、千八百七十八年より全七十九年に渡りて、ノルデンシヨルド氏によりて、漸く世上に明瞭なるに至れり。而して海岸線長からざるにあらず、海灣乏しきにあられども、極寒の地にあるを以て、用をなすものなきなり。

〔北氷洋沿岸〕 西方ヨロツバとの境には、カラ灣ありてノバゼムリア及びバイガツの二島と、サモヤ半島とによりて其口を扼し、其東方オビ河口にはオビ灣、イエニセイ河口にはイエニセイ灣あり。

之より東北に進み、二三の小灣を経て、チェリウスキン岬あり。之れ即ち大陸の最北端にして、北緯七十八度二十分に位す。蓋し本岬はタイミル半島の先端に位せるものにして、茲にタイミル灣あり。

更に東進してレナ河口に至れば、其三角洲の東に、ヤナ灣あり。ニウーシペリア群島其口に横はれり。而して、之より以東は屈曲出入極めて乏しく、ウランジェル島と本陸との間なるロング海峽をすぎ、東端チュクチー半島の東岬に至れば、西經正に十度、實にベリリング海峽の西邊たり。

Wrangel Chukohis Yana New Siberia Chelyuskin Taimyr Op Yenisei Vaigatz Samoya Kara Novain-Zemlia

ニウーシペリア島

ペアー島

ノルデンシヨルド

ニウーシペリア島 本島は單に蘚苔・榛草等を生ずる一小島にすぎざれども、化石象骨の現出を以て世に知らるゝが故に、學者の探檢に來るもの頗る多しといふ。

ペアー島 コリムスク河口の北にあり。西紀千七百六十三年前、測景家アンドレー氏の發見したるものにして、東西に羅列せる六小島よりなれるものなり。

ノルデンシヨルド

スウェーデンの植物學者なれども、夙に航海を好み、諸方を週遊せしが、殊に北氷洋の探檢に其力を注ぎ發見したる所極めて多かりき。千八百七十八年より翌年に渡りて、ツエナガ號に乗りシペリア北岸を探檢し、夏季中は歐洲より亞細亞に軍艦を通航せしむるを得べしと報せり。



像肖ドルシンデルノ

〔太平洋沿岸〕 本沿岸一帯の地は、殊に世界有數の好漁場として、夙に世人の注目する所たり。就中北部の海面に海獸・昆布等の多きこと、之に比すべきものなしといふ。

チュクチー半島の先端東岬は、北米のプリンス、オフ、ウエ

イルス岬と相對し、少しく南進すればアナヅル灣あり。更に南下すれば、カムチャツカ半島ありて、東にベリリング海、西にオコック海を抱き、先端にロバトカ岬を有せり。而して本岬は又千島海峽を隔て、我占守島と相對せり。斯くて之を廻れば即ちオコック海にして、其北隅にはベジンスク及びシジンスクの二小灣ありて、千島海流茲に發生す。

Lopatka Okhotsk Anndil East-Cape Nordenskjold Bear

シペリア沿岸

更に西南進すれば、黒龍江口にニコライエフスク港ありて、對岸には日露戦争の結果、其南部我領有に歸したるサハレン島あり。大陸と相分つに間宮海峡を以てす。又島の南にはアニツ灣ありて、灣内にコルサコフ港あり。サハレン島の西南は即ち日本海にして、朝鮮に近くペテロ大帝灣あり。灣内にはロシア東洋唯一の良港たるウラヂポストクあり。

カムチアツカ半島 アジア大陸の東北に突出せる一大半島にして、ベーリング海とオコック海との間にあり。長さ八百五十哩、幅廣き所二百八十哩、人口凡そ七百萬餘あり。本半島のロシア領に歸せしは十七世紀の末にして、千八百五十五年より沿海州と稱せり。半島内火山頗る多し。最近に至り露人リヤブチンスキー氏は露國地理協會と合同して此の半島の探検に着手せり。

ベーリング海峡(白令) 北氷洋と太平洋との咽喉を扼せるものにして、シベリアの東岬とアラスカ半島の

北氷洋と太平洋との咽喉を扼せるものにして、シベリアの東岬とアラスカ半島の南に向ひ、ルスキー島其口を扼せり。港内水深く又廣くして、ロシア東洋第一の軍港たるのみならず、ウズリ鐵道の終點として、世に知られたり。此地は千八百六十年の創設なれども、貿易上重要な位置にあるを以て、後來愈々發達するの傾あり。(都會の條參照)

ベーリング海峡(白令) 北氷洋と太平洋との咽喉を扼せるものにして、シベリアの東岬とアラスカ半島の南に向ひ、ルスキー島其口を扼せり。港内水深く又廣くして、ロシア東洋第一の軍港たるのみならず、ウズリ鐵道の終點として、世に知られたり。此地は千八百六十年の創設なれども、貿易上重要な位置にあるを以て、後來愈々發達するの傾あり。(都會の條參照)

Behring East Cape

Peterpavlovsk

Kamtchatka

Korsakovsk

カムチアツカ半島

ビオートルバプロブスク港

ウラヂポストク港

ベーリング海峡

間宮海峡

沿岸の諸島

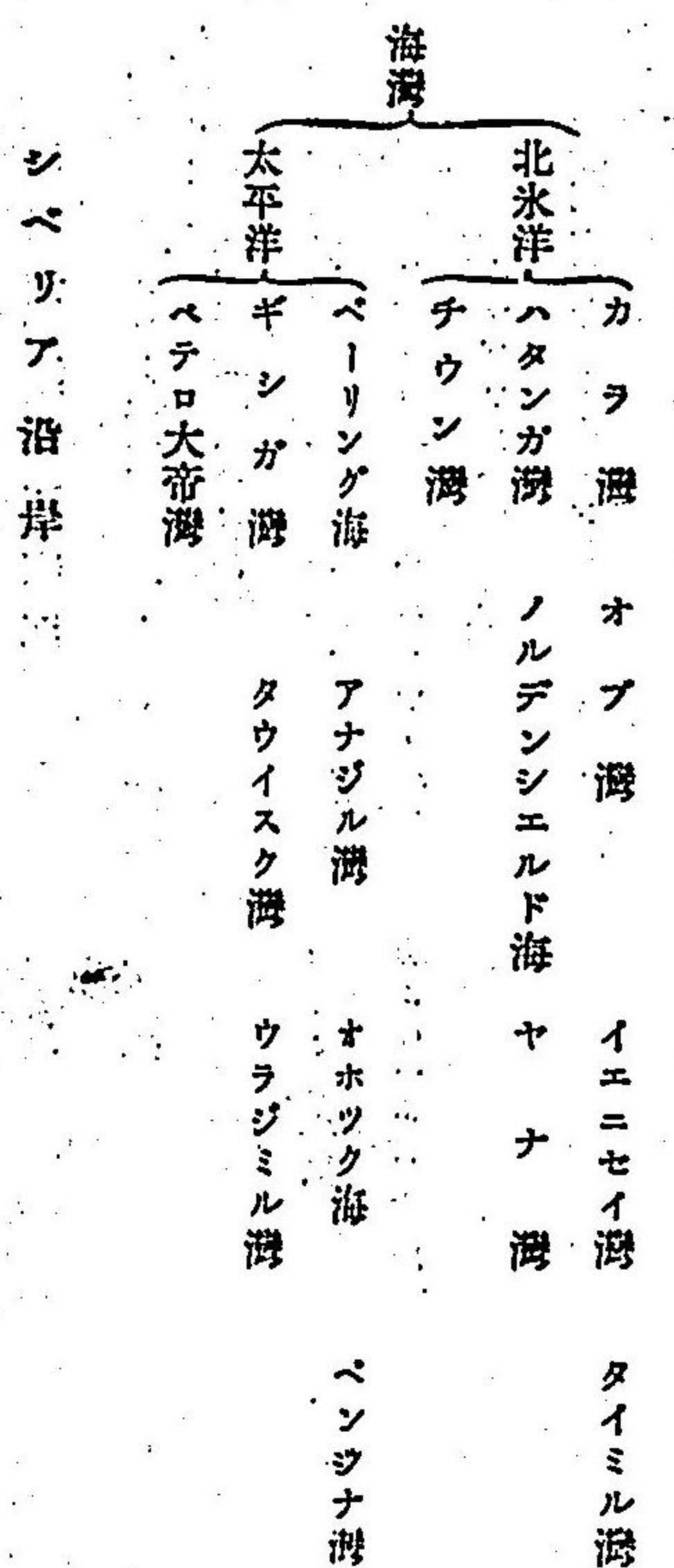
沿岸の漁産

にして、よりて以て此名を附したるものなりといふ。或はいふ本海峡は千六百六十八年、コサツク人デジネフの風に見たりしものなりと。

間宮海峡 一に韃靼海峡ともいふ。西曆千八百八十八年文化五年本邦人間宮倫宗氏の始めて海峡なることを發見したる所たり。倫宗は當陸の人にして、松前奉行の命を受け、サハレン島の探検に従ひ、又單身シベリアに入りて、其風土人情等を詳察して歸朝したる人なり。

沿岸の諸島 沿岸には屬島頗る多し。中にもベーリング海中に横はれるコマンドル島及びオコック海中に横はれるシャントルスキ島等は殊に有名なるものなり。コマンドル島附近には殊に海獣の群集盛なり。

沿岸の漁産 オコック海及びベーリング海峡等は、魚族及び海獣の巢窟にして、本邦人の出て漁獲に従ふもの多く、鯨・鰮・鰩・鰐・海馬等の産、殊に夥し。就中ベーリング海峡附近の如きは、スカンヂナビヤ半島沿岸地方と、ニューファウンランド附近と共に世界三大漁場の一に數へられ、海獣を産すること多く、又、オホツク海附近よりは、鯨・鰮・鰩・鰐・昆布等を出せり。



Tauisk Vladimir Penjna Gishiga Khantanga Tian

Shantarski Komandor

第四篇 露領亞細亞

海峽…… ロング海峽、ベーリング海峽、千島海峽、
 間宮海峽(タタル)

半島 北部 サモヤ半島、ヤルマル半島、タイミル半島
 東部 ロバトカ半島、チニクチ半島、カムチアツカ半島
 ムラビヨフ半島

岬角 北部 チエリウスキン岬、タイミル岬
 東部 ロバトカ岬、デジネフ(東岬)

島嶼 北部 スピッツベルゲン島(ワイス)、ニューシベリア群島
 アロン諸島、ウランジエル島

東部 カラギン島、コマンドル群島、シアンタル群島
 カラフト島、アスコリド島

Karagin, Spitzbergen, Yalmal
 Ascoria, Weisse Ayon

氣候 同緯度の他國に比して、寒威殊に酷烈なり。是れ此國が一面茫漠たる大平原にして、山岳丘陵の高低起伏するもの極めて少く、地勢概ね南より北に傾斜して、南方は温暖なる風を遮るる山岳に富み、北方は北氷洋の寒風を防ぐ支障なく、加ふるに西境にはウラル山ありて西南の風を妨げ、東方にはスタノポイ山ありて、太平洋より來る暖風を杜絶するが故なり。

世界の寒極

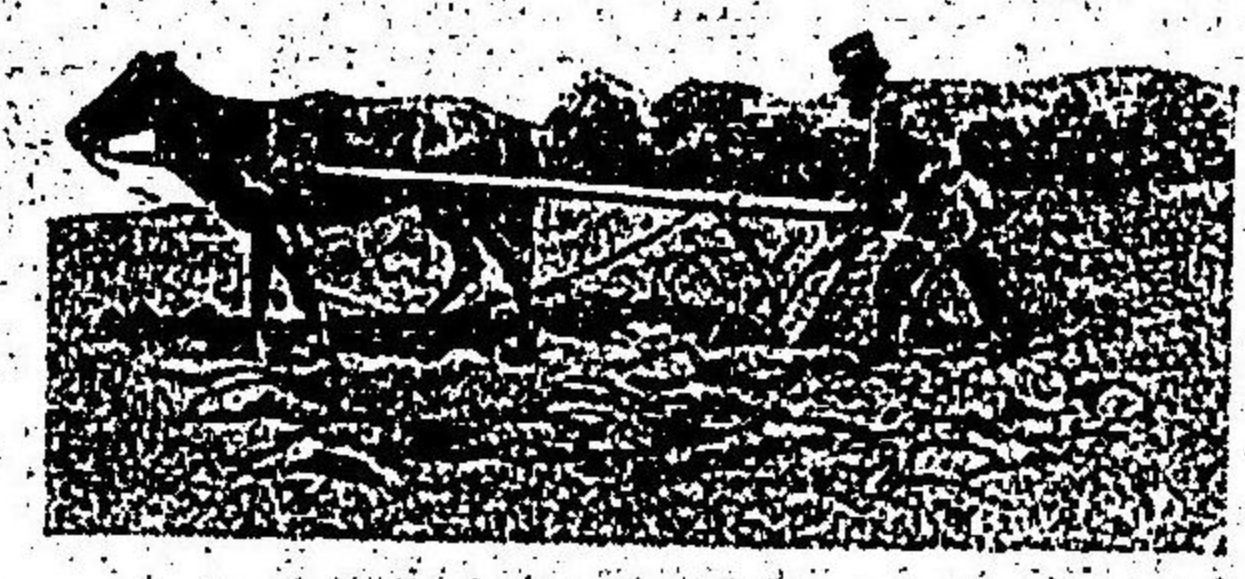
世界の寒極 大陸的氣候を有して、寒暑の差の甚しき、蓋し此地方ほど甚しきものはあらざらむ。而して春は好季なるも去來速に夏は短くて頗る暑し。即ち彼のベルホヤンスク府の如きは、極寒零下七十度、一月平均温度攝氏四十八度に下り、世界極寒の稱あるにも係らず、夏期は却つて四十度以上に達することあり。即ち一方北極地より寒氣烈しくして、他方赤道地方の低地よりも暑きは、頗る奇なる現象といふべし。

産物中、鑛物の埋藏多大なると、牧畜の繁盛なるとは、最もよく其名を知らるゝ所たり。即ちウラル山の白金を始めとし、バイカル湖邊の金並に銀・鉛等之に次ぎ、其他、鐵・銅・錫・

石炭等の鑛物は、各地方より産出せり。牧畜の重なるものは、羊・馬・馴鹿等にして、其他白熊・黑貂・黑狐・水獺・黃鼬等の野獸夥しく、土人巧に之を狩獵せり。

植物中、アムル江流域及び烏蘇里流域地には、到る所巨大なる森林ありて、松・柏・菩提樹・塞子樹等よく繁茂せり。而して彼の曠野帯に屬する、北緯五十五度以南にありては、大麥・小麥の産殊に多く、所謂「シベリアの穀倉」と稱せらるるものなり。

又、太平洋の沿岸は世界有數の好漁場にして、殊にベーリング海峽に於ける鯨・臘膾・臘虎・海豚・海馬等は普く世に知られたる所たり。



シベリア氣候

黒土地方 アルタイ山脈の北、オプ河の上流地方に所謂黒土地方なる肥沃の地あり、蓋し地味肥沃にして多くの有機質を含み、其の土色黒きが故に名づけられたるなり。此地方は最も麥類の産地に富み、且河流には魚族群棲し土民は之を捕へ氷漬となし遠く露京、セント、ペテルスブルグに搬出せり。



産業 シベリアの地たるや、氣候の變化甚しく、酷烈なるにも係らず、地味比較的肥沃にして農産物に富み、農夫は灌田耕耘の法を講じて、其收穫頗る良好なりと雖も、未開の地極めて廣大なり。又牧畜も稍盛にして馴鹿・綿羊・山羊・豚等多く、林業は森林地方の外樹種少く、且つ良好ならずといへども、猶所々に樺・新羅松・菩提樹等繁茂せり。林業に附屬して注目すべきは野生の狐・貂・栗鼠其他の毛皮獸に富めることなり。而して漁業は東北沿岸の海獸及び鱒・鱈等の漁利多しと雖も濫漁の結果として、較もすれば漁産の減少を來したるの傾向なきにしもあらず。

鑛業は白金・黄金・寶玉・貴石等の貴重品あるにも係らず、未だ採掘完備せず。遺利極めて多大なり。工業は極めて幼稚にして、一條のシベリア鐵道あるのみにして交通未だ便な

らず、且人口極めて稀薄なるが爲め僅に製革・製脂・煙草製造・毛布製造等を數ヶ所に見るのみにして、其他は殆ど云ふに足るものなし。

毛皮獸及び漁業 シベリアには約五十餘種類の毛皮獸あり、特に黒狐・貂・及び栗鼠は最も重要にして、栗鼠の如きは年々一千五百萬頭位つゝ捕獲せらる。又各河川及び湖沼には魚族甚多く土民は之を捕へて冷蔵して進んでテルブルグ府に輸送せり。



走快の道鐵アリベシ

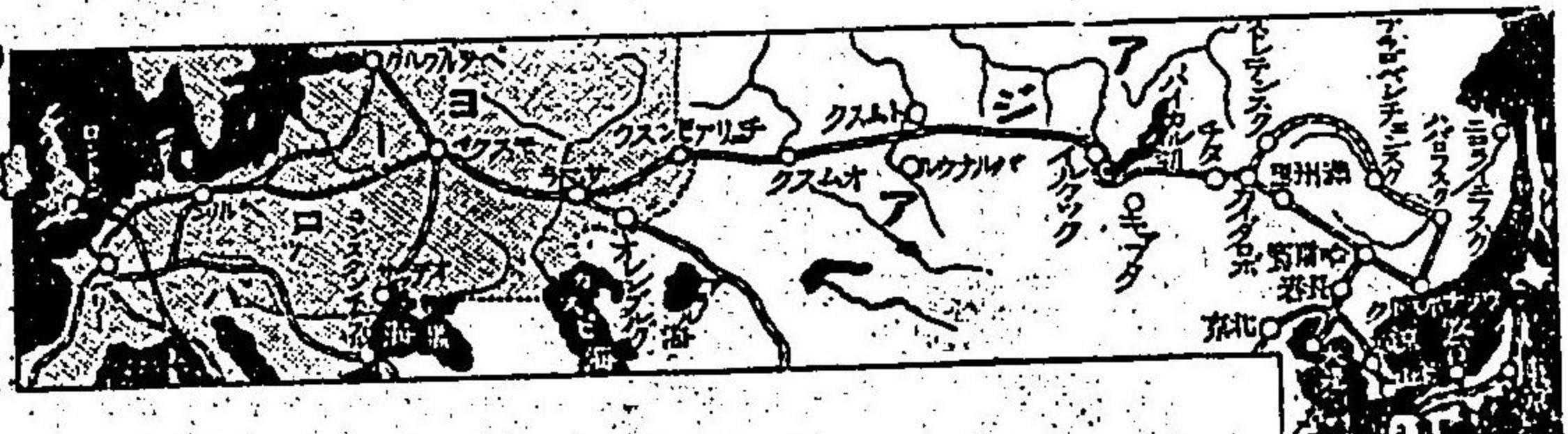
交通機關中、其最も整備せるものはシベリア鐵道にして、ウラル山下のチエリアピンスクを基點とし、オムスク・トムスク・クラスノヤルスクを経て、イルクツクに至り、バイカル湖廻避線によりて湖東に達しチタ及び滿洲線の分岐點たるオノン、並にシルカ河上のネルチンスク等を経て、アムル江の船運を利用し、沿海州のハバロフスクに連絡して、以てウラチポストックに至るものなり。而して其第二線は、オノンより東南に走り、アルグン河を越え、ハイラル・チチハル・ハルビン・ニングタ等を越えて、同じくウラチポストックに至るものなり。

其他の交通は、主として官道により、驛站を経て、馬車又は橇によるもの多く、橇は、犬

若くは馴鹿をして牽かしむるものなり。而して貿易通商路中最も名あるものは、オムスク及びシナ蒙古西部のコブドに達するもの、外、バikalのキアフタよりシナの買賣城・ウルガ・張家口等を経て北京に達するものなり。

陸路の外各河流及び湖水等の水路も近年次第に利用せらるゝに至り、特にオプ河の如きは船運最も大にして、其の支流トボル河岸のチューメン市の如きは、汽船の一大碇泊所にして貨物の集散活潑なり、一にシベリアのマンチヌターと稱せらる。又オビ、エニセイ兩河を連絡せる運河は一層舟楫の利を大ならしむ。(尙河流の記事参照)

シベリア鐵道 アシアとヨーロッパとを連絡して、商業上並に軍事上の設備經營を目的とし、茫漠たる原野を横斷して、敷設したるものにして、西紀千八百八十八年を以て之を決し、全千八百九十一年(明治二十四年天津事變ありし年)五月十七日露國現帝ニコラス二世陛下が、當時漫遊の歸途、親しくウラヂホストクにて之が起工式を行ひ、皇帝手つから第一礎石を置かれ千九百一十一年十月を以て竣工せり。本鐵道は最初アムル江沿岸を迂迴する筈なりしが、收支償はざることを發見せしかば遂に東清鐵道を敷設するに至りしなり。



シベリア鐵道

ロシア逕信省の公布によれば、シベリア鐵道の總延長哩數は七千七百八十三哩(一哩は九丁四十六間五尺)にして其内シベリア線三千四百四十哩、バイカル線千四百十八哩、烏蘇里線八百十二哩、東清鐵道二千四百十三哩あり而してロシア政府が今日まで支出したるもの、既に七億八千万留に達し、ウラヂホストクより急行列車による時は、其距離七千二百七十七哩にして、日數凡そ二週間を費し、以てペテルスブルグに達することを得べし。即我教習港より浦港を経て露京に入るに、大約二十日を以て可なりとす。

東清鐵道 ロシアが我帝國と支那との間に締結したる馬關條約に干渉し、我帝國より遼東半島を還附せしめたる報酬として、清國政府より得たる權利の一部として敷設せるものなり。而して本鐵道は滿洲の國境、マンチユリアよりハルビンを経て、ニコリスクに至るものと、一はハルビンより南下して旅順・大連に連続せしむるため、敷設したるものにして、日露戦争の結果、寬城子(長春)以南の本鐵道は、我帝國の領有に歸せり、之れ即ち我滿洲鐵道線とす。而してバルチック海沿岸に接せる。ペテルスブルグより旅順までは、その延長七千五百六十五哩に達すといふ。

シベリアの郵便 郵便組織は比較的良く完備し、氷雪多き北海の岸より、熱砂連れる西南草地に至るまで、又西は露國本土より、東はカムチャツカ半島のペトロボウウスクに至るまで、概ね驛馬の郵便配達夫ありて、迅速に郵便物を配達し、人民相互の通信に便せり。此の如きは蓋し新開地經營上注目すべき事項と云ふべし。

都會 シベリアの行政區劃は之を三部となすこと既に述べたるが如し。而して西シベリアのトムスク及びトボルスクの二州は、ロシア帝國内務省の直轄にして、東シベリアの中、イニセイスク・イルクツク及びヤクーツクの三州は、イルクツク市駐在の總督に、東シベリアの外バイカルの二州と、アムル江部のアムル江及び沿海州の二州とはババロプス

東清鐵道

シベリアの郵便

駐在の總督に隸屬するものなり。而して北樺太は別に一長官の治下にあり。

地名解

シベリアの地名には何々スクと稱するもの甚だ多し。スクとは我國に所謂町又は市と云へる露語にして、トムスクと云へばトムの町トボルスクと云へばトボルの町の意なり。

〔ウラヂボストク〕（浦鹽斯德） 一に金角港の稱あり。ウラヂボストクとは鎮東港の義なり。此國沿海州の首府にしてペテロ大帝灣に臨む。而して本



港は實にシベリア全土の沿岸に於けるロシア第一の貿易上、並に軍事上重要な地たるを以て、ロシア政府は、茲に多大の資力を投じて、諸般の經營をなせり。現今人口凡そ四萬餘にして、シベリア鐵道の終點に位し、又露國太平洋艦隊の根據地たり。

Vladivostok
Peter the Great

我帝國との貿易は一ヶ年凡そ百五十萬圓にして、此地に輸入せらるゝ重なるものは、米・蔬菜・果實・石炭・玻璃器等なり。（海岸の條ウラヂボストク港參照）

〔沿道〕 本港は千八百五十年、ロシア海軍少佐の始めて茲に上陸し、双頭鷲旗を翻したる所にして舊名海參威を改めてウラヂボストク（東方を鎮むるの義）とせしものなりと。後

千八百五十八年更に陸兵を上陸せしめ、八月清國と愛琿條約を結び千八百六十年十二月十四日の北京條約によりて、此地全く露國の有となれり。

〔本港の價値〕 本港は幅一、二町。長さ拾餘丁水深約一百尺、四五千噸の艦船數千隻を泊し得べく、沿海の地は岬角に富み港口にはルスキ島あり、最も防備に適當し、軍港としてはシベリア第一の稱あり。然れども氣候頗る不良にして、夏は降雨多くして濃霧海面を蔽ひ、冬は結氷數ヶ月に涉りて、碎氷船を用ふるにあらざれば通航し難し。而して商工業は漸次進歩しつゝあれども、多くはドイツ人の手になり。又、支那人、朝鮮人猶太人の來り住せるもの少からず。

鐵道露京に通じ海底電線我長崎に來れり。主なる建築物には、鎮守府、海兵團、參謀局、船渠、倉庫、諸學校病院等あり。

ニコリスク。アムル江の北岸にありて、海産物の市場たり。此地もとは軍港なりしが、千八百五十四年、英佛聯合艦隊の砲撃後、ウラヂボストクに移されたるなりといふ。

〔ハバロフスク〕 ウラヂボストクの北、凡そ七百露里にあり。アムル江と烏蘇里江との會合點に位せり此地は近く千八百五十八年の創設に屬すれども、交通至便の要衝に當り、將

Khabarovsk Nicolisk

ムラビヨフ

ニコラエフ
スク



像肖の其び及碑念紀のフヨピラムるなクスフロバハ

來の貿易市場として、世人の注目する所なり。

ムラビヨフ 露國の東方侵略に最も功勞ありしはムラビヨフ將軍なり。將軍は千八百四十八年東部西比利亞總督となりてより、頗に滿洲侵略を計劃し、千八百五十八年(安政五年)遂に愛琿條約を結びて滿洲の東北半部を占領せり、今ハバロフカに建設せられたる銅像はその偉業の紀念なり。

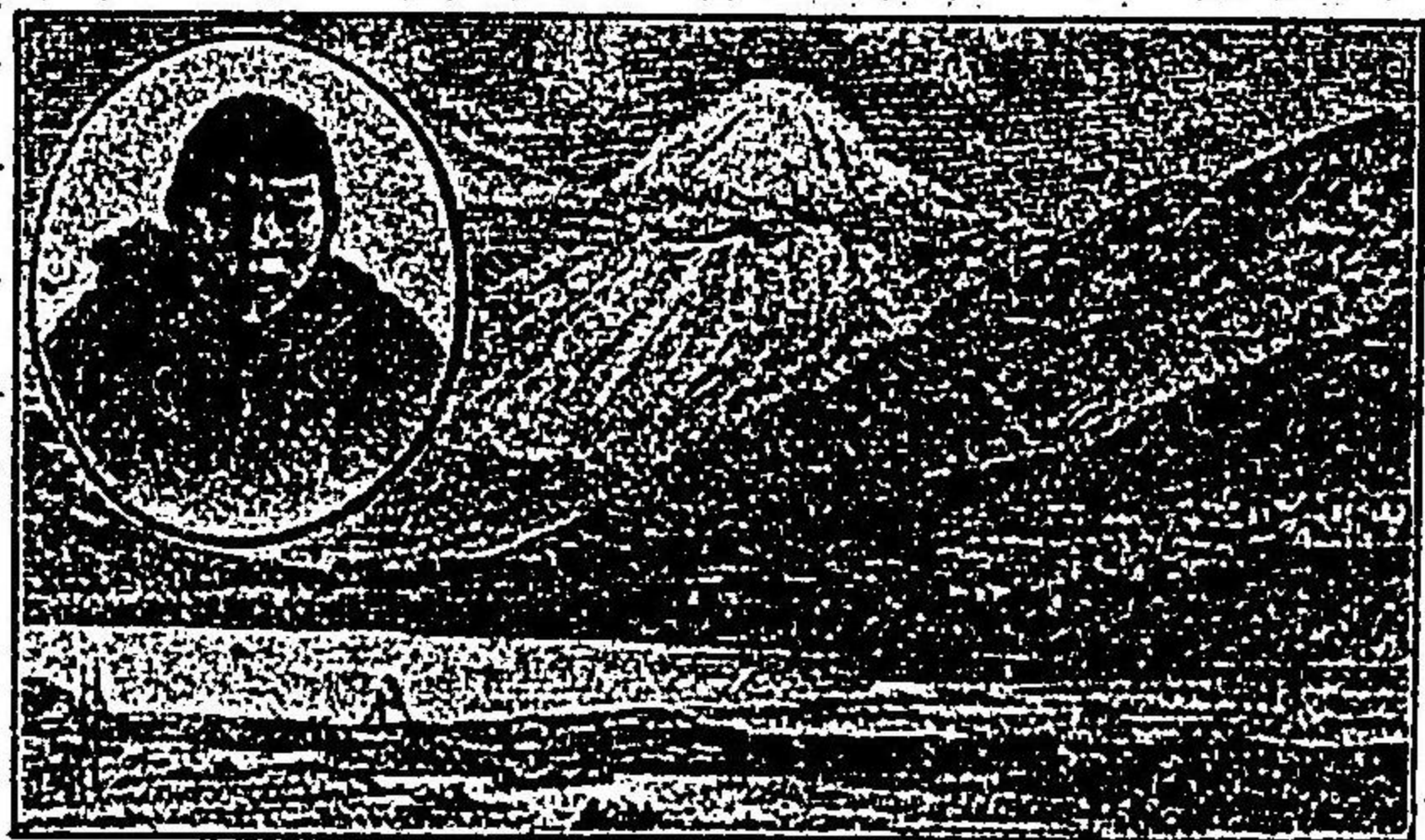
ニコラエフスク アムル河口に位し江を上下する貨物の輻輳するの地なるを以て知られたり。

△此他 アヤン・オコック等あれど、皆一小都たるにすぎず。

《ペトロパウロフスク》之れペテロとポールとの坐せる港と云へる名なりカムチアツカ半島の東南岸に於ける良港にして、アワチア灣に瀕し、毛皮の集散地として知ら

Petroawlowsk Ayan Ochotsk Nicolaevsk

れ、又城塞ある要港として名高し。(海岸の記事参照)



觀外の港クスフロバルトーオビビ及人士カツヤチムカ

《ブラゴウシチェンスク》アムル江州の首府にして、アムル江の北岸に臨み、豊饒なる農業の中心地に位し、商業頗る盛にして、滿洲の愛琿と相對せり。

人口凡そ四萬餘、市街頗る宏壯なり。

此地近く北清事變に際し、滿洲入旗兵が義和團と結び、砲撃を始めたるの地なり。

アルバジン アムル河畔にあり。史上に名高し。

《ネルチンスク》バイカル州にあり。アムル江の一支流シルカ河畔に位し、砂金及び銀の産出を以て知らる。此地は西紀千六百八十九年、清國とロシアとの間に所謂ネルチンスク條約を結びたるの地たり。

ネルチンスク條約 清の聖祖は意を北邊に用ひ、千六百八十五年、彭春をアルバジンに遣はし、一度ロシア人を逐ひしが、再び來りて其意を奉せざりしかば、聖祖はオランダ人を介して、書をペテロ一世に送り、兩國の全權大使、ネルチンスクに會して條約を締結せり。此條約によりて、清國はロシアの南侵に一大挫折を與へ、スタノボイ

ネルチンスク條約

アルバジン

シベリア 沿革

一八七

Albngin Blugoveshchenensk

ストレチエ
ンスク

チタ

カイダロ
ヴ

キヤク
タ

山脈・ケルベチ河・アルゲン河等を以て兩國の境とし、且つアルバチンを設けて退去することとせり。
ストレチエンスク シルカ河の南岸に位し、人口凡そ一萬、本邦勞働者の多き所たり。又、鐵道の終點とし
て知られ、工業盛なり。

チタ、バイカル州の首府たり此地もとはコサク(哥薩克)兵の一小村落にすぎざりしが、シベリア鐵道の中途に
當り、次第に繁昌するに至れり。

カイダロヴオ、チタの東凡そ百餘路里にあり。シベリア鐵道と東清鐵道との分岐點たり。而して將來愈々發
達するの傾向あり。

キヤクタ(恰克圖) 清國の買賣城と相距ること僅に一木柵にすぎず。支那の茶及び毛皮の貿易盛なる所な
り。

此地北京をさる六百七十哩、ペテルブルグをさる四千二百哩に位し、商業上軍事上重要なる地たり。

《ヤクツク》 ヤクツク州の首府にしてシナ河の上流に位し、東部シベリアの大都たり。本府
は十八世紀の末に設けたるものにして、市街頗る廣大なれども、人口僅に一萬にすぎず。
此府往昔はヤクト人の住みたる所にして、彼等が巨象の牙骨を以て製作したる器物は、
實に其特産として世に知らるゝ所たり。
貿易品中、輸出最も多きは、毛皮・獸脂等にして、輸入品の重なるものは、茶・砂糖・麥粉
等なりとす。

Werchojansk Yakutsk Kinehta Kaidalovo Chita Storechiensk

ベルホヤ
ンスク

沿革

ニジニウ
ジ



イルクーツクの市の街景

ベルホヤンスク ヤナ河畔北極圏附近にある寒極として名を知られたり。(氣候の條參照)
《イルクーツク》 イルクーツク省の首府にして、人口凡そ五萬餘。東部シベリアの中心市
にして、シベリア第一の大都たり。此地はウラヂポストクとモ
スコとの中間に位し、シベリア及び滿洲經營上政治並に經濟
に關して必要なる地點にあるを以て、市街の設備大に完成せる
ものあり。貿易亦頗る盛にして、主として貴金屬毛皮等の賣買
多し。

Irkutsk

沿革

此府はバイカル湖畔なるアンガラ河の左岸にあり。西紀千六百五十
二年、ロシア商人の冬期居住場を設けたるに始まり、爾來次第に發達し千六百八
十六年には既に府と稱する位置に進み毎週一回北京行郵便物は此の地を出發し恰
克圖を経由して送達せらる。

ニジニウジンスク イルクーツクの西北に當り、鐵と金との産出多きを以
て知られたり。

《クラスノヤルスク》 イェニセイスク省の首府にして、イェニセ

Nishni Uainsk Krasnoyarsk

イ河の上流に位し、千六百二十八年の創設なれども、河畔の砂金發見以來、市街は一時に

シベリア沿革

發達するに至れり。食料・毛皮の集散地たり。

ミヌシンスク

ミヌシンスク クラスノヤルスクの南方、ミヌシン河畔にあり。附近の平野は農業盛なる地方として世に知られたり。

東方カンスクも亦耕種盛に行はれ、共に獸脂・石鹼等の製造盛なり。

ミヌシンスク附近の曠野よりは、男女の石像・象形文字の彫刻せる岩石等歴史上の遺物多し。

ツルハンスク ツルハン河とイニセイ河との合流點にあり。毛皮の集散地として知られたり。

イニセイスク 此府は千六百十八年、コサック兵のために占領せられたる所にして、十八世紀の末頃までは、シベリア貿易の中心なりしが、今は砂金・鐵・毛皮等の賣買によりて、僅に其繁榮を保つのみ。

ウルフハンスク

イニセイスク 此府は千六百十八年、コサック兵のために占領せられたる所にして、十八世紀の末頃までは、シベリア貿易の中心なりしが、今は砂金・鐵・毛皮等の賣買によりて、僅に其繁榮を保つのみ。

イニセイスク

《トムスク》 トムスク州の首府にして、人口凡そ六萬五千。西部シベリア貿易の中心地にして、トム河の水道に沿ひ、之より以東の農産物及びアルタイの鑛物悉く茲に集注せり。市内には巨大なる建築物多く、皮革・獸脂・石鹼等の製造極めて盛なり。

Tomsk

此府は千六百九十年、コサック兵のために征服占領せられたる所にして、シベリア鐵道は南方タイガを通過すれども、別に鐵道を敷設し來りて、以て其便を圖れり。千八百三十年附近の地に金鑛發見せられてより特に注目せらるるに至れり。

ビトスク オビ河畔に臨み、人口凡そ六千。往昔甚だ繁盛なる都なりしが、ロシア商人の土人を虐待せしことなどありて、大に發退せり。

Beesk

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

ビトスク

チヌーメン
クニリンス

《オムスク》 西部シベリアの首都にして、人口凡そ四萬餘。イルチシユ河の上流に位し、附近農産物を出すこと多く、又牛・羊等の牧畜盛なるを以て知られたり。

Omsk

此府は千五百八十七年、コサック兵の創立したるものにして、それ以前即ち支那唐代にありては、韃靼酋長の宮殿ありしが、之等は悉くエルマークのために破壊せらるるに至れり。

チヌーメン トボル河の中流に臨み、皮革及び毛氈等の製造盛なり。此府もとはシベリア鐵道の終點にして、貨物の輻輳しかりしが、今は其南方クルガンを通するがゆゑに、繁榮之に奪はれたる例あり。

チヌーメン チヌーメンの北八十哩にあり。昔て韃靼酋長の都せし所にして、土人は之を成吉思汗城と稱し其建つる所なりといへり。

チヌーメン

チヌーメン

チヌーメン

チヌーメン

チヌーメン

チヌーメン

シベリア 沿革

〔カラフト島〕

ロシア人のシベリア侵入を企てるヤネルチンスク條約は其南下を許さざるがゆゑに、遠く太平洋沿岸に於て良港を得んとし、アムール河口の状況を知らんとせしが明瞭ならず。斯くて千七百八十五年、フランスの探検家ラ、ペルーズ氏は探検の結果、滿洲の一部なりと報告し、千七百九十七年、プロトーン氏も亦全探の報告をなせり。又千八百四十年、ブーチャチン氏の提議に基き、タタル海峡に入りしも、南方よりはアムール河口に達するを得ざりき。

然るに千八百四十七年ムラビエフ將軍の東シベリア總督となるや、之が探検をネベンスキー大佐に托したるに、其部下コサクウイチなるもの、剛膽と、不屈不撓との調査とにより、大陸との間には一海峡あるを發見せり。時に千八百四十九年なりき。次ぎてボシニヤツク氏は島内を探検して北部を占領し、千八百五十三年、アムール河口に屯營地を設けたり。而して愛理條約・天津條約・北京條約等によりて、ロシア多年の宿願成就して、滿洲の北部並にカラフトの一部は占領せり。

之より先き、本邦にて、此島を探検せしは、慶安四年(一六五二)松前藩執政傳右衛門を嚆矢とすべし。露人の探検に先だつこと實に百數十年の昔なりき其後幾度か探査せしが遂にロシアがカラフトの北部より南下したるを聞き、文化五年(一八〇八)間宮林蔵を派して、前後二回の探検を遂げ、カラフトの二島をなせるを確めたり、之れ殊に特筆大書すべき所にして露人の發見に先だつこと實に四十一年前なり。斯くて嘉永六年(一八五三年)ブーチャチンが長崎に來り、又安政二年(一八五五年)には下田に來り、更に安政六年(一八五九年)にはムラビエフが品川に來りてカラフトの境界問題を提出せしが、要を得ず。斯くて文久二年(一八六二年)我使節は、ヘテルスブルグに至りしも決する所なく、慶應三年(一八六七年)提出したるも、亦不調に終れり。明治八年に至り、(一八七五年)ロシアと我邦との間にはカラフトと千島との交換問題起り、全島を擧げてロシア領

Pujintine La-perouse
Muravief Broughton

經緯度上の
位置
本島の名稱

となし千島三十二島を、我領となせしが、日露戦争の結果、明治三十八年(一九〇五年)八月我軍の占領に歸し翌九月のポーツマス條約により、北緯五十度以南を我大日本帝國の所領となすに至れり。
〔位置〕 カラフト島はオホーツク海の西方に横はれる大島にして露領と我領とは、北緯五十度に於て接觸し、西はタタル灣・間宮海峡・サワレン灣等を隔て、大陸に對せり。島の全長は凡そ八十餘哩、幅凡そ百哩ありて、面積は未だ精密なる測量を経ざるも全島凡そ二萬九千餘方哩あり。其内ロシア領に屬するもの一萬六千餘方哩にして我帝國領土は約一萬三千餘方哩とす。

經緯度上の位置 南端西ノトロ(近藤)岬は北緯四十五度五十二分(宗谷岬の北二十三哩)にして、北端エリサベス岬は同五十四度二十二分に當り、西端は東經百三十九度二十九分より、東端は百四十四度五十五分に至れり。本島の名稱 サハレンはもとアムール河下流の名稱にして、ロシアの占領後、其意義を擴充して、此語を使用するに至りしものにして、イギリスにてはサガレン(薩哈連)又はサガリンと稱し、我國にては古來カラフト(唐太・樺太)と稱し來れり。精しくはカラフト、モシリ(アイヌ語にて低く見ゆる湖の地方の義)と云ふべきなり。而して天明五年(一七八五年)の書物には滿洲の半島とせり。文化五年に至り間宮林蔵に依りて始めて島なることを知れり。

〔住民〕 住民は其數凡そ四萬人ありて、ロシア人・土人・外人の三者あり。其内ロシア人最も多く、主として流寓人たり。又土人には北部の東岸にオロク人あり、同西岸にギリヤク人あり、又、南部にはアイヌ人あり、ポロナイ河近傍にはツングース人等あり。

〔地相〕 島内至る所山岳丘陵に富み、平野と稱すべきものは、北部サハレン並にアムール川近傍にあり。位、置、住、民、地、相。

Saghalien Sakhalien
Saghalin

ル兩灣に濱する所にあるのみ。然れども山岳の殊に巨大なるものなく、西岸に於けるクト
ウスバルは千二百米ありて、東岸に於けるスチーレルは千五百五十米ありて島中の高峯た
り。又、河流は概ね南北の方向をとり、タイム河最大にして長さ百八十哩、アスチナ灣に
注ぐ。ナビット河は之と並行すれども著しからず、ナビル灣に注げり。

沿岸 一般に砂濱多くして絶壁少く、屈曲出入甚だ稀なり。其内著しきものを舉ぐれば港灣にはバイカル灣あり。
岬角にはマリア岬・エリサベス岬あり。

弱島面積凡そ二百三四十方哩あり。其中チウレニ(海豹)島・トトモンク島等稍々大なり。

氣候 氣候は東部は一般に寒冷なれども、西部は稍々温暖なり。而してアム
ール河口近海の如きは、十一月より六月に至るまで氷結すといふ。雨量に關しても、東
西大に其趣を異にせり。概して夏は降雨多く、殊に東岸は濃霧襲來して、曇天少からずと
いふ。

富源 は何れも天産物にして植物に樺・白楊・楡・槭等あり。動物には熊・狸・白狐・黒
狐・狼・鹿・麝・黑貂・銀鼠・栗鼠・獺・臘腸獸・海豹・鯨・鵝鴨・鴈・鯉・鮭等あり。又鑛物には石
炭・琥珀・石油・砂金・銅・銀等なれども、採掘未だ盛ならず。

産業 産業中最も盛なるは漁業にして、鱈・鮭・鯨・臘腸獸等あり。又森林に至る
之につきては鱈・鮭・鯨・臘腸獸等あり。

所に繁茂すれども、未だ島内に於ける薪材、若くは建築用材を充たすに過ぎず。農業は極めて不振の状況にありて、
僅に麥類・蕎麥・馬鈴薯、キアベツ等を産するのみ。而して牧畜はロシア人の牛・馬・豚・鶏・家鴨・鶩等を始めとし、其他
北部にては犬若くは、馴鹿を飼育せり。鐵業は單に石炭を採掘するのみにして、商業亦微々として振はず。要するに
一般に未開にして未だ發達を遂げたるものなし。

アレクサンドロスク 西岸の北部に於ける名邑にして、千八百八十年に新市街を設け、
八十四年より軍務知事茲に駐在せり。人口一萬五千餘、市街は丘陵によりて建てられ、諸
般の設備稍々整頓せり。

ドウエ タタル灣に臨み、石炭・革類の輸出盛なるを以て知らる。人口凡そ二三千あり。
ルイコフスク タイム河の流域に於ける一小市街たるを以て知られたり。

樺太境界標の構造 樺太に於ける日露兩國の境界標には、天測境界標と單に境界標との二種あるよしなる
が、天測境界標は第一より第四に至る天測點に建立するものにして地下約二メートル四八の穴を穿下
け、環め天測標の移動又は紛失等に備へ、之に相當の土を覆ひたる後、其上を地面上に達するまで、人造石にて固
め、其土層に約一メートルの高さに土を積み、其上丈け零メートル五二の標石をおき、日本に面したる方には、浮彫
り十六片の菊花章の上部に、大日本帝國の五字、同章の下部に當りて境界の二字を表し、露國側の方は、同章の
上部に露國、下部に年號及境界の露國文字を誌し、又其側面には一方に天第何號明治 三十九年と二行に
方は露國文字にて、單にアストル第何號と表する由、而して單純なる境界標は、同様式なるも、側面の文字に天の字
を欠き、且つ形狀之に比し、稍々小なるものなりといふ。

シベリア沿岸、氣候、産業

ドウエ
ルイコフス
ク
樺太境界標
の構造

(コマンドル諸島) ベーリング及びメドニの島よりなり、カムチャツカ半島の東沖九十浬にあり。此附近臘轔獸の群集地にして我占守島より距離頗る近し。ロシア國にては夙に軍艦を派し、海獸の生殖所を保護せり。若し此島を占領する時は、ラッコ・オットセイ等は無限に捕獲するを得べしと云ふ。

ベーリング島 亞細亞、亞米利加兩大陸の間を絶てるベーリング海峡を發見せしベーリング氏は千七百四十年六十一才を以て遂に此の島に死せり。

二、ロシア領中央アジア附ヒバ及ボハラ (Russian Central Asia (Khiva and Bokhara))

此地はもとベルシヤ人の住みたる所なりしが、六世紀の中頃、トルコ人の侵略に逢ひ、其後一旦チムル(帖木兒)に征服せられたり。されど依然遊牧の域を脱せず、酋長各所に割據して、各其領土を支配せしかばロシアは此地方に砂金ありとの虚報を信じて其利を探らんとて益々其國南策を進めて、千八百三十三年、ヒバの酋長を降したるを始めとし、次第に其領土を侵略して、終にバミール高原に出て、インドを覗ふこと虚日なく、イギリスの之に備ふるもの、又渺少にあらざるなり。

位置 アジア大陸の西北部にありて、北は西部シベリアに接し、東は天山及びアルタイ山等によりて支那の新疆及び蒙古等と境を連ぬ、南はベルシヤ・アフガニスタン及びバミール高原等によりてインドに隣し、西はカスピ海・ウラル山・ウラル河等によりて、ヨ

Caspian
Ural

ロッパと境せり。面積凡そ千五百萬方哩、我日本全領土の數倍に當れり、人口凡そ五百萬と稱せらる。

區劃 ロシア領中央アジアは其名は實に中央アジアなれども、實際は中央アジアの一部を包含せるに過ぎず、故に所謂地理上の中央アジアに非ずして、政治上アジアの一地方を指せるものなり。

此國は政治上分ちて九管區となし、二總管によりて之を統轄す。即ち北半はステップノエ總管管區に屬し、南半はトルキスタン總管の管區に屬す。

ステップノ
管區
トルキスタ
ン管區

(一) ステップノ管區 ウラルスク・ツルガイ・アクモリンスク・セミ巴拉チンスクの四州之に屬す。

(二) トルキスタン管區 セミレチェンスク・フェルガナ・サマルカンド・シル、アム兩河地方・トランスカスピアン地方の三州二地方之に屬す。而してヒバ及びブハラの管轄亦之に隸屬せり。

住民 面積に比すれば住民の數極めて少し。人種はトルコ種最も多くして、イラン・スラブ、アラビア等、其種類頗る雜多なり。

土民は概ね遊牧を事とし、駱駝を使役して通商を營めども、中には近年農業に従事するもの、次第に増加するに至れり。

地相 東部及び南部には高峻なる山地ありて、地勢それより次第にカスピ海に向ひて低下せり。而して東南隅に於けるバミール高原は、其高度平均約六千米に達するにも係らず

中央アジア 位置、區劃、住民、地相

Stepro oye
Turkestan

カスピ海の如きは、海面下實に二十六米にあり。

此地東部及び南部に於ける山間の豁谷を除けば、全面殆ど不毛の地にして、北部はステツ草原に屬し、僅にキルギス人を支ふるに止まり、東部はアラル海とカスピ海とに挟まれたる、海拔百五十米のウスト、ウルトの荒漠たる臺地を始めとし、カラクム・キシルクム・アックム等の沙漠地ありて、耕作に適するもの極めて少し、但シルダリア、アムダリア沿岸の地方には所々に運河を設け巧に土地を利用せり。

バミール高原 世人所謂「世界の屋根」と稱するものにして、アジア山脈の中樞をなし、諸山脈之より車輛狀をなして支出放散せり。長さ三百八十哩、幅百二十哩乃至百五十哩、面積凡そ三萬方哩ありて、平均高度殆ど六千米に達す。

此地三面包むに恒雪線以上の山岳を以てし、東方ムスタフ(葱嶺)最も高し。而して地勢は漸次西方に向つて傾斜し、内部は山脈縦横に走りて、其間には平坦なる溪谷も少からず。

バミール高原の探検者 千八百三十八年、ワード氏アフガニスタンより入りて此地の探検に従事したる以來、漸く世人の注意を惹く所となり、千八百七十六年には、ゴズレンコ氏、更にアライ川を越えて茲に來り、稍々精細なる調査を遂ぐることを得たり。斯くて千八百八十九年以後、漸く政治上の問題を惹起するに至れり。

バミール事件 此地方に於ける英露兩國勢力範圍の問題困難なりしが一八九五年の協約にて事定まれり。アライ山 天山より分れてシル河の上流に沿ひ、バミール河の高原の北部を西走してアラル海に没するものなり。延長凡そ二百五十哩。東部は高峻を極むれども、西部に至るに従ひて次第に低下せり。

Alai-Tagh

Pamir Karakum Kijssil-kum Ust-Urt Steppes Akkum

バミール高原の探検者

バミール事件
アライ山

キルギス曠野

キルギス曠野 北緯四十度以北に於ける、ロシア領中央アジアの全稱にして、渺茫たる草野の外、又滿目一木の認めべきものなし。而してキルギス人故に飄泊して羊及び駱駝の遊牧を營む。

〔河流及湖沼〕 域内湖沼頗る多く、皆無口湖に屬せり。而して數多の河流は概ね茲に注ぐがゆゑに、所謂内陸流域に屬するものなり。河流の重なるものは、アム・シル・イリ・イルチシ等にして、湖沼の重なるものは、カスピ・アラル・バルハシ等なり。

〔アム河〕 即ちアムダリア河は、古名をオクサスといふ。源をバミール高原に發し、水源三派あり。概ね西北の方向に流れ、下流タルヂク・ヤニス等に分れてアラル海に注ぐ。流程凡そ千五百哩。中央アジアに於ける大河にして、灌溉・舟楫の便共に稍よろしく、殊に下流百二十餘哩は汽船の交通極めて自在なり。本河は現今アラル海に注ぐといへども、往時は裏海に注ぎたるものにして、其痕跡今猶存在すといふ。

〔シル河〕 即ちシル、ダリア河は古名をヤクサルトといへり。源をアライ山に發す。アム河と共に中央アジアの大河にして、西流してホーシエン下を過ぎたる後、急に西北に向ひてアラル海に注ぐ。流程凡そ一千哩。下流三百五十餘哩の間は、舟楫・灌溉の益極めて大なり。故に世呼んで「トルキスタンのナイル河」と稱す。

Syr-Daria

Amu-Daria

Kirghiz-Steppe

イリ河
イルチン河

イリ河 源をシナの天山北路に發し、流れてバルハシ湖に注ぐ。
イルチン河 源をアルタイ山に發し、流れてオビ河に合流す。

〔カスピ海〕(裏海) 一種の海迹湖にして無口湖に屬し、鹹味を帶ぶ。長さ四百四十哩、幅百二十哩乃至三百五十哩、面積凡そ十七萬五千方哩、我國面積と畧々匹敵せり。本湖は世界第一の大湖にして、水面は外海より低きこと約二十六米、水深は北部六七百米、南部九百米あり。然れども中部は水底山脈の横ざるものあるが如し。而して本湖はヨーロッパ第一の大河たるボルガ河を始めとして、ウラル・エムバ・テレンク等の注入するものあれども、其湖面は次第に縮小しつゝあり。又海岸は東部に於て殊に屈曲し、島の著しきものにチェレンケンあり。而して本湖は古來交通上に便せられしこと少からず。

〔アラル海〕(島の海) 無口湖にして海迹湖たることカスピ海に同じ、カスピ海の東方凡そ百五十哩にあり。長さ三百五十哩、幅百五十哩、面積凡そ二萬六七千方哩最深六十八米、平均十六米なり。本湖は海面より高さこと凡そ四十八米日光の蒸發速なると、東北風の砂を捲きて砂塵の堆積するものとありて、水底頗る淺きに至れり。殊に其東部及び南部に於ては甚しく、平均水深十乃至十五米なり。アム・シルの兩河茲に注ぐ。

Arnl

Caspian-sea Iltish Ili

イシクル湖
(熱海)
其他の湖沼

〔バルハシ湖〕 支那人は呼んで西海といへり。長さ三百三十哩、幅六乃至五十哩、面積凡そ八千方哩にして、數多の河流之に注入すれども、無口湖なるがゆゑに、鹽分年々増加して、今は鹹味頗る強く、平均水深約二十米あり。本湖はカスピ海よりは、次第に階段状をなして高隆し、海面より高さもの實に二百四十米にありといふ。イリを始めとし、其他の六流之に注入す。

Balkhash

イシクル湖(熱海) バルハシ湖の南方、天山山脈中にあり。鹹湖にして是亦次第に乾涸せんとしつゝあり。
其他の湖沼 カスピ・アラル・バルハシ三湖の外、猶其附近には無数の小湖沼あり。北邊一帶の地は、往時黒海と共に深く内地に滲入したるものなりしが、其後土地の隆起と氣候の乾燥とにより、水而次第に乾涸縮小して現今に至り所謂海迹湖として残存せしものなり。

Issikkul

〔氣候〕 土地荒原に屬し、砂漠多きがゆゑに、寒暑共に兩極端に失し、夏は炎熱殊に甚しく、冬は寒氣殊に酷烈にして、サマルカンドに於ては、寒温の差七十五度に及べざるものあり。而して之をシベリアに比すれば稍温和なれども、冬季河湖の水結は猶數ヶ月に達す。又、雨量は一般に寡少にして、南部・東部の山岳地方には稍多けれども、キジルクム(紅砂地)・カラクム(黒砂地)等の沙漠には、終歲一滴の降雨を見ざることもありといふ。

産物中牧畜は此國の重要なものにして、羊及び山羊の屬最も多く、實にキルギス諸部族

の重要財産たり之に次ぎては駱駝馬等の飼養にして、其他の家畜も少からず。鑛物には、
 鐵・石炭・食鹽・鉛・硫黃等なり。
 農産物は灌漑便利にして、地味肥沃なる溪谷にありて、穀類及び烟草を産し、其他毛織
 物・革細工等の工藝品をも出す。

産業

産業 草原には牧場あり濕潤肥沃の谿谷には、棉花・穀類・生毛・皮革等の輸出品あれども要するに物産稀に生産
 力乏しきの地なり。

都會

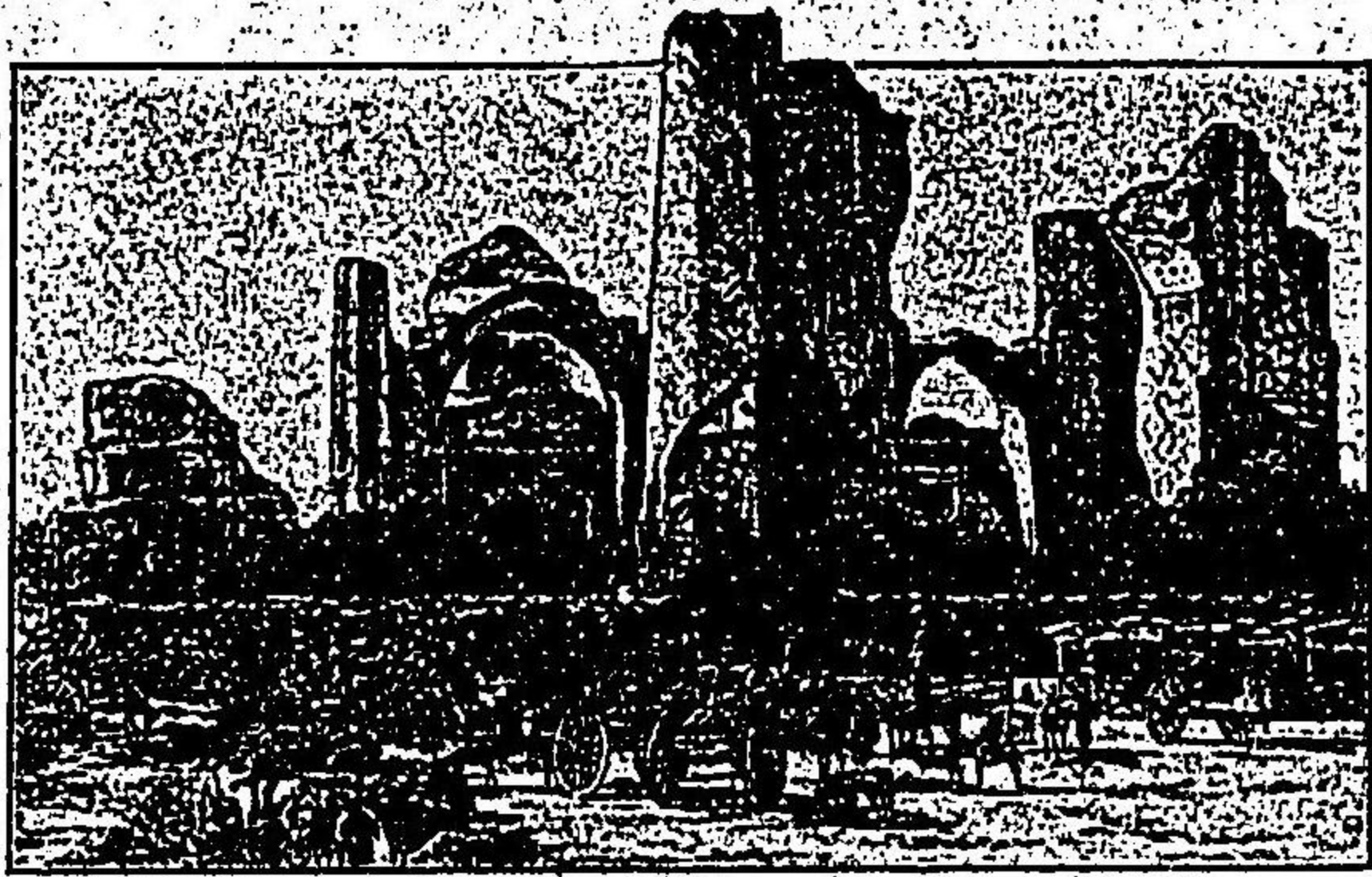
名あるものをオムスク・タシケン・サマルカンド等、とす。

(タシケン) (達失干、察赤) ロシア領トルキスタンの首府にして、十二ヶの門を有する
 高さ城壁は市街を包圍し、シル河の一流に臨み、風光頗る明媚なり。中央アジア第一の都
 會にして人口十五萬。政治上及び商業上の中樞地たり。トルキスタン總督此所に住めり。
 サマルカンドと相距る三百餘哩なり。主要なる取引商品は絹・羊毛・綿・火藥・鐵等とす。
 (サマルカンド) (撒兒干) 西部トルキスタンの名邑にして、一に母市の稱あり。實に荒
 原中の一花園たり。此地は早くより人文の發達したりし所にして、西曆第十四世紀頃迄
 は、中亞に於ける政治及び文明の中心たり。初め鐵木眞のために悉く破壊せられしが、十二

Samarkand

Tashkent

チムル、フ
バ(帖木兒
驕馬)



チムル、フバ(帖木兒驕馬)の市の遺蹟

百十八年・チムルの來つて都を定めし以來、再び勃興せり、其後星移り物變り、今は朽廢
 せる宮殿・墳墓の、僅に其面影を存せるのみ。商業
 亦見るに足るものなけれども、市内の大勸工場は頗
 る著名なり。

チムル、フバ(帖木兒驕馬) 一にタメルランともい
 ふ。蒙古に生れ、柯提の酋長となり、次に中央アジアを征し、後
 都をサマルカンドに築き、茲に世界統一の大志を抱きて葱嶺を越
 へ、モグリスタンを征し、更に印度を服し勢に乗じて明を討じ、
 名を蒙古の恢復と回教の傳播とに藉りて大軍を指揮したりしが、
 中途疾を得て歿せり。今尚チムルの墳墓ありて存す。

(オムスク) キルギス曠野の中部にありて人口五萬
 餘。商業頗る盛なり。此地本國ロシアのモスクバを
 去る千八百哩にあり。

(メルフ) (木鹿、馬魯) 古代のアンチオキアマルチ
 アの地にして沙漠中の沃地たり。此地トルコ族の城塞等ありて、もとは蒙古或はペルシア
 等に屬したりしが、千八百八十四年、ロシアに合併せられ、現今軍事上の重要地と認めら

Merv

Omsk

北部の小都

るゝに至れり。

北部の小都 此他ウラルスクはウラル河に臨み、チルハイはアラル海の北にアクモリンスクはイシム河の上流にして、其地方の小都邑たり。

南部の小都

南部の小都 コーカンドはトルキスタン中有名なる市場にして、絨物・紙類・織物等の製造盛に人口凡そ八萬餘あり。此他ナマンガンは皮類・綿布の製造盛に、舊マルジランはコーカンドの東南にありて、綿布・毛布の製造多く又、新マルゲランは鐵道東方の終驛たり。此他アンヂシアン、コージエンド等名あるものにして皆鐵道線路の一驛たり。

〔トランス、カスピアン鐵道〕 之れロシア政府がインド洋に達するの要路として計劃せしものなり。即ち本鐵道はカスピ海の東岸クラスノボヅスク港を起點とし、ベルシア國境に接して東南に走り、メルブをすぎ、サマルカンドの舊府を経て、シザックに到りて分岐し、主線はタシケンドに於てオレンブルグ線に連絡し、支線はアンヂシアンに達するものなり。又別にメルブよりヘラットに至る支線あり。之れ他日イギリスのインドより來るべき鐵道に連絡せんとするものなり。抑も本鐵道は千八百七十四年之が起工に着手し、千八百九十八年に至りて落成したるものにして、専らロシア國軍事上の必要によりて敷設せられたるものなり。

Margelan Margelan Akmolns Uralsk
Andishan Numangau Khokandk Turhai

附説

附説 オレンブルグとタシケンドとの間、凡そ千二百哩の鐵道は千九百四年十月、日露戦争の際、急速に成功したるものにしてロシアよりアフガニスタン方面に出づる其も捷路たり。蓋し本鐵道線路はロシア本國の幹線たるサマラ縣より東南に分れ、オレンブルグに至り、アラル湖の東畔カザリンスクを經、シル河畔を溯りたるタシケンドに於て、トランス、カスピアン鐵道に連絡するものにして、之れ又ロシアが軍事上最も重要と認むるものなり。

〔屬地〕 ヒバ及びボハラの兩地にして、ロシアの保護に屬し、實權悉くロシア政府の手中にあり。

〔ヒバ〕 アラル海の南にありて、東はアム河に限られ、西南はトランス、カスピアン地方に接す。長さ百九十五哩、幅四十哩、面積凡そ二萬二千方哩にして、内五千方哩は沃地をなし、其他はステップなり。人口凡そ八十萬。概ね土耳其人なり。

政治及産物 此地は名義上、ハン(酋長)によりて統治せらるるものにして、千八百七十三年以來、ロシアの保護領となりしものなり。而して全土概ね沙漠よりなり、唯アム河の三角洲に於て豊饒なり。産物は米・麥・生絲・麻・綿・果實等にして、又馬・駝駝・羊等の飼養も頗る盛なり。

ヒバ 此國の首府にして、人口凡そ三萬餘あり。
ニユー、ウルゲンヂ ヒバの東北二十五哩にあり。内外物産の集散地なり。

〔ボハラ〕 北はサマルカンド及びフェルガナに接し、東南はアム河に限られ、東北はヒバに隣りし、西北は概ね沙漠・草原等なり、長さ三百五六十哩、幅百哩、面積凡そ九萬二千

Bokhara Khan Khiva Samar

New-Uppendj

ニユー、ウルゲンヂ

政治及産物

中央アジア 都會

方哩、人口凡そ二百五十萬あり。

産物 産物は穀物・果實・生絲・綿・葡萄酒・烟草等にして、又金・食鹽・明礬・硫黄・石炭等の礦物も少からず。而して貿易は専らロシア・ベルシア・アフガニスタン、インド等との間に行はる。

政司 此國は千八百六十八年以來ロシアの保護に附せしが、千八百九十三年の條約によりて、全くロシアの屬地となりしものにして、國王エミルは今はクリミア半島にありて、政治に關係せず。

(ボハラ) (殿堂町) 此國の首府にして、地味豊饒なるザラフシャン河溪谷の間にあり、人口凡そ十萬餘。回々教の靈地として、殿堂及び回教學校甚多く、又通商上の要地として知られたり。年々ベルシヤ、印度其他の各地より、多數の隊商入り來りて、市内の大勸工場に貨物を送りて、盛んに賣買を營めり。而れども降雨減少のため年と共に、地方の次第に荒廢に趨くは惜むべきことなり。

カルシ ベハラの東南に位し、武器及び銅器を産す。

三、カフカス (高架索) Caucasus (Kavkas)

ロシアの東方經營に着手せしは西紀十六世紀の事にして、常に領土侵襲を以て其主義となし、次第に東進すると共

地名解

に又、南進せり、斯くてカフカスの地は、アレキサンドル一世の時、ベルシアの地はニコラス二世の際、共に現今の境界まで擴張せられたり。此他黒海の東部、並にアルメニアの一部は、アレキサンドル二世の時、割取せられたるものなり。

地名解 カフカスとは同名の山脈より出たる地名にして、元來「光れる山」「輝ける山」の義なり。蓋し全山脈は全山花崗岩に富み、且終歲白雪を載ける高峯あるによりて斯る稱を得たるものなり。

位置 カスピ海と黒海との間に挟まり、カフカス山脈によりて横斷せられたる南北兩斜面の地域にして、北はマニチ河によりて本國ロシアに接し、南はアラスの谷によりてベルシア及びアジアトルコに境し、東はカスピ海、西は

黒海に瀕す。長さ凡そ七百五十哩、幅四百五十哩、面積凡そ十八萬方哩、人口九百二十五萬あり。

區劃 行政上分ちて、北部カフカス及びトランス、カフカスの三とし、總督を駐劄して以て其政務に當らしむ。而して前者を分ちて

三州となし、後者を分ちて七州とせり。

(一)クバン・スタプロボル・テレクの三州は北部カフカスに屬す。其面積八萬六千方哩。

(二)バク・ダブエスタン・エリザベスボル・エリバン・カルス・クタイス・チフリズの七州はトランス、カフカスに屬せり。其の面積九萬五千方哩。

カフカス 位置 區劃

二〇七



カフカスの婦人

Baku Daghestan, Knjau, Elizabethpol, Stavropol, Terek, Manich

住民 住民は、ロシア領アジア中、最も稠密なる所にして、種族の多数はカフカス種に屬し、他は頗る雑多なり抑もカフカス種族の容貌美麗なるは、史上有名な事實にして、往時奴隸賣買の行はれし時代に當りてや、コンスタンチノール府等にて頗る高價に賣買せられしといふ。又彼等は性好隨意格なれども、歌舞音曲に對しては、殆ど饕餮を忘るゝ程なりといふ。



カフカス山脈の中の高峯

地相 カフカス山脈はカスピ海濱より起りて黒海に亘

り、南北兩側に急斜せり。而して北にはクバン・テレクの兩河ありて、夫々西又は東に流れて、アゾフ海及びカスピ海に注ぎ、南にはリオン及びビグラの兩河ありて、深谷を形成し、山地頗る多く、所謂アルメニア高原の一部分をなせり。

(カフカス山脈) ヨーロッパとアジアとの天然的境界をなせるものにして、アゾフ海のタマン港に起り、二十五哩乃至百二三十哩の幅を以て、西北より東南に走り、カスピ海に突出するアプシエロン半島に達す。長さ六百六七十哩、平均高度三千米以上に達し、就中中部に於けるエルブルズの如きは、五千六百三十米に達せり。蓋し、本山脈は世界山系中其外形に於て、最も明瞭なる山系を成

Elburus

Rion Kuban
Kura Terek

Tiflis Erivan
Kars Kutanos

カフカス山
上の氷河

アララット
山

小カフカス
山
ダリエル峠

クラ河

せるものにして、其高峯の如きも、西部にオシテン、中部にカシタンタウ・ヂフタツ・チハラ・東部にテプロスムタ等ありて、皆四千五百米以上に達し雪際線上に聳立せり。

カフカス山脈を以て歐亞の境となす時は、北部カフカスはヨーロッパに屬し、トランス、カフカスはアジアに屬すれども、茲に之を一國として説明せり。

(カフカス山上の氷河) 此山脈中雪際線以上に傑出せる山上には永久不融の氷雪ありて、所謂氷河を成して次第に下方に流出せり。其の最も著名なるものをテオドラキ氷河と稱し、流下の速度は一晝夜毎に平均四吋とす。佛國の東境なるモン、フラン山上の氷河は平均一晝夜毎に凡十二吋の速度を以て流下せり。

アララット山 ロシア・ベルシア・トルコ三國の境界にありて、高度五千五百五十餘米あり。ベルシア人は呼んでノアの山と稱す。舊約全書に傳へいふノアの小船の漂着せし所なりと。

小カフカス山 リオン河の南に連亘せる不規則の山塊にして、スラム山によりて大カフカス山に連れり。ダリエル峠 カフカス山系中の一大斷層に當り此山系を通ずべき唯一の道路たり。高さ凡そ二千四百米餘あり。

(河流及湖沼) 北部カフカスには、マニチ・クバン・テレク等の河流あり。又南部即ちトランス、カフカスにはクラ・リオン(昔のファレス)等あり、而して前二者は西流して黒海及びアゾフ海に入り、後者は東流して裏海に注ぐ。

クラ河 古代のキロス河にして、源をアルメニアの高地に發し、支流アラス河を其右岸に入れ、一條の河床に

カフカス 住民、地相

Cyrus Kur Manich Suram Noah Aramt
Phasis Kuban Terek Dariel

セバン湖

よりて、トランス、カフカス大部の水を排出し、以てカスピ海に注ぐ。下流は即ち有名なる好漁場にして、河口より四百哩の間、舟楫の便あり。又リオンは古代のファシス河にして、小カフカス山脈間の廣濶なる地域の排出をなす。
セバン湖 一にゴクチャといふ。ロシア領アルメニアの高地にありて、湖面實に千九百米の高所に湛え、西方の一端溢決して、アラス河に注げり。

Sevan Phasis
Gokcha Rion

氣候

富源

地勢頗る複雑にして、低平なる原野あり。高峻なる山脈あり。加ふるに湖海の影響又多大なるがゆゑに、氣候一樣なる能はず。一般に北部は南部よりも乾燥にして、寒氣殊に強し。而して一ケ年の平均温度は中度なれども、寒熱の差甚しくして、夏は炎熱甚しく、冬は寒威酷烈なり。就中アルメニア高原に於て、其差異殊に甚しく、夏は四十五度の高温なるも、冬季は零下三十五度に下りて、湖沼の水結數ヶ月に亘れるものあり。

雨量は東より西に進むに従ひて多く、西部三四米、東南五十米なるも、バック地方の如きは、六ヶ月間一回も降雨なしといふ。

◎産物中、地味肥沃なる低地には穀類・棉花・烟草等を産し、殊に南部には果實の栽培夥しく、葡萄・桑實等よく繁茂せり。又山岳の中腹には森林多くして野獸に富めり。

◎礦物中、石油は最も多量にして、アメリカと共に世界の二大産地と稱せられ、殆ど無盡藏の觀あり。此他、銀・銅・鉛・石炭等の埋没も少かず。

油泉

油泉 油泉及び油井はカフカス山脈の東端、カスピ海に突出せるアプセロン半島にあり。而してバク港の近傍にある石油井よりは、鐵管輸送、及び艦隊運搬等にて、毎日三萬石以上を各地に送り猶供給不足の感あり。近年カフカス産出の量は、既に三千五百萬石を超過し。此の地方及び中央亞細亞附近の鐵道にては、其機關車の動力として悉く石油を使用せり。

Apshehon

産業

産業は頗る盛にして、麥類・玉蜀黍・米・綿等を始めとし、葡萄・桃・杏等の果實に富めり。農業に次ぎて盛なるは漁業にして、鮭・鱒・鯉等の收穫あり。鐵業は石油を以て第一とし、其他石炭・岩鹽・銀・銅等の埋藏多けれども、採掘完からず。工業は漸次隆盛に赴き、動物・製絲・熱絲等漸く盛ならんとす。

都會

チフリリス・バク・スタプロボル・エカテリノダル・バツム・ウラチカフカス等名あり。

〔チフリリス〕 全カフカスの首府にして、人口凡そ十六萬。クラ河畔に臨み、商業・工業共に盛なり。此地ベルシア貿易の中心に當り、又附近よりは硫黄泉の噴出多きがゆゑに、世に熱市の稱あり。軍用の大道路は歐羅巴ロシアよりカフカス山脈を越へて、此の地に來り鐵道はポチー及びバツムに連れり。

Tiflis

〔スタプロボル〕 北部カフカスの舊首府にして、北部に偏在し、ロシアとトランス、カフカスとの舊道上に横はれり。人口凡そ四萬五千。

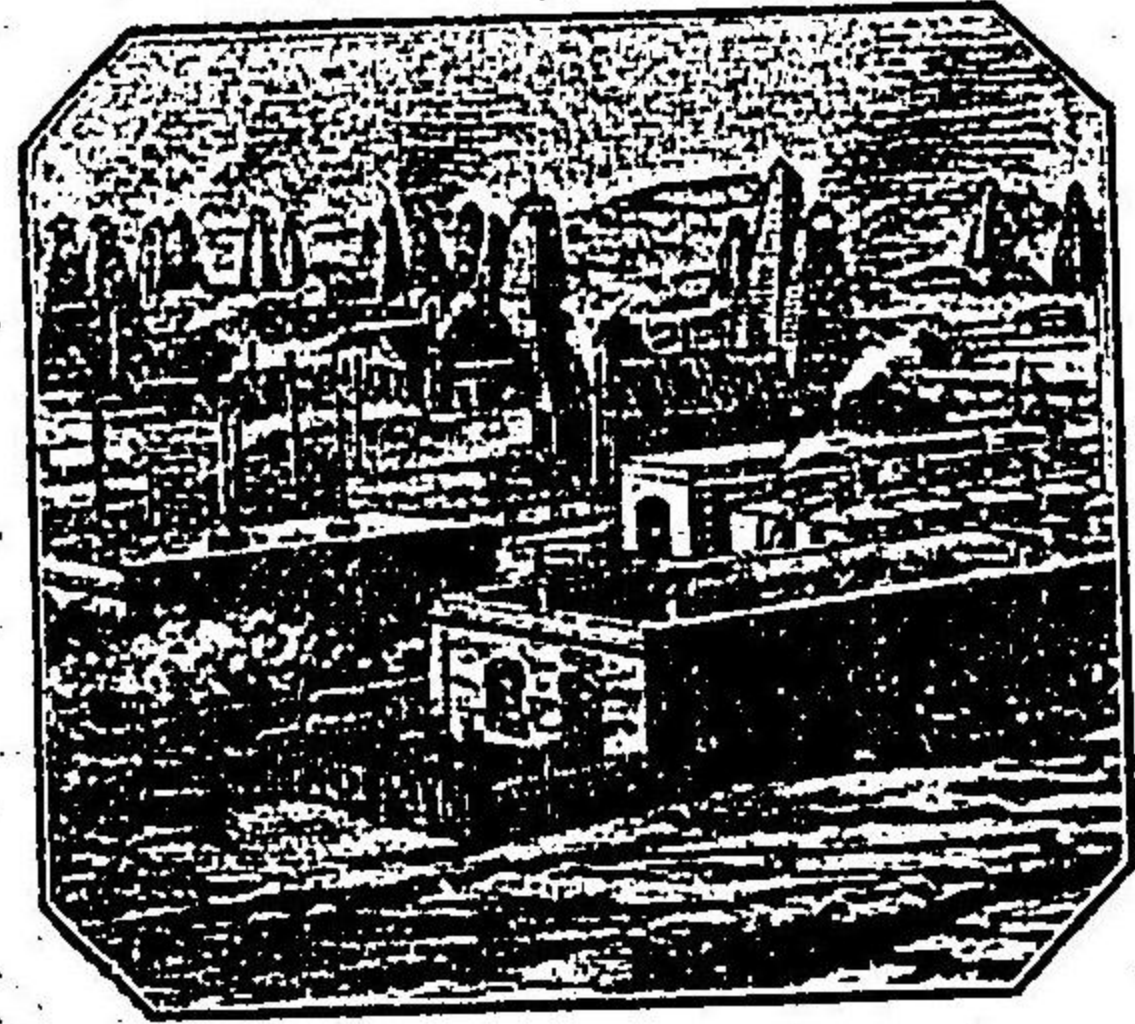
Stawropol

カフカス 氣候、産業、都會

（ウラヂ、カフカス） カフカス山麓の要都にして、ロシアより来る鐵道系の南端に當れり。軍用大道路は之よりダリエル峠によりてカフカス山脈を横斷してチフリスに至れり。軍事・商業・交通上の集點たり。人口凡四萬餘。

地産油石のクバ

（バク） カスピ海に臨める要港にして堅固なる砲臺あり。又石油の湧出夥しと、拜火教の殿堂あるを以て其名を知られたり。人口十一萬餘。我金澤市に似たり。《ボチ・バツム・テルベンド》も亦カスピ海に臨める良港なり。



カルス トルコ境上にあるロシアの城砦にして、元はトルコの領地たりしが、千八百七十八年ベルリン條約によりて、アルダハン及びバ

Vladikukas

Baku

Poti Batum
Derbend

Kurs

Erivan
Alexandropol

Kutais
Poti

カルス

エリヴン

クタイス

ツムと共に、終にロシアの領地となりしものなり。而して此地は千八百二十五年、千八百五十五年、千八百七十七年の三回までも、ロシア人の包圍を受けしことありて大に奪略せられたりと稱す。

エリヴン ロシア領アルメニアの首府にして、アララット山を去る遠からざる所に位す。而して其西北アレクサンツロポールには堅固の砲臺あり。

クタイス ヴォン河畔の舊市にして、製糖を以て名あり。而して、其河口にある。ボチー港はチフリス鐵道の

起點に當り、石油・絹布・穀物の輸出盛なり。

バツム

バツム 黒海東岸に於ける良港にして、海軍の要區に當り、農産物及び石油の集散多し。

此他 イエカテリノダルはクバン河の岸にありて製造・商業盛に、イエイスクはアゾフ海の一小港にして漁業並に商業盛なり。

Jekaterinodar
Jeisk



神ノアおよび彼どもに、方舟エノフネにある諸の生物と諸の家畜を眷念おもひひたまひて、神乃ち風を地の上に吹しめたまひければ、水減りたり、亦淵みぞの源と天の戸閉ふさがりて天よりの雨止ぬ、是に於て水次第に地より退き、百五十日を経てのち水減り方舟は七月に至り其月の十七日にアララテの山に止りぬ。（舊約全書創世記第八章より）

第五篇 西部亞細亞

一、アジアトルコ (亞細亞土耳其) Asiatic-Turkey

地名解

地名解 トルコとは、此の人民概ね冶金の術に長じ、兜を作りて附近の人民に供給せしが、土耳其語兜を「テルク」と云ひしが、「テルク」を作る人民と云ふを略して單に「テルク」と云ひ、後轉じてトルコと云ふに至りしものなりとす。

此國はアジア・ヨーロッパ・アフリカの三大陸に連接するを以て、古來史上に關係を有すること夥しく、殊に中古時代に當りてや、此等三大陸に跨れる東ローマ帝國榮えて、文化一時に勃興し、文物典章の見るべきもの少からざりしが、西紀一千四百五十三年東ローマ滅亡して、土耳其人の治に歸するや累世の君主暴政を恣にし、爲に國運次第に傾きて、大郡名邑悉く頽廢し、滿目荒涼、又昔日の面影を存するものなきに至れり。

位置 ヨーロッパに於ける本國よりも遙に大にして、東北は露領カフカスに接し、南はアラビア半島に連り、北・西・南の三方は、黒海・マ



ルマラ海・エーゲ海及び地中海等に臨めり。面積凡そ六十八萬餘方哩、人口凡そ一千六百

五十萬あり。一方哩につき凡二十二人のみ。我日本は一方哩に付凡二百七十人内外とす。

區劃 此國はヨーロッパトルコの一部分なるを以て、「スルタン」主權の下にあり。而して領内を分つこと次の如し。

地名	面積	人口
アナトリア	一九五、〇〇〇	九、五〇〇、〇〇〇
メソポタミア	一三〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
アルメニア及クルド	七二〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇
シリヤ	一五〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
パレスチナ	八、〇〇〇	三五〇、〇〇〇
サモス(朝貢國)	一八〇	五五、〇〇〇
キプロス島(イギリス領)	三六、〇〇〇	一、二五〇、〇〇〇

地相 此國は山脈並立して其の趨勢頗る錯雜を極むるがゆゑに、地勢は概して高臺性をなせども各部一樣ならず。即ち其北部に於ては、イラン高原に接續せるアルメニア及びクルヂスタンの高原及び其西方に突出せる小アジア(即ちアナトリア)の臺地あり。而して此等の間に連亘せる山脈には、パン湖の四周に其秀嶺を集めたるアルメニア山嶺ありて、大アララット山最も高く、海拔五千百五十七米あり。又之より西南に延長して、小アジア

アジアトルコ 位置、區劃、地相

二二五

Kurdistan Asi-Minor or Anatolia Palestine Samos Cyprus or cypros Anatolia Mesopotamia Armenia and Kurdistan Syria

の南沿岸に走り、凡そ三千米以上に達するものをタウルス山脈として最高峯ブルガル山は三千五百七十五米あり。又之が支脈たるアンチタウルス山脈は三千五百米に達し、エウフラト及びキジル、イルマク兩河の分水嶺をなせり。而して又別にポントス山脈あり。東西に連亘して黒海沿岸の縁邊をなし、中にファウルチェムブク及びオリンブ等の高峯あり。又、シリア及びバレスチナに於ては、別に一山系をなせるリバノン及びアンチリバノンの兩山脈ありて、南北に並行して走り、前者にはドル、エル、ホチブ山あり、後者にはヘルモン山あり。而して兩山脈の間にはヨルダン河及び死海の陥没地帯を生成せり。

アナトリア高原 高原の高度は平均一千米を出入し東部にはカラベル及びアンチタウルスの兩山脈ありて之を囲み、南部にはタウルス山脈あり。高度三千米に達するものあり。又西部は數多の溪谷あり、扇狀をなしてエーゲ海に突出せり。而して内地は一般に鹽分を含める砂地、又は濕潤に過ぐる沼澤多し。

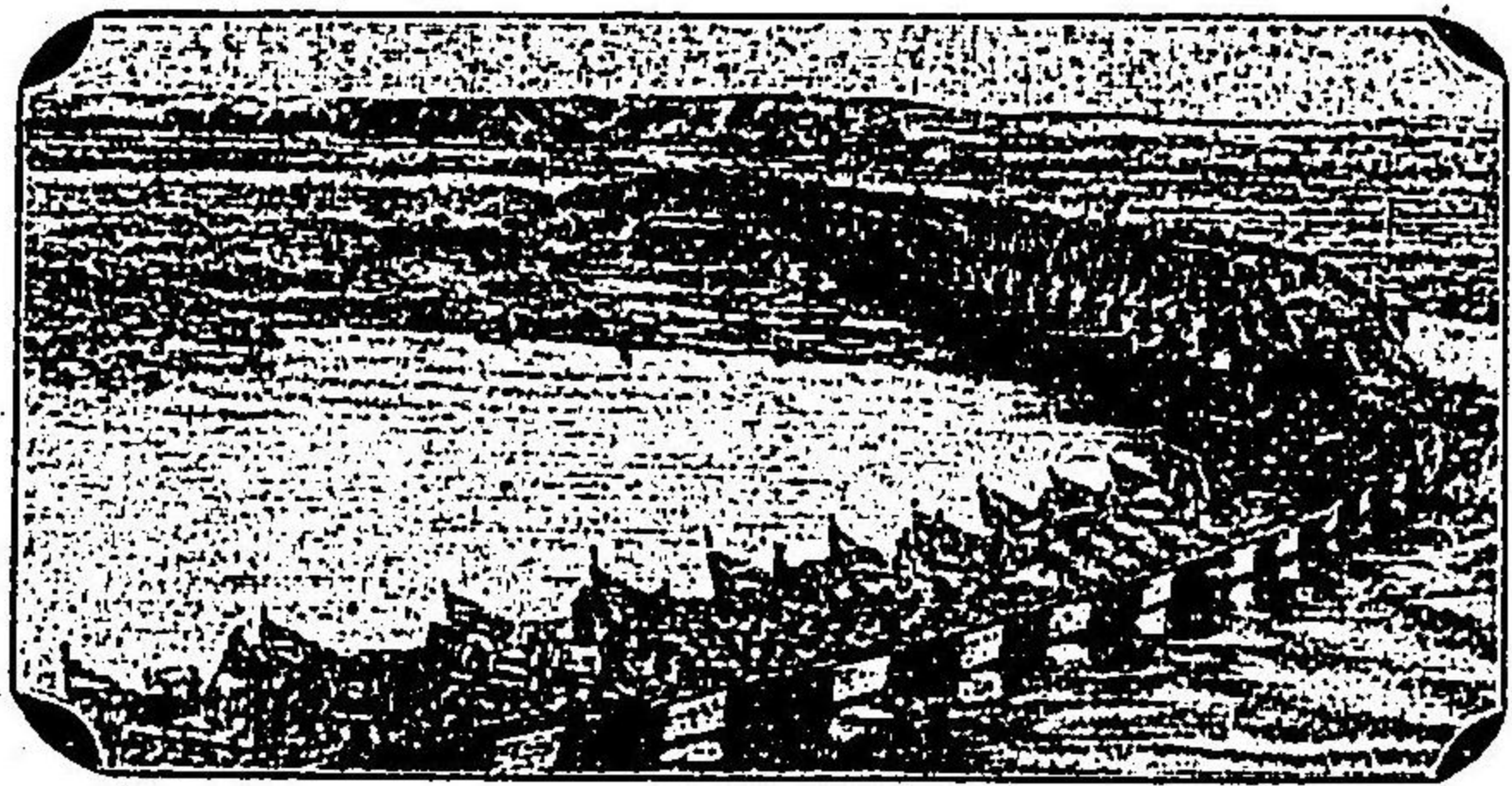
《河流及湖沼》 河流は概ね短小にして舟楫の利を供するもの甚だ少し。而して中には内部の閉塞地に終るものもあれども外海に注ぐものも多し。其中カスピ海斜面にはアラス河ありヘルシア灣斜面にはチグリス及びエウフラト兩河あり。史上に最も著名なり。黒海斜面にはキジル、イルマク(古代のリヂア河)・サンガリアス・ハリス等の諸水あり。湖沼は其數少なきにはあらざるも巨大なるものなし。其内名あるものは死海・パン湖・ツスチエリウ湖等

Lydia Halys Libanon and Antilibanon Olymp Ponts Taurs Antitaurus Jordan

チグリス河

エウフラト河

にして概ね鹹水湖に屬し、エヂェルデル湖は淡水湖に屬せり。



チグリス河の舟橋 (モリス原の地産ルモス附近にあり)

チグリス河 源流二派あり。相合してモスル附近に出て、左岸に沙漠を控へ、バクダードをすぎ、クルナに於てエウフラトに合す。(メソポタミアの部参照)

エウフラト河 源流二派あり。上流は水勢稍々急峻なるも、メソポタミアの平野に至れば、緩流灣曲をなしバビロン舊地の附近をすぎ、更にチグリス河を入れ、カルン河を容れて、シャト、エル、アラブ河となり、凡そ百哩を流れて、ヘルシア灣に注ぐ。(メソポタミアの部参照)

《死海》 バレスチンにある鹹湖にして、長さ凡そ五十哩

幅十四哩、面積凡そ三百五十餘方哩あり。本湖はヨルダン及び其他の河水を受くれども、外海に通ずることなきがゆえに、鹽分頗る濃厚にして約二十五パーセントを含めり。(普通の海水中に含まるゝ鹽分は約三十四パーセントとす) 而して湖面は海面下凡そ四百米にありて、水深北部に於て四百米南部に於て三百四

Dend-Sed Sbat-el-Arab

湖岸は南部北部は概して平坦なれども、東部・西部は岩層より成れる絶壁をなし、鹽分あまりに濃厚なるが爲め湖中に魚介の繁殖を見る能はず故に死海の名あり。又人ありて此の湖上に游泳せば、鹹水の比重の大なるがために、決して溺没する患なかるべしと云ふ。

氣候

富源

地勢頗る錯雜せるがゆゑに氣候も亦一樣なる能はず、即ちバン湖附近に於ては一ヶ年平均温度六七度なれども、黒海沿岸に至れば十五度、地中海沿岸に至れば十八度内外なり。一般に内地は寒暑の差甚しく、夏期には五十度を超ゆるものも少からず。然れどもバレスチナ・メソポタミア等は比較的温和なりとす。

産物

は一般に西部に於けるものは、ヨーロッパ風に傾き、東部に於けるものはアジア風に偏せり。之れ地學上觀過すべからざる現象にして、動植皆然らざるはなし。又、礦物には石炭・鐵・鉛・銅等の埋藏多しといへども、未だ採掘せらるゝなし。(各地方誌参照)

産業

産業の重なるものは農業にして、穀類・葡萄・櫻栗・無花果等の栽培多く、牧畜之に次ぎて山羊・綿羊・水牛・駱駝等の飼養頗る盛なり。又工業は一般に貧乏の状態にあり。僅に皮革及動物製造位に止るのみなりといふ。

アナトリア Anatolia 小アジア

此國はアジア・ヨーロッパ兩大陸の通路に當り、古來の史上に其名を知られたり。蓋し本國の住民たるや、紀元前五

六世紀頃にありては、アーリアン人の技にあるありて、大に文明の域に達したりしが、紀元後七八世紀に至りては、アラビヤ人之に代り、十一世紀以後は更にトルコ領に歸するに至りしなり。

位置

世人の呼んで小アジアと稱するものにして、アジア大陸の西端に於ける一大半島たり。此地東はアルメニア及びクルドに接し、北は黒海に臨み、南は地中海に洗はれ、西はエーゲ海に瀕し、西北はボスポロス及びダルネス兩海峡によりてヨーロッパに相對せり面積凡そ十九萬五千方哩。人口凡そ九百五十萬あり。

國名の異稱

國名の異稱 一にナトリアとも稱す。ギリシア語のアナトリー(東)の義にしてレバントともいへり。トルコ人は又呼ぶにアナドリの名を以てし、一般には小アジアの稱を使用せり

史上の事蹟

史上の事蹟 ベルシアの大玉グリオス帝は小亞細亞を経てボスポロス海峡を渡りヨーロッパに侵入してギリシアを攻め其子クセルクセス、又父の遺業を嗣ぎてギリシアを犯し、一旦サラミスに破られしも後再び此國西岸の諸市を恢復せり。

其後紀元前三百六十四年、アレキサンドル大帝、ヘレスポンド海峡を渡りて、小亞細亞の各地に轉戦し進てヘルシアを蹂躙せしことあり。

住民

人口凡そ九百五十萬中、最も多きはトルコ人にして、ギリシア人之に次ぎ、更にアラビヤ人・アルメニア人等之に次げり。而してトルコ人・アラビヤ人は回教を信じ、ギリシア人・アルメニア人は基督敎を奉ぜり。

地相

此地方は漸次西方に向つて傾斜せる一大高原にして、南方地中海に沿ふて東西

アジアトルコ 氣候、産物、産業位置、住民、地相

Levant Anadolii Natolin
Asin Minor Anatole

に走れる山脈あり。之をタウルス山脈といひ、北方黒海岸に沿ふて全じく東西に走れるものあり。之をポントス、ビシニア山脈といふ。而して此兩山脈は何れも内地に向つては緩慢に、海面に向つては頗る急斜せり。斯くてアトリア高原は九百乃至千二百米の高地をなし、中に沙漠若くは濕潤なる沼地を包擁するもの多し。

タウルス山脈

タウルス山脈 本山脈は半島の西南より南岸に沿ふて東西に連亘せるものにして、多島海を過ぎ遠くベルカ半島を経てチナル。アルプに連る大山脈の一部分たり。而して其最高峰をアルガールと稱し、國の東方に峙てり。高さ凡そ三千五百餘米。全山主として石灰岩より成り、地質學者は呼んでアペニン石灰岩といへり。又、本山脈中には二大支脈あり。一はアマナス山脈と稱し、不規則なる方向をとりて南に走り、シリア及びシリシアの境をなし、一は即ちアンチタウルスと稱すをものにして、東北に連亘せり。

シリシアの門

シリシアの門 タウルス山脈を横斷せる通路數條あり。其内最も有名なるはシリシアの門と稱せらるゝものにして、古來アナトリアよりシリシア及びエウフラトに通ずる唯一の大道たり。絶頂凡そ一千三百米。實に天險要阻の高峯にして、幾多の戦史に關係あらざるはなく、今は堅固の砲臺を築きて以て、其堅めとせり。然れども今や此の峠も馬車にて通過するを得べし。

アグラ山

アグラ山 一にエルチア山ともいふ。タウルス山脈の西側にありて、頂上に噴火口あり。此山は四世紀頃までは噴火山たりしものにて、附近には小火山頗る夥し。

《河流》 河流は其數少からずといへども、巨大なるもの極めて稀にして、其内稍々大なるものをハリス河とし、サカリヤ・ゲチス等又之に次げり。而して前者は一にキジル、イルマ

Sakaria Gediz clai Aglur Erjias Cilician-gate Antitaurus Apenine Amanas Dimaralp Taurno Bulghar-Dagh

クと稱し、黒海に注ぎ、サカリヤはエーゲ海に、ゲチスは地中海に注ぐものなり。

ボスポラス海峡

此國の北方、黒海に瀕するの地は、一般に斷崖絶壁相峙ちて、良港灣に乏しく、只僅に中央にシノプ港あり、少しく東に偏して、トレビゾンダ港あるのみなれども、西方マルマラ海・エーゲ海等は屈曲出入頗る夥しく、附近亦島嶼の散在甚だ多し。而して南方地中海の沿岸は、概して絶壁多しといへども、アダリア及びイスカンデルン等の良灣入ありて、共に船舶の碇繋に便なり。

《ボス・ポロス海峡》 一にコンスタンチノープロ海峡ともいふ。マルマラ海より黒海に通ずる所において、長さ十七哩、幅三哩、深さ三十餘尋。今はトルコ領に屬して、沿岸には堅固なる砲臺の設あり。海峡の兩岸は此の地方の特有の低き台地をなして相連れり。

史上の事蹟 此地は西紀五百四十餘年前ヘルシア王グリオスが、ヨーロッパに侵入せし時、船橋を架して以て全軍を渡したるの地にして、今猶人口に膾炙する所たり。而して對岸ヨーロッパの方にはコンスタンチノープルの古都あり。アジアの方にはスクタリ市あり。

《ダルダネル海峡》 古はヘレスポンド海峡といへり。アゾー海とマルマラ海との間にありて長さ四十哩、幅一哩乃至四哩。兩岸には砲臺の設ありて、現今トルコの領有に屬せり。而して對岸ヨーロッパ沿岸よりはガリポリ半島突出して、斷崖頗る多けれども、アジアの

Gallipoli Dardanelles Scutari Hellespont Bosporus Constantinopls

側は傾斜緩慢にして風景に富めり。

史上の事蹟

此地は千八百五十四年、イギリス・フランス同盟軍がトルコを保護してロシアと戦ひ、其結果として、ロシア軍艦の通過を永久的に禁止したるの地たり。

〔島嶼〕 西方及び南方の沿岸には、大小無数の島嶼ありて、各島又何れも果實の栽培盛なり。而して諸島中殊に著名なるものは、ロードス・サモス・マルマラ等なり。

ロードス島

ロードス島 地中海にあり。長さ五十哩、幅二十哩、人口凡そ三萬餘。首府ロードスは島の北岸にありて、西紀前四世紀に於て、既に海上権を掌握し、商業の中心を占めたる所たりき。而して西紀千三百〇八年より千五百二十二年まで二百十四年の間、セント、ウヨン騎士團の據守せし地にして、其後トルマの領に歸したるものなり。

Rhodos

有名なるロードスの巨像はロードス港口に屹立し、人をして其英姿を羨望せしむ。

其他の諸島

其他の諸島 マルマラ島はマルマラ海の西側にあり。又ダルダネス海峡の西にレムノス島あり南にミチレム島あり。其他キオス・サモスの諸島はエーゲ海中に位せり。

Kbios Lemnos
Samos Mitylem

〔氣候〕 所によりて差異頗る甚し、即ち西南は氣候頗る温暖にして、夏期又清爽なれども、中部は寒暑の差甚しく、北部は又一般に陰鬱にして積雪深し。

〔富源〕 産物はタウルス山脈の東南、河流に沿へるの地は、地味最も豊饒にして、鬱蒼たる森林に富み、又農産物豊なり。然れども本山脈を越えて北及び西北に走れば、地貌頗る複雑にして高低一様ならず、加ふるに荒原沙漠相接するがゆゑに、産物裕ならず。而して産物中

稍名あるものは葡萄・無花果・小麦・生糸・毛織物等なり。

〔都會〕

スミルナは此地方の重要なる都府にして、此他トラベズント・スクタリ・ブルサ・ニコメデア・ミレトス等名あるものなり。

Smuyrna

〔スミルナ〕 エーゲ海に臨める良港にして、人口二十餘萬。古來よく其名を知られたり。

此地往時にありては、久しくギリシアに屬したりしが、後ローマに歸し、最も繁榮を極めたり。然るに其後屢々破壊の災にあひ、千四百二十四年後はトルコ領となり、市況漸く恢復して今は其面目を一新し、以てアジアトルコ中の最良なる港たるに至れり。

貿易

貿易 此地地中海沿岸各地貿易の盛なる所にして、輸出品の重なるものは、乾燥果實・無花果・木綿・羊毛等にして、輸入品の重なるものは、砂糖・珈琲・金屬器・織物等なり。

Tropezunt

〔トラベズント〕 黒海の東南岸に於ける重要なる港にして、人口凡そ四萬五千餘。トラベズント帝國の故都たりしを以て有名なるものなり。

トラベズント帝國

トラベズント帝國 此地は第四十字軍の起るに際し、コンスタンチノープルに於て、ラテン帝國を建設したるがゆゑに、ギリシア帝室は茲にトラベズント帝國を建設せり。然るに千二百五十八年、蒙古のフラグ(旭烈兀)に征服せられて、終に破滅するに至りしなり。

Nicomedia
Ismid

ニコメデア

アシアトルコ 氣候、都會

建したりしものにして、ローマ皇帝東征の際、屢々茲に駐在せられしことあり。又、チオクレチアヌは茲にて位を譲り、コンスタンチヌは此附近にて死したるがゆゑに、史上殊に名高し。斯くて後セルジウクトルコに破壊せらるゝに至れり。

《スクタリ》 ボスポラス海峡に面し、コンスタンチノブルと相對せり。人口凡そ六萬、商業頗る繁盛なり。又回教の寺院多きを以て知られたり。我堺市と略同大なり。

ペラ スクタリの對岸にありて、之と相對するものをペラと稱す。元來コンスタンチノブルは、此兩岸の町を總稱せるものにして、前者は商業上の中心にして、後者は政治上の中心地たり。

又、クリミア戦争の際、フロレンス、ナイチンゲール女史が、此地に病院を建てたる事あるを以て世に知られたり。

《ブルサ》 スクタリの南、オリンポス山の麓にあり。往昔トルコの首府たりし所にして、サルタンの墓陵並に回教禮拜堂等あるを以て、巡拜者頗る多し。

附近に有名なる絹織地あり。又温泉場等ありて風景に富み、杖を曳くに便なり。

アングラ 内地の高原にあり。ゴール人の舊都たり。果實・蜂蜜・山羊毛等を出す。殊に山羊毛はモーヘアと稱し、美麗なる絨布用として世に知られたり。

コニア 舊稱をイコニウムと稱す。セルジウク朝の時、商業の中心地として繁榮を極めたる所にして、又十字軍の時、重要なる地たりしことあり。人口凡そ四萬餘、塔塔及び僧侶頗る多し。

エフェソス 往昔有名なる商業地たりし所にして、外交上の會議所たり。リチア・ベルシア・アレクサンドル大帝及びローマ人等の勝利の地として世に知られたり。

Ephesos Konich Angora Brussa Olynp Pela Skutari

バルミラ

ミレトス

其他

イッソス戦争

バルミラ ダマスカスの東北百五十哩に位す。此國の古市にして、其始めはアラビア沙漠の沼地に建てたるものにて、ソロモン王が商業地となさんと計劃したるものたり。而してゼノビアの時代に於て最も繁榮を極め、西紀二百七十二年にはローマ人に奪掠せられ、アウレリアン帝のために破壊せられ、後、次第に頽廢に歸せり。之が遺蹟は千六百七十八年に発見せられ、寺院の遺跡今猶存在すといふ。

ミレトス 往昔の大都たりし所にして、ギリシア殖民地中、最初のものたり。後トルコ人の攻撃にあひ、全市盡く頽廢に歸せり

其他 トロヤはホメロスのイリヤットに記せる地にして、又、有名なるトロヤ戦争のありたる所なるを以て知られり。此他カイザリアは内地高原地方の都邑にしてアゲアス山の北麓にあり。人口凡そ四萬あり。又、アダナは東南隅にある一小都にして、海岸をさる三十哩、隊商の通路に當れり。

イッソス戦争 イッソスは地中海に瀕する小市にして、アレキサンドル大王が此地方に於て、西紀前三百三十二年十一月、ベルシア王ダリオス三世の率ゐたる大軍を破りたるを以て名あり。

メソポタミア Mesopotamia

古の所謂バビロンの地にして、後アッシリアに合せられ、紀元前七世紀の頃一旦獨立したることありしが、同六世紀の前半にはベルシアに滅ぼされ、後アレキサンダー大王の跋扈する所となり、今は共にトルコに屬するに至りしなり。

此國は古代夙に文明の域に達したるものにして、土地豊沃、耕耘の業盛に行はれたりしが、現今全く荒廢して、聖書所謂エラム、ナハレームの如きも、土人皆之を放擲して顧みざるの狀態たるに至れり。

アシアトルコ都會

Adana Troy Kaisarich Miletos Palmyra

地名の起源

位置 エウフラト・チグリス兩河の間にありて、シリア沙漠の東端より、ペルシアの境に至る廣大なる低原を占む。面積凡そ拾三萬餘方哩、人口凡そ五百萬あり。

地名の起源 此の地は本来メソポタミア、と云ふべきものなるがメソポタミアとは、中間の義にして、ポタモスとは雙河の意にして即ち河間地又は島の如き地の意なり。蓋しエウフラト・チグリス兩河の灌溉せる肥沃の地を總稱せるものなり。

地相 分ちて之を南北の兩部とすべく、北部は即ち、第三紀層より成れる平原中に山岳の起伏せるものありて、之を高メソポタミアと稱し、南部は即ち、第四紀層よりなれる低原にして、丘陵と稱すべきものなきのみならず、沼澤所々に散在せり。

河流

河流 其中殊に名高きものはエウフラト・チグリスの兩河にして、其他キシル、イルマク・サカリヤ等の小河あれども數ふるに足らず。

エウフラト河

エウフラト河 上流に二派あり。東派をムラッド河といふ源をアグリ山の西麓に發し、西派カラス河を入れてアルメニアを出て、高メソポタミアの平原に入り、東南に流れてカアバーの支流と合し、更に低メソポタミアの平野に出て、バビロン舊地の附近を經、クルナに於てチグリス河と合しシヤト、エル、アラブとなりてペルシア灣に注ぐ。流程凡そ千七百哩、河口より千餘哩は小舟の航行に便なり。

チグリス河

チグリス河 源流二派あり。パン湖の近傍に發し、モスル附近に於て相合し、南流して大サブ、小サブの支流を容れ、更にバクダット附近に於てサアラ川と合し、遂にエウフラト河と會す。全長凡そ千五百五十哩。河口よりバクダットまでは舟楫の便あり。又下流にはナール、イサ・シオトエルハイ等の運河あり。

Tigris Karasu Euphrates
Diyala Sab Khabur Murad

エウフラト
チグリス兩
流域地

其他 キデル、イルマク河は源をアルメニア及びクルヂスタンの東方山地に發し、黒海に注ぎ、サカリヤ河は源をアナトリアのアンゴラ山に發し、ボスポラス海峡の東方に於て黒海に注げり。此他稱するに足るものなし。

エウフラト・チグリス兩流域地 兩河流域面積は頗る廣大にして、殆ど我國と其面積を同じくす。而して兩河は屢々氾濫して沃土を運搬し、土地極めて肥沃なり。加ふるに氣候温暖にして、野生の麥などよく熟せり、是れ太古夙に文明の域に達したる所以にして兩河の賜といはざるべからず。而も近年次第に荒廢せんとす。

Kizyl-Irmak
Sakrin

都會 バクダットは古來史上に名高く、其他バスラ・バビロン・ケルベラ等、又名あるものなり。

《バクダット》(平和の住所の義) チグリス河畔にありて人口十五萬餘。古來有名の都會たり。現今街衢尙狹隘にして、家屋の構造亦宏大ならざれども、商業繁盛なるを以て其名を知らる。

Bagdad

此地往古はサラセン帝國の東カリフ朝のありし所にして、一時アラビア文化の中心點たりし地にして、其の時代には、人口二百萬以上に達し、世界第一の大都と稱せられしことありといふ。

貿易

貿易 輸出品の重なるものは、香料・眞珠・珈琲・ゴム・インヂゴ等にして、輸入品の重なるものは、木綿織・更紗・毛織物及び絲綢等なりとす。

アジアトルコ 位置、地相、都會

史上の事蹟

史上の事蹟 支那元の太祖の世、^{カリノワ} 哈利發(サラセン帝國の皇位繼承者)此地に據りて蒙古に服せず、其勢強大なりしが、旭烈兀の西征に逢ひ、西紀 千二百五十八年、元の憲宗の世、包圍攻撃の厄を受け、バクダード國(東カリファ朝)は遂に破滅せられたりといふ。



巴ソラ) エウフラト・チグリス兩河の合流せるシヤットエル、アラブに臨める良港たり。此地は兩河上流地方の貨物悉く本港より輸出せらるゝが故に、商業頗る繁盛の地たれども、氣候あしく且つ疫病流行の患あり。人口約十萬にして、しかも年々衰頹の狀ありといふ。
バビロン) 元のバビロニア帝國の首都たりし所に於て、エラム朝には大に繁盛を極めたりしが、西紀前四世紀に於て、アッシリアに破られ、更に新バビロニアを建設せしも、全しく西紀前五百三十八年。ペルシア王キロスのために破壊せられ今や都會としては何等見らるべきものなきに至れり。

Basorah

Babylon

バビロニア

バビロニア 今のバクダード地方の全稱にして、古代風に文化の域に達したる地なり此地方には、始めアカ

ケルベラ

チア人之に住みしが、セミテング人移住して之に代り、西紀前八世紀に至りては、アッシリア人と戦ひて之に破られ、ナボホラサルのため、漸く其獨立を完うし、其子ネアカドネザルは、銳意熱心、大に國威の發展を圖りしことありといふ。

ケルベラ バビロンの遺趾をさる數哩にあり。此邊一帶の地、バビロン舊都のありし所なりしといふ。ムハメ

ットの養子リア及びトルコ總督フサイン等の墳墓ありとす。

其他 ウルファ・モスル・クニンヂク等は皆チグリス河畔にある都邑にしてモスリンの原産地とす。

Urfa Mosul Ali Ke:beru
Kuyunjik Hussain

アルメニア及クルド Armenia & Kurdistan

此兩國は太古アッシリアの所屬なりしが、獨立してアレキサンドル大王に抗せしも、遂に其併合する所となりき。其後、前者は一時王國を建設したれども、再びペルシアに征服せられ、今又ロシア及びトルコ等に分割略取せられたり。而して後者も亦ペルシアの併合する所となりしが、今は全くトルコ帝の配下に屬せり。

位置 アナトリアの東にありて、北はロシア領カフカスに接し、東はペルシアに境し、南はメソポタミアの平野に連りて、東南西の三面は、地形上明瞭なる區別の見るべきものなし。面積凡そ七萬二千方哩、人口凡そ二百五十萬あり。

住民 住民の多数はアルメニア人及びクルド人にして、其他少数のトルコ人・猶太人等あり、多くは牧畜を業とせり。

アジアトルコ 位置、住民

地相 國內至る所高原性にして、山脈縱横に錯雜して、一定の系統をなすなく、或は火山岩の噴起せるあり。或は湖水の滯溜せるあり。或は峡谷あり。而して南より北に至るに従ひ、土地次第に隆起して、アララット山に至りて其極に達せり。

Ararat

アララット山 此國の北部に位し、高さ凡そ五千六百六十米あり。四時戴くに白雪を以てし、山勢極めて壯大なる圓錐狀の火山たり、雪際線約九百米にして氷河多し。太古大洪水ありし時アダム、イブの一族の避難せし古傳説を以て著名なり。

河流湖沼 河流にヨルダンあり。湖沼に死海あり、共に有名なり。

ヨルダン河 ヨルダンとは河の義なり。源をリバノン山の西側に發し、南流しチベリアス湖を過ぎ、ヤルムック・ヤボック等の諸流を入れ、死海に注ぐ。海面以下三四百メートルの所を流る。本河は往昔耶蘇教徒が洗禮を受けし所なりしを以て名あり。

Jordan Libanon

死海(ロッド海) 一に鹹湖又は鹽湖と稱す。長さ四十五哩、幅十二哩餘。東西の兩岸は絶壁をなし、南岸には沼地、北岸には平野あり。無口湖にして且蒸發速なるがゆゑに、鹹味頗る強し。本湖は世界最低の湖水にして、海面下約四百メートルにありといふ。

Dead-Sea Yarmuk Yubbok

湖水の性質

湖水の性質 本湖の生成は陥落したる凹地に滯溜したるものにして、水深凡そ三百四十米、注入河流あれども排水口なきが故に、現今の含鹽量は實に二五%の多きに及べりといふ。従つて比重頗る大にして人體を沈むることなく、又生物の棲息せるものなしといふ。

沿岸には硝石・食鹽・岩鹽・大理石等の鑛床あり。(アジア、トルコ地相の條参照)

チベリアス湖
メロン湖

チベリアス湖 死海の北方に位し、面積凡そ其四分の一にすぎず、四方斷崖を以てなり、鹹味頗る強し。メロン湖 チベリアス湖の北にありて構成並に鹹味等前者に異なるなし。

Tiberias Merom

氣候 海岸及び高地は稍、溫暖なれども、他は概ね寒暑の差甚しく、殊にヨルダンの谷、及び死海の附近は、熱帶の氣候を有せり。されどあまり健康に適せざるにあらず。

産物の重なるものは、小麦・無花果・葡萄・羊毛等なり

都會 都邑中名あるものを上げれば、エルゼルム・バン等なり。

エルゼルム アルメニアの首府にしてバン湖の西北エウフラト河の上流にあり。人口凡そ六萬。此地アジア・ヨーロッパ間の商業上、頗る重要な位置を占むるがゆゑに、貿易頗る繁盛なり。又市街の周圍には城砦を築き、極めて堅固の備をなせり。

Erzerum

沿革 此地は千二百年、セルジユク人之を占領し、千五百十七年トルコ領となり、千八百七十八年ロシア人の略取する所となりしことあり。斯くて千八百九十五年、アルメニア殺戮の行はれし所たるを以て知られたり。

バン エルゼルムの東南凡そ百五十哩、バン湖の沿岸にあり。附近楔形文字の碑文あるを以て史上に名あり。

Van

アジアトルコ地相、氣候、都會、沿革

此國はもと、アッシリア及びバビロニアの一部なりしが、ヘルシア王キロスに征服せられて其領に歸し、後又、アレキサンドル大帝に併合せられたり。斯くてエルサレムに來りし教徒を虐殺せし事ありしを以て、十字軍の災厄あり。後千五百十七年、トルコに併せられ、更に又埃及代王に侵害せられしことなどありしが、千八百四十年、ヨーロッパ諸強國の保護により、トルコ領と確定するに至れり。

位置

メソポタミアの西南なる狭長の山地にして、東はアラビアに接し、南は埃及に連り、北はアナトリアに境し、西方一帯地中海に瀕せり。面積凡そ十五萬方哩人口凡そ三百萬あり。

住民

此地の住民は大方シリア・アラビア・トルコ・ニダヤ人等に於て、多くは遊牧を事とし、一定の住地にありて一定の職業を營むもの少し。



地相 國內には南北に連亘せる二條の山脈あり。其西方にあるものをレバノン山といひ、東方にあるものをアンチレバノン山脈といふ。而して此兩山脈の間は、所謂地溝帯と稱する陥落地域に屬せり。

地溝帯の生成

地溝帯の生成 レバノン及びアンチレバノン兩山脈は。元來相連続せる一帯の高地なりしが、茲に幾多の斷層を生じて、其中間に於ける地帶陥没し、殘部によりて以て、此兩脈を形成したるものなりといふ。而して此等地層は主として第三紀層及び白堊紀の成層より成り、東西地溝帯の兩側に沿へる部分には、間々玄武岩の露出をも見るといふ。

都會

ダマスク・アレppo等は此地方の主要なる都なりとす。

《ダマスク》

世界の古都として世に稱せらるゝと共に、今猶此地方最大の都府として、政治上及び商業上の主權を占むるがゆへに、其名を知られたり。人口二十萬。

此地はアンチレバノン山麓に位して、海拔實に七千米以上に達し、沙漠隊商の中心地たり。又刀劍の製造を以て名高く、セントジョンの教會、及びイスラムの最大寺等あるを以て名あり。

沿革

此地は古代シリア人の始めて都せし所にして、後ヘブライ人に併せられ、更に回々教徒に奪はれたることなどありしが、尋ぎて第二回十字軍の侵略を受け、更に千二百五十八年、旭烈兀の略奪を被りしことあり。

《アレppo》

エウフラト河の上流に近き西方にあり。此地方にては之をハルブといふ。人口凡そ二萬。古來軍事上及び商業上の要都たり。近年度々の大地震を蒙り人口も大に減少せり特に千八百八十二年の大地震の如きは立ち所に九千人の生命を奪へり。

Aleppo
Halep

Damascus

saint john church

イスカンドラン 北方に於ける重要な商港にして、トルコ語にてはアレキサンドルの意なりといふ。絹・木綿・舍利別・煙草・羊毛等を出し、米・食鹽・西洋雜貨を輸入す。

パレスチナ Palestine

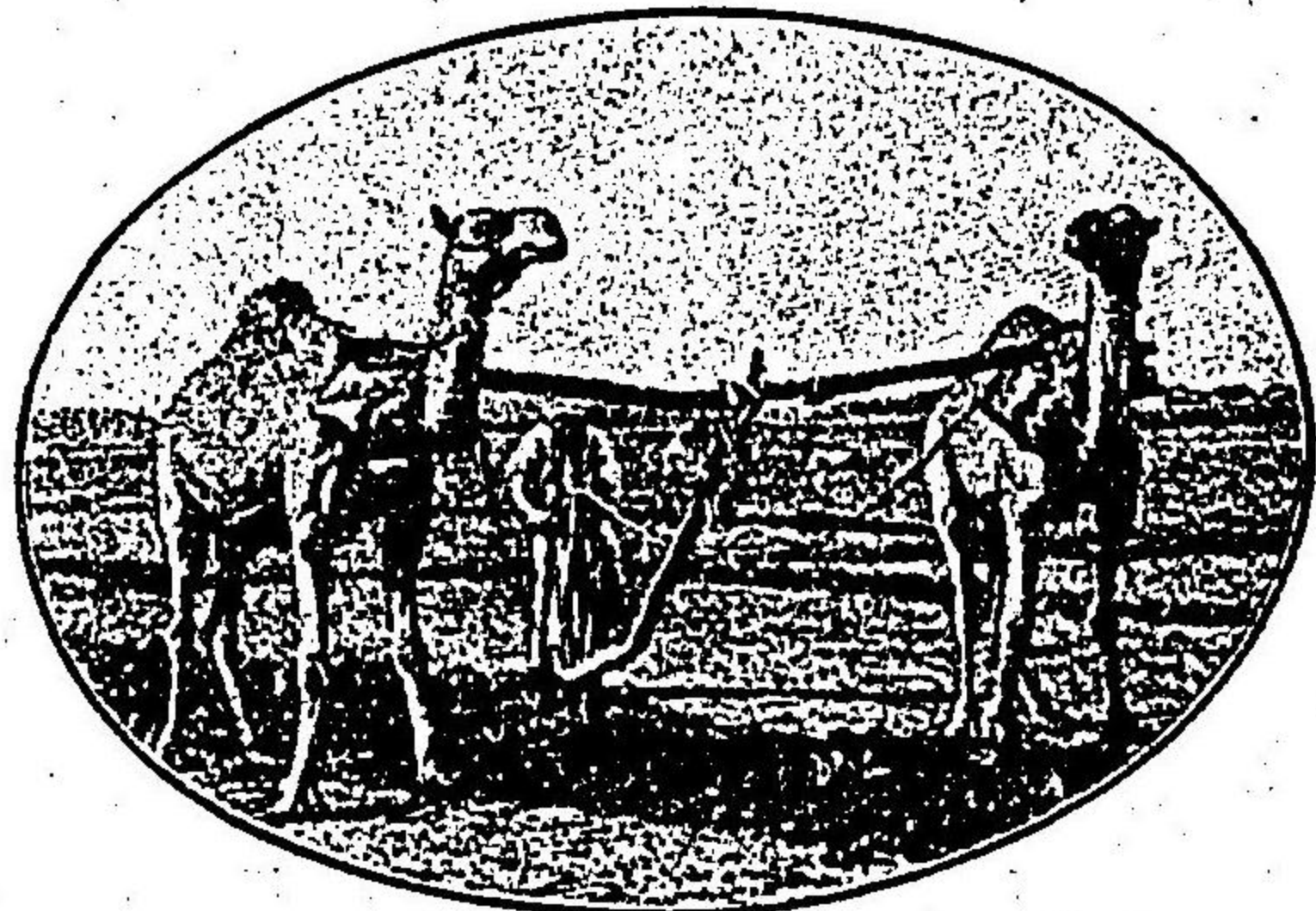
此地方はもと、カナーンと稱せられ今やキリスト教徒によりて聖地と名けらるゝ所にして、古代史上、最も有名なものたり。而して往昔は所謂スキタイと稱する遊牧人種の住地にして、埃及王之を征服し、紀元前千三百年代に至りて、ヘブライ人代りて占領し、ソロモン王に至りては國勢大に振ひたり。然るに其子代りて其位を嗣ぐに及び、國內俄に分裂して、ユダヤ・イスラエルの南北兩部に分たれ、紀元前五百八十四年に至りて、前者はバビロニアに、後者はアッシリアに、合併せられ、次ぎて兩者共にペルシアに征服せらるゝに至れり。斯くて其後更にローマ帝國の屬領となるや國內をあげてキリスト教國となしたりしが、最後トルコ人の手に歸するに及び、回々教徒は一致團結して之に當り、茲に宗教上の争端を惹起して、キリスト教の巡拜者を虐待し、遂に十字軍を起すに至れり。

位置 シリアの南方に位して、北はレバノン山に境し、東はヨルダンの溪谷に接し、

西方一帯の斜面は地中海に臨めり。東西凡そ七八十哩、南北凡そ百四十哩、面積凡そ八千方哩、人口凡そ三十五萬餘あり。

地相 西岸一帯の沿岸平地を除くの外、一般に高低起伏多くして、地形一様なる能はず、氣候も亦各處差異あり。されど寒暑の差は附近諸州の如く甚しからず。住民の多数はアラビア人に屬せり。

Lskanderum



ナチスレマの民駝駱を以て耕作に從事す

都會 イエルサレムは史上最も有名なる都會にして、其附近にベテレヘムの小都あり。
イエルサレム 世界古都の一にして、紀元前一千〇四十九年の頃イスラエル王ダビード

始めて都を茲に奠めてより此の名を使用したるものなり。此地死海の西北岸に位し、人口凡そ七萬、海拔凡そ七千米にあり。四方包むに山岳溪谷を以てし、市街を圍むに城壁を以てす。而して府の内外には、キリストの墓・ムハメット昇天の遺跡・ソロモン王の宮殿等の靈地多くキリスト信者の巡拜する者絶ゆることなし。

沿革 此地はユダヤ教・回教・キリスト教等の靈地にして其遺蹟頗る多かりしが、紀元後七十年ローマ帝國の屬領となるや、キリスト教徒の市街となり、後西紀元六百三十七年更にサラセン人の手に歸してより、キリスト教徒は大に虐待せられて、官殿悉く破壊せられしかば、茲に所謂十字軍なるものを起して、千〇九十九年再びヨーロッパ人の聯合侵略に逢ひしが千八百一十七年又サラセン人に奪はれ千五百一十七年以後はトルコ人に支配せらるゝに至れり。

して、千九十五年より千二百七十年までの間に於て、前後八回にわたり、西ヨーロッパ諸國聯合して、遠征隊を派遣せり。此戰たるや、或は勝ち、或は敗れ百七十五年の久しきを経て、終に目的を達する能はず、却つてキリスト教徒は此等諸地方より驅逐せられて、回々教徒の勢力内に歸するに至れり。

〔ベツレヘム〕 イエルサレムの南六哩にあり。此地人口僅に三四千にすぎざれども、キリストの降誕地として、毎年巡拜者の跡を絶つものなしといふ。

キリスト(基督) 西紀前四年に生る。母をマリーといふ。ベツレヘムの宿舎の馬槽の側にて生れ幼にして頗る悟、長ずるに及び、ユダヤ教を基として、新に一神教を創め、自ら救世主と號して平等博愛を説き一視同仁の主義を立て、萬民の救済を圖り、布教を力めしかば、其傳播極めて速かなりしが、西紀三十三年、ユダヤ人のために、十字架に於て、磔刑に處せられたり。

サモス島 Samos

本島はギリシア時代に當りては、數學者。ピタゴラスを出し、又一時、ロトマの雄將アントニー・埃及の女王クレオパトラとの居住せし地として名高く千八百三十二年以來はフランス・イギリス・ロシア三國擔保の下に、一公國としてトルコに隸屬するに至れり。

〔位置〕 エーゲ海中に於ける小島にして、小アジアのスマルナ市の西南に位し、ミカル海峽を隔てて大陸と相對す。長さ三十哩、幅八哩、面積凡そ百八十方哩、人口五萬五千あり。

Pythagoras
Antonino
Creopatra

キリスト

Bethlehem

島内地味頗る肥沃にして、葡萄・煙草等の耕作盛にして輸出少からず。沿岸亦屈曲に富み、良港多し。

ワスイー 本島の首府にして商業盛なり。

ピタゴラス サモス島に生る。ギリシアの哲學者にして、且つ數學家たり。西紀前五世紀頃の人にして、所謂ピタゴラス派(數理説)の始祖なり。而して其説多くは門弟によりて傳へられたり。

キプロス島 Cyprus I. or Gypros

本島は千八百七十八年六月、トルコサルタンとイギリス代表者との間に締結せられたる條約により、イギリス領と決せられたるものなり。古來銅を産出するを以て名あり。英語に銅をカツパーと稱するは此の島の名より轉訛せし稱なり。

〔位置〕 地中海の最東にありて、アナトリアの海岸をさる四十哩にあり。地中海中第三の大島にして、ポートサイドの北、約二百四十哩に位す。面積凡そ三千六百万方哩、人口凡そ二十五萬と稱せらる、ギリシア人最も多し。

〔地相〕 島形西南より東北に延長し、島内南北の兩山脈あり。南にあるをオリンパス山脈(平均二千米)といひ北にあるをキレニア山脈と稱す。而して此兩山脈の間には、所謂メソレアの平野ありて、果實・棉花・羊毛等の産出夥しく又山には森林鬱蒼とし繁茂し、氣候も亦頗る清涼なれども、アラビア地方より來る風は、健康に適せずといふ。住民

アジアトルコ 位置、地相

Mesoren Olympus
Kerynia

Pythagoras

Vathy

ワスイー
ピタゴラス

の多数はギリシア人にして、キリスト教を奉ぜり。

富源 住民の多数は農業を營むが故に、農産物頗る多く、又家畜・鑛物等も豊なり。而して産物中輸出品の重なるものは、大麥・小麥・綿・橄欖・葡萄酒・羊毛等にして、輸入品の重なるものは、織物・煙草・米・石油・砂糖・諸雜貨等なり。

都會 島中名あるものをニコシアとす。

〔ニコシア〕 本島の首府にして、島の中央部にあり。人口凡そ一萬五千餘、寺院の壯麗なるもの多し。此地更紗及び毛氈の製造盛なるを以て知られたり。

此他 ファマグスタは東岸に於ける唯一の商港にして、其西方にラルナカあり。又、ラルナカの西南にはリマンルありて葡萄酒の醸造盛なり。

一 アラビア半島 Arabia

本國はもと、ムハメットの創めたる回教國にして、國民は之が勢力を假りて以て國威の發揚を圖り、紀元六百四十年代に於て、近傍の諸國、パレスチナ・シリア・メソポタミア・ペルシア・エジプト等を征服したることあり。然れども民勞次第に衰頹して沿岸は概ねトルコ・イギリス等の領有に歸し、中央アラビアの地は、遊牧の民、天幕内に住居して以て牧畜に従へり。

位置 南方アジア三大半島中、最も西方に位せるものにして、ペルシア灣と紅海との間にあり。而して北はシリア及びメソポタミアに接し、西北はスエズの地頭に連り、南方一

Muhammed

Famagusta
Larnaka Limassol

Nicosia

一シナイ半島
二ヘジャズ
三イエメン
四ハドラマ



アラビア人の生活の圖

帯の地はインド洋に面す。東西凡そ千五百哩、南北凡そ千三百哩にして、不正なる平行四邊形をなせり。面積凡そ百二十五萬平方哩、人口凡そ五百萬と稱せらる。

區劃 アラビアの區分は、從來區々として一定したるものなく、頗る複雑を極め、殊に中部地方に至りては、今日猶世に知られざるもの多し。而して之を大別する時は次の如し。

〔一〕シナイ半島 頂點は紅海に臨み、底邊はパレスチナに接せる小三角形の半島にして、東にアカバ、西にスエズの兩灣あり。往昔モ一ゼは本半島のシナイ山上にて十誡を受けたるものなりといふ。面積凡そ二萬三千方哩あり。トルコ領なり。

〔二〕ヘジャズ 紅海の東岸にそへる沿岸地にして、幅極めて狭く、海岸より凡そ五十哩乃至百哩を出入して内地に接せり。トルコ領に屬す。有名なるメッカ、メヂナの兩市は此の地方にあり。

〔三〕イエメン ヘジャズの南隣にあり。沿岸及び内地の兩部よりなり、長さ四百哩、幅百五十哩、面積凡そ七八萬方哩、人口凡そ二千二百哩あり。名義上トルコに屬せり。

十餘萬あり。此地土地豊沃にして熱帯性の産物にとめり、トルコ領の地に屬せり。
〔四〕ハドラマウト アラビア海に面し、アテンよりラツサルハット岬に至る爽快なる一高原にして、延長凡そ千二百哩あり。名義上トルコに屬せり。

Hadmaut

Yemen

Hejaz

Sinaitic

五オマーン

〔五〕オマーン ベルシア海とアラビア海との沿岸に沿ふて走れるアラビア半島東南隅の地方にして、氣候炎熱、健康に適せず。イギリス政府の保護を受くるものなり。

六ネチド

〔六〕ネチド 中央アラビアの高原にして、ワハビー王國たり。四面繞らすに沙漠を以てし、地上別に稱するに足るものなし。

七北部沙漠地方

〔七〕北部沙漠地方 ネチドの北にありて、シリア高原の南方に位す。此地海拔凡そ五六百米に達し、東方次第に低下してベルシア海に及べり。海岸ベルシア海頭にハサと稱する一地方あり。

八南部沙漠地方

〔八〕南部沙漠地方 中央アラビア高原の南方一帯の地にして、デーナ(アラビア語にて沙漠の謂也)と稱する荒蕪たる一大沙漠たり。面積凡そ五百萬方哩。東はオマーンより西及び南は、ハドラマウト及びイエメンに連亘せり。

〔地相〕

全國一帯の臺地にして、東・西・南の三方の縁邊には山脈あり。中央は即ち沙漠狀の高原にして、地勢北方シリア沙漠に向つて降下し西方及び南岸に於ては、平均二千五百米の連山あり。而して中央アラビアのネチド地方すら、猶一千米以上の高度にあり。要するに本國の地勢は之を三部とすべく、即ち海岸は一帯の低地にして之をテハマと稱し、肥瘠互に相半ばし、中央ネチド高原は一般に荒地にして所々に牧草の繁茂せるあり。又其の南部及び北部は全く沙漠に屬して、草木の生育よろしからず。

シナイ山

シナイ山 シナイ半島にありて高さ二千六百米古來史上に名高きものたり。モーゼの故事あり。

Sinai

ジエベルアクダー山

ジエベルアクダー山 一に峻山と稱す。オマーン海頭に蟠蝟し、綠樹繁茂せるを以て此名あり。高さ凡そ三千米あり。

此他、中部にジエベル、アチャ及びジエベル、セルマの二併行脈あり。カシム山の南にトウイク山脈あり。又其南部にハルク山脈等あれども、何れも秃山にして樹木繁茂せず。アラビア語ジエベルとは山の義なり。

ワヂー 全國を通じて河と稱せらるべきものなく、尙々降雨久しきに亘る時は、河流の形をなして水の流るゝものあれども蒸發速なるがゆゑに、忽ち消滅して其跡を絶つ。此の如きものを地學上特に名づけてワヂーと稱す。

〔沿岸〕

東はベルシア海並にオマーン灣に臨み、沿岸一帯の地は地味頗る肥沃なり。良港マスカットは此沿岸にありて、大船の碇泊に便なり。西岸は水温高き紅海に接し、沿岸一帯に高山脈あり。良港良泊極めて乏しく、帆船の外出入する能はず。又南岸はアラビア海及びアデン灣に瀕し、西岸と同じく不毛の小丘多けれども、全く良泊なきにあらず。アデンは千八百三十九年以來英國の經營せる所にして最も著名なる泊地なり。コーエットの良港は一にグレンともいふ。ベルシア海頭にあり。此他バーレーン港及びカチーフ港稍々名あるものなり。

島嶼

島嶼 ベルシア海沿岸にはキシム島ありて地味頗る肥沃なり。之に接してバーレーン及びメナネー・マハリツク等の諸島あり。

西海岸は別に擧ぐるに足るものなけれども、南半球には火山性よりなれる無數の小島あり。殊にペリムの如きは、アラビア半島地相沿岸

Menaneh M. harrrik Kishm Banran Bahreyn Kateef Grane Kowet Toweyk Mascat Jebel-Aja Harik Jebel-Akdar Jebel-Selma

近年イギリスの占領に歸してより稍有名なるに至れり。

氣候 **富源**

氣候は所によりて其趣を異にせり。されど一般に、内地は降雨稀にして寒暑の差甚しく、純然たる大陸的氣候にして、一晝夜の間にも、晝は四十八度の高温に達し、夜は二十度以下に下りて、結霜を見ること珍しからず。又沿岸地方は苦熱頗る強くして健康に適せざるものあり。而して沙漠地方に至れば、熱風常に吹き起りて、殺風の生ずること少からず。

シムーン

所謂殺風と稱せらるるものにして、極めて乾燥せる熱風にして惡臭有毒の氣流たり。人若し此氣に觸るゝ時は、惡感窒息を催して、四肢は熱鐵を注がるゝの感あり。而して其來るや、有色の細塵を含みて、徐ろに進行するがゆゑに、旅人は面を覆ひて之を避け、又は其通過するを俟つて進行するもの多しといふ。

Simoon

産物の種類も亦各地一様ならず、一般に植物は熱帶性にして、椰子・珈琲・護謨・無花果・葡萄・棗等を産し、動物にはアラビア馬の名殊に名高く、其他駱駝・水牛・山羊等を始めとし、獅子・虎等の猛獸並に美麗なる鳥類・有毒なる蛇類多し。又礦物には鉛・鐵・硫黃・瑪瑙・寶石等あれども、其産額極めて少し。

アラビア馬 アラビア馬の世界に名高きは實に其骨格の完美なると、四肢の發達せると、筋内の調齊せると、容貌の秀麗なるとあり。蓋し本國人の馬を愛するは、實に他國人が想像外とする所にして、家族も亦唯ならざる所なり。

Symoon
シムーン

アラビア馬

リ。飼料は概して、大麥若しくはシユロの果實を以てし、草葉又之に次げり。而して水は極めて其少量を與ふるのみなりといふ。

トルコ領アラビア

位置

ヘルシア灣沿岸エルハッサ及び紅海に沿ふて南北に延長せる豊饒なる土地にして、北部にヘジズあり。南部にイエメンあり。而して前者は二聖市のある所、後者は植物の繁茂極めて佳なるの地たり。面積凡そ十七八萬方哩、人口凡そ百五六萬餘あり。

都會

最も重要なるもの次の如し。



メッカへジアスの南端にありて人口凡そ六萬餘、ムハメットの生地として世に知られた

り。一に聖市と稱し、ムハメット教徒の此地に參詣するもの甚多し。ムハメットの大寺院を



拜禮の徒教トツメホマ (人アラビア)

カーバと稱し、其の中央に黒色の一石あり(實は天隕石なり)銀製の扉を有する寶藏の内に安置し、信者は此所に參拜して其の扉に觸るれば、忽にして罪障を消滅し、天國に昇るの門戸を開くと稱せらる。信者參詣の季節には全市は一大勸工場の如くなりて股賑を極む。

アラビア半島 氣候、位置、都會

El-Hejusz
Yemen El-Hassa

ムハメット 回教の開祖にしてメッカに生る。幼にして父を失ひ、叔母の手に養はれ、長じて後一富豪の寡婦の家宰となり、終に之と結婚せり。斯くて後沈思默考大に悟得する所あり。四方に遊説し、其教義を廣く四方に傳播し所謂ムハメット教の始祖となれり。

Mekka
Muhammed

〔メデナ〕 メッカの西方凡そ二百哩にあり。ムハメットの墳墓あるを以て名高し。其の墓は銀を以て飾られ、美事なる大理石を以て掩はれたり。メデナとは市街の義なり。此地は千八百十八年嘗てメッカと共に、エジプトのバシア(君主)に略取せられしことあり。

Medina

〔エルハサ〕 東海岸の北部、ペルシア灣に臨める地方にして、地味肥沃温泉湧出し、椰子頗る繁茂せり。面積凡そ三萬方哩にして、人口凡そ十餘萬あり。

Sana
Hodeidah

此他 サナアはトルコ兵の駐屯する所にして商業盛に、又、ホデイダは珈琲輸出を以て知られたり。

獨立諸州

〔ネデト〕 中央アラビアの地にして、四周の臺地より更に高さこと約百米餘。氣候稍々健康に適し、農耕に適するものあり。此地方中、獨立諸州の重なるものは、ハイル・エル、リアド等なり。

Hail
Er-Riad

〔ハドラマウト〕 アラビアの南海岸より、續きて内地の高臺に連れるものにして、名義上

トルコ領に屬すれども、實は數多の小酋長國に分裂せり。其内名あるものをマカラ・ミルバット・シバム・テリム等とす。

Makalla
Mirbat

〔オマーン〕 ペルシア灣に突出せる一半島にして、面積凡そ八萬二千餘方哩、人口百五十萬餘あり。山岳突如として海岸に起り、忽ち三千米以上に達するものすらあり。産物は椰子・粟・珈琲・藍・綿等なり。駱駝は又此地方の名産にして、其他銅・鉛・等の礦物並に魚屬等少からず。

Shibam
Terim

〔マスカット〕 オマーンの首府にして、人口凡そ五萬餘。此地もと、西紀十七世紀頃までは、ポルトガル人の占領する所なりしが、爾來幾多の變遷を重ねて、十八世紀に至り、遂にイエメン人之を略取し、千七百四十一年選まれて王となり、子孫相嗣ぎ、以て現王に至りしものなり。此の市の附近は地球上最も氣温の高き一地方として有名なり。市は赤色火山岩の上に立てり。

Maskat

イギリス領アラビア

〔アデン〕(亞丁) アラビアの最南端に於ける不規則なる卵形の半島にして、面積凡そ七十

Aden

五方哩あり。首府アデン港は一ケの火口港にして、周圍に山壁を巡らし鹽と水との外何等の特産物なしと雖も、東洋航路の要衝に當り、且附近貿易の一大中心地にして船舶の寄泊極めて夥しく、石炭積入等に重要な所たるのみならず、又英國海軍の要港として最も重要な所とす。此地は千八百三十九年十二月英船の此地に遭難せし以來、土國の治下を離れて英領に歸せしが、其當時アデンの人口は僅に六千内外なりしを、今や其の七倍以上に發達せり。印度ボンベイ政廳の治下に屬せり。

《ペリム島》 バブ、エル、マンデブ(涙の門)海峡を扼せる要害緊要の地にして、アデンと共に英國に附屬す。本島は千七百九十九年、英佛戦争の際イギリス領に歸したるものなり。

此他の諸島 アフリカ海岸を離れてソコトラ島あり。イギリスの保護に屬し、又、アラビアの沿岸を離れてクリア、ムリア島あり。共に英國に附屬せり。

ペーライン諸島 ペルシア灣内にありて、其内最大なるものは長さ二十七哩、幅十哩に達するものあり、其北にモハレック島あり。共にイギリス政府保護の下に屬す。眞珠採集業頗る盛なるを以て知られたり。

クリア、ムリア諸島 アラビア半島の東南にありて良港を有せり。

三、イラン高原 Iran

Kuria-Muria Bahrein Kuria-Muria Perim

此他の諸島

ペーライン諸島

クリア、ムリア諸島

位置 イラン高原は東方スレーマン山脈、西方チグリス河を限りとして、北はカスピ海及びツラニア平地に連り、南はアラビア海、オーマン海及びペルシア灣に臨める一大高地にして、長さ凡そ千三百五十哩、幅凡そ六百哩而積凡そ百萬方哩、人口約一千四百萬。

區劃

イラン高原は政治上之を分ちて三とす。

國名	面積	人口
ペルヂスタン	一三〇,〇〇〇 ^{方哩}	八〇〇,〇〇〇
アフガニスタン	二三〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇
ペルシヤ	六三〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇

地相 高原は其輪廓不正四邊形にして、周邊には屹立せる四五千米の高山脈をめぐらせり。即ち東はヒマラヤ山脈の支脈たるスレーマン山脈並にキルタール山脈によりて圍まれ北はバミルより西方に連れるヒンヅークシ及びカスピ海の南岸に弧狀をなして走れるエルブール山によりて限られ、更に西より南に亘りては、ペルシヤ及びロシア領外カウカシアの境に聳ゆるアルメニア山麓より東南方ペルシア灣側まで延長せるザクロス山脈並にクーチナル山脈等によりて、メソポタミア平原と分てり。而して内地にも數條の山脈錯綜せりといへども、殆ど稱するに足るものなく、平地は海拔平均五百乃至六百米、高地は平均千

Zagros Elburz Trans-Caucasia
Khu-Dinar Kirthar

二百米内外を有ち、中央には、×大鹹沙漠及び*乾燥沙漠を現出せり。之れ南北縁邊の高山は海洋より來る濕氣を遮るに由るものにして、其他多數の河川は閉塞流域をなして國內所々に閉塞湖沼を生成せり。又、南海部には沿海のデシスタン（熱砂國）デンシル（山道）セルハド（涼地）の階段をなせるあり。北部には濕潤なる低地と急峻なる山地の相接せるあり。一般に高原内には不毛荒蕪の地多くして、人生に利用すべきもの極めて少しとす。

河流 高原内地は一般に沙漠不毛の地多きがゆゑに著大なる河流を有せず、而して或は海洋に注入するあり、或は内部の湖沼に終るあり、或は沙漠に流出するものあり、今其内稱名あるものを擧ぐれば、アラル・カスピ海斜面にアム・ムルクアブ・ヘリルド・アトレク等あり。インド洋斜面にカプール・ダシウト・カルン等あり。又内地閉塞地にはヘルメンド・カシウルド・ファラールド・ハルド等あれども又ワチー（アラビアの河流の條参照）をなせるもの少からず。又、湖沼は東部にハムン・ハムンイマシケル・ネメスカル、西部にはニリス・ダルヤ、イ、マメク・ウルミア等あり。

沿岸 海岸線は頗る單調にして、カスピ海に於ける二百五六十哩を加ふるも、猶二千哩に過ぎずして、出入屈曲極めて少し。而して其内稱名あるものを擧ぐれば、灣にはグワダール・チャーバル・ブシール等あり。海峡にはオルムスあり。岬角にはラスオルマラ・ラスナウ・ヂヤスク・ラスヂャブリン等あり。又、島嶼は獨りベルシア灣内にあるのみにして、オルムズ・

河流

キシム・カラク・カイシヤ・シャイヒ・シウアイブ等あり。

沿岸の發見

沿岸の發見 此の海岸を發見せしは、紀元前四世紀の半頃にして、彼のアレクサンドル大王が印度に遠征せし歸途、其の部下の將チアルコスが、インダス河口の地より此の沿岸に沿つて海路ヘルシア灣に入りしを始めとす。

氣候 氣候は總て大陸的にして、寒暑の差甚しく、夏日は平均三十四五度に達するも、冬期は五度乃至十度の間にあり。雨量は極めて少く、海岸に於ける高山脈は、海洋より來る濕氣を遮るを以て、内地は一般に乾燥を極む。

産物は水量に不足なき地方にありては、植物は、穀類・ナツメ・ヤシ・葡萄等を産し、動物は獅子・豹・狼等の野獸、並に馬・駱駝等の家畜なり。此他山脈中には森林多く、又鑛物は其埋藏多けれども、採掘せらるゝなし。

○イラン地方荒廢の原因

按ずるに往古イラン地方群雄割據して邦國の隆替相次ぎて起り、幾多の人類は錯綜せる歴史を遺して去り。一時燦然たりし文化人目を眩するものありき。焉ぞ識らん、今日曠野蕭條として、荒村古驛空しく舊蹟を傳へ、住民意氣銷沈曠昔の勢なく、他の列強の争奪に一任して、甘んじて前朝の遺民となる其大國波斯の如き、頗に内治の革新を企つといへども、猶氣息奄々たるを如何せん。蓋し斯の如き變遷を生ぜし原因は固より人類・文明の性質に肝胎するや論なしといへども、抑も其背後に地勢風土氣候の變化が、有力なる原因をなすあるは、何人も想像する所なるべし。

イラン地方荒廢の原因は氣候の變遷にありと

× Deshit-i-Kiwir
*Deshit-i-Lut

(中略)

今をさる二千年前の古代イランの地方、之を今日に比するに、雨量過多、耕地の面積多大なりしも、一朝濫伐の弊害を醸し、遂に其土地を破壊し、濕氣の蒸發を激甚にし、以て今日の荒廢を促せしものにして、往昔歴山大王が長征の時、イランが今日の如く、乾燥せるものにはあらざりしなり。思ふにセイスタンの南方三百哩、バルチスタンの南部を流るラクシアン溪は、マシユケル河に注ぎ、鹹水の川なり。其岸には段丘を殘し、今日遺物の包含せるものを見るも、是れ明に嘗て集落の存せし徵證にして、其今日荒涼たるは戦亂の慘禍によること固より大なりといへども、亦濫伐の結果雨量減退して泉源涸落せしに因らざるばならず、(中略)

歴山大王の遠征當時の狀態

惟ふに歴山大王遠征の徑路は、ヘルシア・サマルカンドより藥殺河を經、パクトリア・印度を經て、バルスタン・ベルセポリス・パピロンに到れるものにして、今日の氣候を以てする時は、到底大軍を動かすべからざるや明なり。又之をセイスタン地方に徴するも、大王は印度を發するに臨み、十萬の軍を二分し、一部はクラテオルの統帥せる所に於て象并に重き貨物を付し、南アフガニスタン・セイスタンを通過し、大王は一軍を率ゐてバルチスタンの海岸、今の沙地を進行し、遠く海上の水軍と相呼應せり。其治道今日小數輕裝の隊商すら行旅に苦しむの地たり。況や當時懸軍萬里兒女を伴ふの大軍をや。(中略)

Krateor

Mashkel Rakshan

波斯人口の減退を政治上より觀察したる説

されど波斯人口の減退に關しては、此氣候の變化を否認して、政治上の見地より、幾百年間争亂、弑逆暴政相次ぎ、遂に今日の衰亡を來ししものとなし、若し統治宜しきを得ば古の繁華は永遠に持續し得べしとせり。要するに波斯に二千年の間氣候の變遷ありしは争ふべからざる事にして、諸説皆之に一致せり。而してヨーロッパ強國の統治其宜しきを得ば以て若生の安寧を増進し得べしといへども、又昔日の繁華を見る能はざるや明なるべし(下略)(教育時論)

〔パミル高原〕

イラン高原の東北に位し、「世界の屋梁」と稱せらる。此地は支那・イギリス

Pamir

領インド帝國・アフガニスタン及びロシア領シベリア等の中間に介在し、東にムズタフ(葱嶺)山脈あり、北にライ山あり、南にヒンヅークシ及びカラコルム山脈あり。土地は一般に高臺をなし、平均高度一千八百米を有し、地勢は大方西方ボハラ及びアフガニスタンに向つて傾斜せり。而してアム川及び其支流によりて排水せらるるものとす。

Bokhar

此地は政治上イギリスとロシアとの論争地にして、東の一部は支那に屬し、南部はイギリスに屬し、北部及び中部はロシア領に屬し、イギリス領とロシア領との中間、並に西部はアフガニスタンの領有たり。(アジア洲地相の部参照)

ベルヂスタン

往昔ゲドロシアと稱し、紀元前四世紀にアレキサンドル大王がインド遠征の際、其兵を率ゐて横斷したる地方にして、其東北部はイギリスに屬し、國の大部分はケラットに住するハンの配下でありしが、千八百七十六年以來、イギリス政府の保護を受くるに至れり。

Gedrosia
Beluchistan

位置 イラン高原の東南部を占め、東はイギリス領インドに接し、北はアフガニスタンに境し、西はベルシアに隣りし、南はアラビア海に臨めり。面積凡十三萬方哩、人口凡そ八十萬あり。

イラン高原位圖

住民 住民は一方哩僅に六人餘にして、アリア族のペルチ人種最も多く、其他イギリス人並に雜種等ありて白人の外。概ね回教の信徒たり。

地相 イラン高原の一部にして、内地は山脈連亘して地味貧劣なれども、海岸低平の地は一般に豊沃にして、耕作に適せり。

河流 一般に河流のあぐべきものなく、小河・細流は、皆沼池に没して閉塞せらる。又、雨期に際しては、谿谷に數多の奔流を生ずれども、ハムン沼池若くは鹹沙漠によりて、悉く消失せらる。

氣候 寒暑の差頗る劇甚にして、冬日の極寒、夏日の酷熱共に著しきものなり。

殊に南部に於ては、夏期の炎熱甚しく、又北部の沙漠に於てもアラビア沙漠の如く、ユローと稱する熱風、往々人畜に大害を加ふることあり。

産物は米・麥・烟草・綿等を始めとし、橄欖・椰子・桃・櫻等の果實に富み、且つ馬・駱駝・羊等の飼養盛なり。野獸には豹・狼・野猫・山犬等の猛獸並に山羊・羚羊・驢馬の野生あり。又礦物には、金・銀・銅・鐵・鉛・硫黄・硝石等の埋藏あれども、採掘未だ行はれず。

産業 産業中名あるものは農業及び牧畜にして、農産物には麥類・玉蜀黍・馬鈴薯・果實等多く、後者には馬・駱駝・羊等あり。工業品としては僅少な兵器和銃とを出すのみ。

政局 此國はイギリス國に屬するものにして、之を分ちて二部とすることを得べく、

河流

産業

其一はイギリス領インド帝國に屬するもの、他は附屬地たり。而して前者は後者の畧ぼ二分の一に當れり。

都會 都邑中名あるものをケラット・ケタ及びベラ等とす。

ケラット 此國の首府にして、カンダバルの南方凡百五十哩に位し、人口十餘萬、我金澤市と同大なり。海拔二千五十七米にあり。西紀千八百八十八年來イギリス領に歸せり。ペルヂスタン汗の夏の宮殿の所在地たり。

ケタ 北部に於ける都會にして、ボイラン越に對する要扼の地たり。此地は千八百七十七年イギリス軍の占領に歸せしことあり。軍事上重要な地にして、氣候溫和、頗る健康に適せり。

ベラ ラスベラの首府にして、ブラリ河畔の沃地に位せり。

カンダバ 汗の冬の宮殿の所在地たるが故に其名を知らる。

アフガニスタン

此國もと印度テルビ帝王時代にありては、其配下に屬したるものなりしが、後獨立して、千七百四十七年にはツラニ朝を立て、更に千八百三十九年にはイギリス軍入りテ、シャ、シウイジマを王位に即かしめたり。然るに其後イギリ

イラン高原 住民、地相、氣候、政局、都會

Afghanistan

Bela

Quetta

Kelat

ベラ
カンダバ

スの駐在官を殺戮し、屢々干戈を用ふることありしかば、ロシア人も亦其處に乗じて、千八百八十五年南進してベンジウデに達し、漸くイギリスとロシアとの衝突を來すに至れり。

元來此國はイラン大高原の最東部を占め、地味薄瘠なる一山岳國にすぎざれども、イギリスの寶庫と稱せらるゝインドと、ロシア領土との間に位するを以て、兩國政治上の關係甚だ多く、イギリス政府は經濟上何等の利益なきにも係らず、戦を好める此住民を威服せんとし、ロシア政府も尺土一寸地を南進して以て之に接近せんとしつゝあり世に所謂英露の衝突地と呼ばしむるものは即ち此の地方にして、既にしばしば大小の衝突を演出したり。

位置

一にウイラヤツの稱あり。イラン高原の東北部に位し、北はロシア領中央アジアに接し、東はイギリス領インドに連り、南はベルデスタンに境し、西はベルシアに隣せり。

東西、南北共に凡そ五百哩許にして、面積約二十三萬方哩、人口凡そ四百萬あり。此國はイギリス・ロシア兩國勢力の中間に位し、其境界線に對しては紛擾常に絶ゆることなく、又古來東洋に於ける、最も多く血を流せる場所の一として著名なるものなり。即ち千二百六十二年には、成吉思汗が一百萬の人口中、僅に四十人を生存せしめたるのみなりといふ。

住民

住民凡四百萬中アフガン人種最も多く、其他は蒙古及び其他の雜種なり、大小四百種族にも達せりといふ。故に一國としての結合極めて弱く、各部落皆獨立の姿にあり。而して純粹のアフガン人は一般に勇敢不屈の山國性人種にして、團結力強く、常に戰鬪を好み、酋長を戴きて之に服せり。概して回教を信奉す。

區劃

東部にカブトルあり。南部にカンダハルあり。北西部にヘラットあり。南西部にセイスタンあり。南東部

Wilajet

境界

にダマンあり。北東部にアノガンあり。東南部にカフイリスタンあり。以て全國を凡そ七部に分つ。

境界 ヒンヅークン山脈の北、アムル河の支流たるコクチャ河の流域地は、往年イギリス・ロシア兩國間に於て境界上の爭論激烈たりし所なりしが、千八百九十四年を以て、ロシア領とアフガニスタン領との境界確定し、漸く鎮靜に歸したり。

東境及南境も、久しく境界線の確定せられたるものなく、争鬪絶ゆることなかりしが、千八百九一三年、イギリスとアフガニスタンとの間に協約成立して、漸く寂滅たる齟齬に復することを得たり。

イギリス人稱して曰く、此境界線は正に深紅色を以て劃すべし。如何となれば、多量の血液を流して以て得たるものなればなりと。

地相

ヒンヅークン山脈は國の中央を東西に連亘して、蜿蜒三百五十餘哩、以てベルシアに至り、國を北部斜面と西南部斜面とに分つ。又、スレイマン山脈は北より南に亘りてインド河領との境界をなせり。而して四方海なく國內至る所、狹隘なる豁谷に富み、其五分の四以上は、高低起伏せる山岳縱横に駛走し、風景頗る佳なり。ワルド、ローレンス曰く、「アフガニスタンは山脈隘峽及狹隘なる豁谷の國なり。」と、以て其地勢の如何を知るべし。故に巨大なる山岳、登攀し難き峻嶺は、至る所に蟠嶠して、交通極めて不便なり。

チラスミル峯 ヒンヅークン山脈中の最高峰にして、海拔七千七百五十五メートルあり。我富士山の約二倍とす。イギリス、インドとの境上に聳立せり。

Tiratshmir

Hindukush
Sulaiman

Kokcha

カーイバル
狭路

カーイバル狭路 インド貿易を管轄商道路の一にして頗る險要なるものなり。即ち此峠は、幾世紀の間、各インド朝廷を威嚇して、財貨を掠奪したりし、アフリヂス部族の割拠したりし所にして、アレキサンドル王侵入の外は、鏖争常に相反奪せしのみなりきといふ。

ゴマル峠

ゴマル峠 一にゴイラル峠ともいふ。印度貿易の大略に當れども、強悪なる民族故にあり。幾多冒險的の商人は、武器を携へて之に勝ち、隘路亦其武器によりて戦に勝ち、以て國に歸るものなりといふ。

此他 ボラン峠はインドよりケタ地方に通ずる要路に當り、ペイワー峠はカプールよりガズンに至るの通路にあり。

〔河流〕 國の東北部を排水してインドス河に入るものと、中央部を集めて大ハマン沼中に入るものとあり。

クナール河 源をヒンヅークシ山中に發し、カプール河を合せ、インドス河に注ぐ。流程凡そ三百餘哩。

ヒルメンド河 國の西南部に於ける諸支流を集め、西南部沙漠を曲流して、ペルシア境に近き大ハマン沼中に入る。

ヘリルド河

ヘリルド河 ヒンヅークシ山脈中に發し、西流してペルシア境に達し、一部は遠くロシア領カラクムに至り沙漠中に没するものなり。

カプール河

カプール河 ヒンヅークシのクヒ、マバ山中に發し、インド境上に於てクナール河に入る。

氣候 富源 氣候は緯度の高低によりて支配せらるゝに非ずして、土地の高低によるもの多く、寒熱共に兩極度に達するものなり。一般に巖石磊々として露出し、森林の之を蔽ふもの稀なるがゆゑに、乾燥殊に甚しく、夏は熱風焦砂を卷きて、炎熱堪え難く、冬

Karakum Heri-Rud Hilmend Kunar Kubul Bolan Quetta Peiwar Gomul Khyber

酷寒劇烈なる雪嵐起りて、實に凍傷に侵さるゝものあり。

産物中、礦物の埋藏は頗る豊富にして、カプール河の砂金を始めとし、東北山中には金坑多く、又、ヒンヅークシ山中には、銅・銀・鉛・亜鉛・アンチモニー・硫黄等あり。鐵・石炭・岩鹽等も亦近年の發見にして、寶石類も少からず。野獸には獅子・豹・虎・狼・熊等あれども、大森林と稱するものは極めて乏し。

生業

生業 生業の主なるものは、農業と牧畜とにして、米・麥・甘蔗・綿・烟草・椰子實・林檎・葡萄等を産し、一年二回の收穫あり。牧畜は牛・羊・駱駝等にして、殊に牛は乳量の多きを以て知られたり。此他製作品には絹布・氈等を始めとし、羊皮・ホスチン(裘の類)等なり。

生活

貿易

アフガニスタン人は、一人にして兼て耕作者たり、貿易者たり、又戰士たり。彼等は常に途上逢着する所の掠奪より、成るべくだけ自家を保護せんがために、隊伍を組み武裝せる大なる隊商を作りたる、一隊の駱駝及び小馬に依りて、インド、カラッサン及びボクハラ間の貿易を管轄することに、其生活を費せり。彼等は威嚇しつゝ、又戦ひつゝ、逃避しつゝ、若くは賄賂しつゝ、ホクハラと印度との間を一ヶ年に二回、道を切り拓きて通過せり。云々。

貿易 輸入品の重なるものは木綿類・藍靛及び其他の染料・砂糖・茶等にして輸出品の重なるものは、馬・果實・野菜・穀物等なり。而して此等は多くインドに需要せらる。

政同 政體は世襲一系の君主政治にして、其権力は國王の性質命運によりて一ならず。

イラン 高原氣候、政局

政治上國內を分ちて、カブール・トルキスタン・ヘラットカンダハルの四州とせり。而して此國は表面上獨立國なれども、事實はイギリスの屬邦の如く、國王即ちエミルはインド政府より、毎年凡そ十二萬磅を受け、交通上の要地はイギリス人の占有に係れり。

〔都〕 (カブール) 此國の首府にして、海拔千七百六十二メートルに位し、人口凡そ七萬五千あり。此地は中央アジアよりインドに至る。商業上及び軍事上の重要なる所にし、年々巨額なる通商貿易行はる。城砦をバラ、ヒサルといふ。嘗て千七百三十九年には、チムルのために占領せられしこともありしといふ。又、千八百四十二年同七十九年等には英國兵の攻撃を蒙りたり。

〔カンダハル〕 國の南部に於ける都邑にして、インド及びベルシア間の貿易大道に當るを以て、商業上重要な地たり。人口凡そ三萬餘。此の市、一に『印度の鍵』と稱せらる。〔ヘラット〕 カブールの西三百哩にあり。一に『インドの門戸』と稱せられ、ベルシアの境に接近し、人口凡そ三萬餘あり。此地ロシアの南下を防がんとため、イギリスの警戒少しも怠らざるの地なり。ベルシア、印度、中央アジア及びロシア等の貨物の取引地たり。

ヘルツ 同名の汗國の首府にして、ゾロアステルの生地なり。

Kandahar Kabul Emir

Balch

Herat

ヘルツ

ケラット

ガズニ

ジエララバ
ツド

ケラット

土語城砦を呼んでケラットと云ひしを。後轉じて都名となりたるなり。國の中央部にありて、アフガニスタン高原の上(海拔二千五百餘米)に立てり。インド及ベルシアに至る道路に當れる小都會とす。

ガズニ 十世紀の頃在りては、此地方の酋長の居城にして、地平線約三百尺の丘陵上に立ちて、堅固なる城砦を有せしが、千八百三十九年より全四十二年迄の間に於て、英兵の攻陥する所となりたり。所謂アフガン戦争の最後の激戦地とす。

Ghazni

ジエララバツド カブール河岸に立てる一名邑なり。

六、ベルシア 波斯 Persia

此國は太古メデアの屬地にして、カムビセスなるもの總督の任にあり。駐在して以て之を治めけるが、其子キロソス大志あり。紀元前六百五十年兵を擧げてメデアを滅ぼし、王國を建設せり。斯くてダリオス嗣ぎて立つに及び、其勢頗る強大となり。東はインドより西はヨーロッパに至りしが、ケセルクセスに至りてサラミスに破られ、奪ぎてアレキサンドル大帝に亡ぼされたり。其後、西紀前百三十八年より西紀後六百三十九年までは、バルチア及サン朝の下にあり。夫よりアラビア人の屬邦となり、十世紀の終には、モンゴルのチムル配下に屬し、十六世紀の中頃には、更にトルコ人の手に歸せり。然るに、十八世紀の始より再び勃興したれども、千七百七十九年より全九十四年に亘りて内亂あり。現朝カジャールス皇帝其後を承けて位に即きしが、今は主としてイギリス及ロシアの勢力範圍内にありといふ。

〔位置〕 西部アジアの中央に位し、イラン高原の大部を占む。此國東はアフガニスタン及びベルヂスタンに接し北は外カウカシア・カスピ海及びロシア領トルキスタンに隣し、西

ベルシア位置

はアジアトルコに境し、南方一帯の地はアラビア海及びペルシア灣に臨めり。東西約九百哩、南北七百哩、面積凡そ六十二萬八千方哩にして、我帝國の約四倍に當り、人口九百五十萬あり。

住民 一方哩に對する人口十五人餘にして、概ねペルシア人に屬し、少數のトルコ人アラビア人等あり。多くは遊牧を業として、天幕に住し水草を追ふて轉居し、夏季は山腹の涼しき所に移り、冬季は低き地方に移れり。概ね回教信徒たり。

ペルシア人は、一般に體格優美にして、古來武勇を好み性質伶俐なり。動作亦活潑にして智識に富めども、堅忍不拔の精神に乏しく高尙なる推理力あれども、普通の事物を思考するを厭ふの風あり。

地相 此國の大部分はアフガニスタンの一部及びベルヂスタンと共に、所謂イラン高原の大部をなせるものにして、内地は一般に一千米乃至一千二百米の高臺をなし、數條の山脈ありて西北より東南に連亘せり。而して此等併行山脈間には、廣き平原、若くは地味豐饒なる盆地・峽谷あれども、全面積の三分の一以上は、不毛なる沙漠、若くは鹽味を帶べる荒野にして就中東北に位するホラサン大鹽沙漠、及び東南に位するロット沙漠の如きは、殊に荒涼を極む。

エルブールズ山脈

エルブールズ山脈

國の北方カスピ海邊に蜿蜒連亘せるものにして、山脈中の最高峯をデマメントといふ。

Demawend
Flburz

Khorassan
Lot

ザグロス山脈

ザグロス山脈

火山にして、高さ五千六百七十米。其北方及南方の傾斜地には、石炭・鐵等の埋藏多し。此山脈の西北部にアゼルビジャン州あり。ペルシア教(拜火教)信者の「火卵」と稱して巡禮するもの尙甚多し。

Zagros
Elwend
Khbi-Dend

カルーン河

カルーン河 此國唯一の大河にして、海上用の汽船を浮ぶることを得て、インド貿易に頗る便利を與ふ。流末ペルシア灣に注ぐ。

Karun

サフイド、
ルド河

サフイドルド河 ロシア貿易港たる、エンゼリー港近傍にてカスピ海に注ぎ、舟運頗る佳なり。流程凡そ八百哩。因にイラン地方の河名にルドなる語尾を有するもの多し。ルドとは河の義なり。

Sefid-Rud

海峽

北にカスピ海、南にペルシア及びオマーン灣ありて、北部の海岸線凡そ三百哩、南部の海岸線凡そ一千二百哩あり。陸地約四百三十方哩につき一哩の海岸を有する割合なり。されど一般に屈曲出入少くして、良港に乏しく通商貿易頗る不便なり。而してペルシア灣はホルムズ海峽とオマーン灣とによりてインド洋に通ずれども、沿岸至る所數多の暗

Hormuz

Arax
Etrex

ペルシア 住 民、地 相、沿 岸

確あるを以て、航海頗る困難なり。

南・北沿岸の差異

南・北沿岸の差異 北方カスピ海の沿岸は、濕地にして森林に富み、主としてロシア帝國との通商貿易を營み、南方ヘルシア海の沿岸は、乾燥にして熱風の侵來するもの多く、主としてイギリス領インドとの通商貿易を營めり。又カスピ海はヘルシア海の水より低きこそ凡二十五米なり。又カスピ海は航行利便なれどもヘルシア海には暗礁所々に起伏して航行自由ならず。

島嶼

島嶼 ヘルシア海内にオルムズ・キシム・カラクの三島あり。オルムズは昔て西紀十六七世紀中、イスパニア人の策源地として、東洋貿易の市場たりし所にして、名高く、又、キシムはヘルシア海の門戸に當り、カラクはインド貿易の有望地として、共に世に知られたり。

Ormuz
Karak Kishm

氣候 富源

氣候は所によりて差異あれども、要するに大陸的性質を帯び、寒暑共に極端に達す。即ち夏期は猛熱のため、空氣は膨脹して平均氣壓七百四十五耗に達するにも係らず、冬期は寒冽のため、空氣冷縮して七百六十二耗に上ることあり。概して北部の森林地は濕氣多く、南部の乾燥地は炎熱強し。

富源には、山間の溪谷なる、灌漑便利にして土地肥沃なる所にありては、米・麥・煙草・綿・葡萄・阿片・椰子等に富み、其他諸種の藥草・染草・護謨樹等繁茂せり。又野獸には、虎・豹・獅子・狼・大野猫・野生驢馬・野生羊・鹿等あり。家畜には牛・馬・驢馬・駱駝等あり。礦物はトルコ玉・白大理石等の裝飾品を始めとし、石炭・鐵・銅・鉛・硫黃等あれども何れも採掘完

からず。而して工藝品としては、毛氈・肩掛・刀劍等の數種あるのみ。

産物 國土の大部は不毛地にして、耕作地は僅に四十分の一に過ぎざれども、住民の多数は農牧に従事せり。又製造品中最も有名なるは毛布にして、カルヂスタン製のもの最も名高く、地質堅固にして、其滑澤なること恰も天鵝絨の如し。毛布に次ぎて名あるは肩掛製造にして、インド、カシムル産にも劣ることなく、此等は概ね女子の細工よりなり、山羊の下毛にて織らるゝものなりといふ。

貿易 一ヶ年の輸出入貿易額は凡そ千五百五十萬磅にして、其内、果實・阿片・綿・羊毛・毛氈・眞珠等を重なる輸出品とし、木綿製造品・玻璃・衣類・石油・珈琲・藥材・馬車等を重なる輸入品とす。而して之が取引先はイギリスを第一とし、フランス・ロシア之に次ぐり。

政局

此國の政體は千九百六年までは、殆どトルコと同様にして、國王は回々教の教義に背戻せざる限り、其權力無限にして、一般人民よりは回教々祖の代理者と



シルベの遊牧民の共の家

して尊崇を受けたり。然るに千九百五年に至り、國民より代議政體を要求し、千九百六年より憲法を制定し、議會を創設せり。議會は元老院及び代議院よりなり、前者は六十名以内、後者は二百名以内とせり。内閣は外務・内務・軍務・財政・法務・教育・工部・商部の各長官よりなれり。又、地方は之を三十六州に分ち、總督をよきて之を治めしめ、各總督は中央政

ヘルシア氣候、産物、政局

貿易

府に對して其責任を負ひ、所轄知事を指名するものとす。

軍備に關し、陸軍は十二師團十三萬人と稱すれども、常備軍の實際は六萬人内外なるべく、又海軍は八隻の艦隊よりなり、常時は税關部に使用せらる。兵力微弱にして一方はロシアに壓迫せられ一方は、英國よりの干渉を蒙り、國勢萎靡として振はず。



ペルシア人の婦人

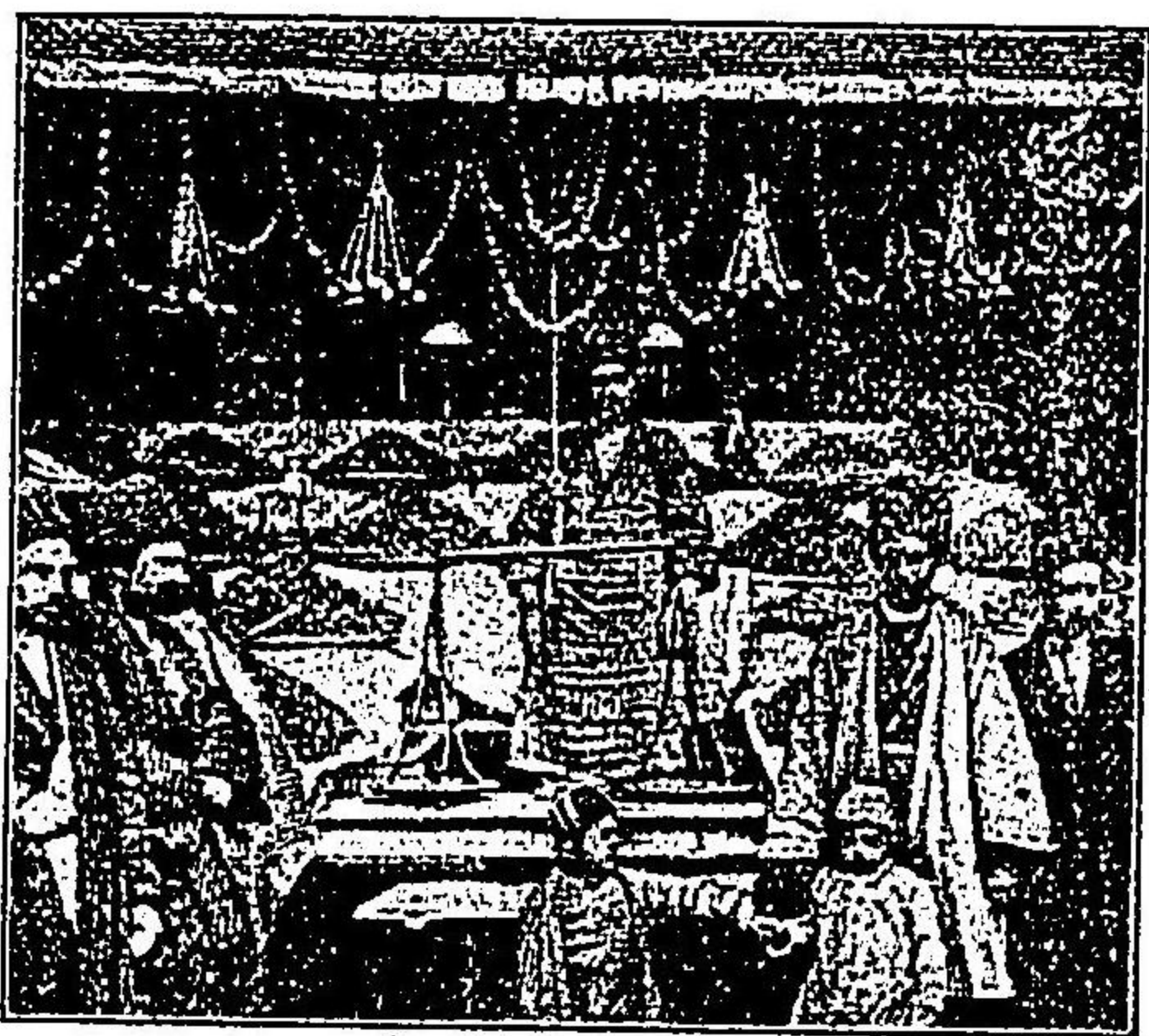
文化 國內一般教化不充分に於て首府テヘランには幾多の高等學校あり、皆公共資金を以て之を維持し、宗教・ペルシア文學・アラビア文學及び其他の科學を教授せり。又多數の小學校ありといへども、富者は一般に教員を家庭に備ひて教育せり。要するに不振の状態にあり。宗教は回教のシーア派に屬するもの八百萬人、サンニ派に屬するもの八十萬人あり。此他キリスト教徒及び猶太教徒等七八萬人あり。

此國は紀元前三四五世紀の頃にありては、文化大に進み、國威四方を壓せしが、拜火教の迷信に陥り、且武勇の一方のみ發達して、教化の上進と智徳の開發とを力めず、森林の濫伐、氣候の惡變等おこりしかば、遂に其發達を遂ぐるを得ず、今や強國の制肘を受けて振はざるに至れり

都會 内地商業の中心として名あるものは、テヘラン・ダブリーズ・イスバハン等にして、開港場としては、ペルシア灣にブシル、オルムズ海峽にアッバス、及びオーマン灣に近きリソガ、カスピ海に臨めるエンゼリ等あり。何れも開化の度低く、盛んならず。

拜火教

大地震



ペルシアの工場

テヘラン エルブールズ山脈の南麓、海拔千三百三十二米の平原中に位し、千七百八十八年以後、此國の首府と定められたり。人口凡そ二十二萬餘にして、稍壯麗なる建築物多く、軍事上亦頗る重要な地たり。周圍凡そ十二哩、十二門を有せる城壁あり、濠渠によりて圍まれ、市内は男女席を別てる鐵道馬車縦貫せり。

ダブリーズ 此國の舊都にして、且拜火教徒の聖地と稱せらるゝ所にして古跡多く、又此地方商業上の中心たり。此地トルコの境界に接近し、嘗てチムルの奪掠に逢ひ、且最近二世紀中、實に五回の震災を受けしが、數多の拜火教寺院・勸工場等屹立して頗る壯觀を極む。人口凡そ二十萬あり。

此地の氣候は、夏季華氏日中九十四五度に上り、夜は結霜を見る程なれども健康には害少し。

大地震 紀元一千七百二十七年の大地震には、市民の死せしもの約七萬七千の多きに及び全九十二年にも大激

ペルシア文化、都會

震ありき。

〔イスバハン〕 古代大アバスの首府にして國の中央に位す。外觀稍零落の形を存すれども、猶重要なる都市たるの値あり。人口凡そ七萬あり。海拔千五百八十五米に位す。

マシヤド 此國東北隅の要地にして、イマンレザの墓所あり。古來マホメット教徒の神聖都府の一と稱せられ、巡禮者の跡を絶たざる所なり。又地方商業の中心地とす。

ウルミア 全名の湖水附近にて、地味豊饒なる平原に位し、ネストリアン基督教徒に對する大僧正の在る所として世に知られたり。

マシヤド
ウルミア
シラズ

シラズ ヘルシア國粹の搖籃地として、夙に詩歌中に歌はれたる古都にして、薔薇・葡萄・鶯等を以て名あり。千八百五十三年四月の大地震にて市街の大半破壊せられたり。附近に太古のヘルシア帝國の首都たりしパーセポリスの遺跡あり。

ブシール
アーワズ

ブシール 此國海洋貿易の中心地にして、葡萄酒、阿片、煙草等の産あり。ヘルシア海の北部に位す。アーワズ ヘルシア海に注入せるカールン河岸にある小都會なれども、近年カールン河の通航を開放せし以來次第に盛況に趣きつゝあり、將來大に注意すべきものなり。

此他 イエズトはイスバハンの東南にありて絹布・綿布を産し、ケルマンは亦其東南にありて數物を出し、レシトはカスピ海に近くして商業盛なり。

此地ルリスタン地方は數物を産し、附近のピヌッソンはダリオス時代の遺物及び文字彫刻の岩石あるを以て名高し。

Resht Kerman Yazd Shiraz Meshod

第六篇 印度及印度支那

一、インド、印度、身毒 Hindostan

〔位置〕 アジア洲の南部に突出せる三大半島の一にして、中央に位し、南は北緯八度五分なる半島の南端コモリン岬より、北は北緯三十五度なるカシュミルの北端に及び、西は東經六十六度三十八分なるマンズ岬より、東は東經約九十五度なるアッサムの東端に及び、長さ凡そ二千五百哩、幅凡そ千七百二十哩、面積凡そ百五十萬方哩あり。

〔區劃〕 面積頗る廣大なりといへども、イギリス領インド帝國を除きては、ネパール及びブライダンの二小王國と、殆ど猫額大のポルトガル領並にフランス領あるのみ。

	面積	人口
イギリス領インド帝國	八〇〇,〇〇〇	二二二,〇〇〇,〇〇〇
保護諸州	六七〇,〇〇〇	六三,〇〇〇,〇〇〇
フランス領	二〇〇	三〇〇,〇〇〇
ポルトガル領	一,五〇〇	五八〇,〇〇〇
ヒマラヤ山中獨立諸國	七〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇
インド位置、區劃		二六七

イギリス領インド帝國

British Indian Empire

沿革 世界最古の五大文明國の一に位し、今より四千餘年前、既に文化の發達著しく、文學技藝の見るべきもの極めて多かりき。而して紀元前六百二十三年には釋迦牟尼出て、佛教を唱導し、餘光東洋諸國に傳達して、頗る盛なりしが、西紀前三百二十七年、遂にアレキサンドル大王の征服する所となれり。斯くて西紀千三百九十八年には、サマルカンドよりチムル起りて此國を征服し、其の五世の孫パベル再び來りて之を略し、千五百二十八年、遂にモンゴル帝國をテリに創建せり。



像肖ウイラクドーロ

之より先き、西紀千四百九十八年、バスコ、ダ、ガマはポルトガル王の命を奉じてアフリカを回航して茲に來り、續きてオランダ・フランス・イギリス等のもの到來して、盛に本國と貿易を開始せり。斯くて千五百八十八年に至り、イギリス艦隊の、大に、イスパニア艦隊を撃破し、海上の實權を掌握するや。女皇エリサベタは遂に東インド商會を興して貿易の特權を與へ、更にポルトガル人と戦ひ、フランス人と争ひ、クライヴ・ヘースチングス等の力によりてカンガ流域の豐沃なる一帯の土地は、悉く其勢力範圍に歸したり。斯くてモンゴル王朝の衰微に乗じ、次第に土地の侵略を行ひ、實權をイギリス政府の手に收めて、モンゴル帝國を廢し、エリサベタ女皇は同時にインド女皇の號を與ふに至れり。時に千八百七十七年（明治十年）なり。

斯く、インド政權のイギリスに歸したるは、偏にロード、クライブ及びワーレン、ヘースチング兩氏が、前後相次ぎて之が經營の任に當りしに由るものにして、血を流し、骨を碎き幾多の辛酸を嘗めて以て漸く此大寶庫を得たるなり。

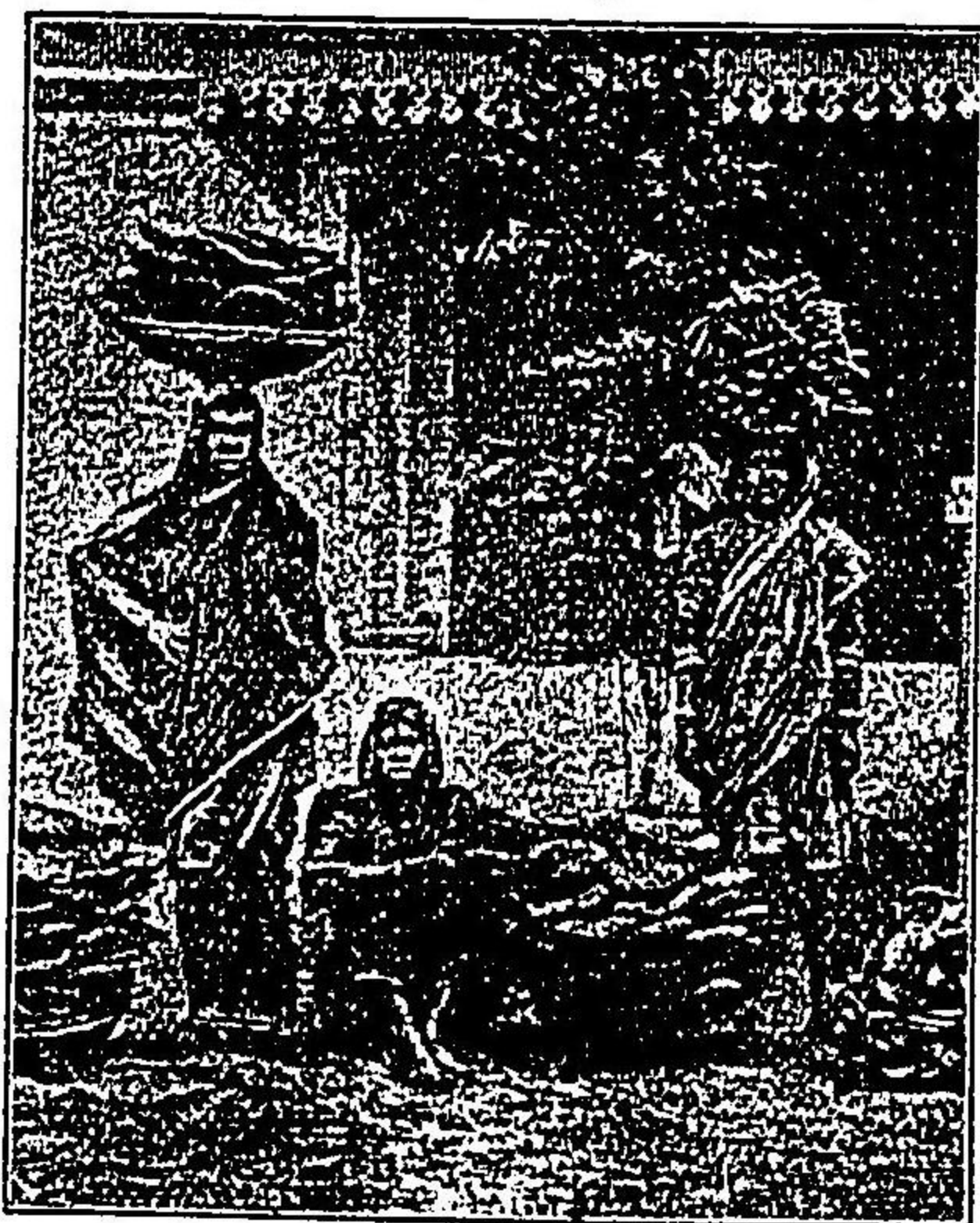
位置 アジアの南方に突出せる中央大半島にして、東はシャム及びビルマに隣し、北はヒマラヤ山系及びバミール高原を以て、西藏及びロシア領中央アジアに接し、西はアフガニスタン及びベルデスタンに境し、南はインド洋に臨む。東西の幅員と南北の長さとは殆ど伯仲の間にありて凡そ一千九百哩。面積保護諸州を合せて、凡百五十萬方哩、人口凡そ二億八千萬あり。

國名の起原 古名を天竺といへり。漢武帝の時には、身毒國といへり。後には新頭・辛頭又は信度等の文字を使用せり。是れ皆梵語の Sindh より來るものにして、其意大洋又は洪水の義なりといふ。之れアリヤン人が始めて中央アジア方面より此國に來りし時、インダス河の廣きを見て、海岸と誤認し、さてこそ斯る稱呼を用ひたるに始まるものなりと。斯くてペルシア人は S を H に轉じてヒンヅと訛り、ギリシア人は又其 H を失ひてインドスと稱するに至りしなり。而して印度、身毒等の文字は單に其の音を寫したるものとす。

住民 インドに於ける住民は種々の民族の混合よりなれり。即ち此國最舊民族は黒人種なれども、アラマブトラの巒谷より黃人の侵入あり。之と混淆して所

Sindh
Hindh
住民
Sindh

國名の起原



販を炭薪人度印

インド沿革、位置、住民

謂ドラービタ族をなせり。又、ヒマラヤ山系に接する高峯の地には、チベット族及びインド支那族あり。斯くてカ
ルの谿谷より來住したる黃種のツラニア族及び白種のアリア族あり。而して前者は主として體格に、後者は主とし
て精神に影響する所多かりき。此他西紀四世紀頃に移住したるラヂプト族、及び近代に至りてポルトガル人・フラン
ス人・イギリス人等の渡來ありて愈々複雑なる種族をなすに至れり。

總人口約二億八千萬にして、平均一方哩につき約百八十餘人に當れり。特にガンカ河流域の地方は人口最も稠密
にして每方哩約五百人の密度を有せり。我日本は一方哩約二百七十人の密度とす。

地相 分れて三大部をなせり。即ち北部はヒマラヤ山系の區域にて、數多の並行せる
連山より成り、バミール高原其中央にあり。蓋し本山系は實に世界第一の高峻なる山脈に
して、延長凡そ一千五百哩、高度平均四千五百メートル以上に達せり。中部は本山系の南
側にして、ガンガブラマプトラ兩河の流域平地に位し、土地肥沃にして産物多く、人口亦
頗る稠密なり。又、南部は所謂デカン高原にして、平均七百米の高度を保ち、少しく西よ
り東に向つて傾斜せり。東西のガッツ山脈其縁邊をなし。高原の南には、ビンヂア山脈東
西に連亘して、地勢略ぼ三角状をなせり。而して其高度、西部にありては、平均千米乃至
千二百メートルにして、中央に至るに従ひ、減じて五六百米となれり。されば河流は概
ね東海岸に注ぎ、茲に著しく平原の發達せるを見る。

Vindhya
Ghats

ヒマラヤ山系



山ガナンジンチンク峯高の系山ヤラマヒ

カラコラム
山脈

ヒマラヤ越

ヒマラヤ越 ヒマラヤ山脈の通路は何れも高峻險峻なるが、其の著名なるものをあげれば、カラコラム越(一)
インド地相

一に雪山の稱あり。梵語雪の家の意にして、群峯崢嶸として天に聳え南
北兩大列をなして、インドの北境を東西に走り、幅百七十
五哩乃至二百十餘哩あり。本山系は世界第一の高度を有
し、海拔平均五千二百乃至五千八百米あり。其骨格をなせ
る主要の岩石は片麻岩よりなり、高峰に沿ふて花崗岩の噴
出あり。又南方の低處は沈澱層を以て被はれたる所多し。
本山系中には世界山岳の王と稱せらるゝエベレストを始
めとし、其他七千米以上の高峻高峯極めて多く、氷河亦頗
る多けれども、ミラム最も著はれたり。而して本山系を横ぎ
れる通路は其數少からざるも、僅に狹隘なる山道あるのみ。

カラコラム山脈 國の北部に位し、ヒマラヤ山系と並び稱せらる
ゝの高峯にして、海拔五千五百乃至五千八百米を有し、世界第二の高峯な
るダブサン即ちゴトウイン、アウスタン等の如きあり。雪線の南方に於て低
きこと、氷河の存在せること及び其他概ねヒマラヤに同じ。

Karakoram

Himalaya

Deccan (印支地) 梵語

エベレスト

中央平原

デツカン高原

第六篇 印度及印度支那

二七二

八、五五〇呎)及びムスタハ越等あり。共にカシミルより東トルキスタンに入るものなり、又セイラブ越はチベットに入るの路とす。

エベレスト峯 ヒマラヤ山系中の東部に位して、海拔實に八千八百四十米、世界第一の高峯たり。之れ千八百五十六年、インド陸地測量所長エフェレスト大佐の名をとりて命名したるものにして、又其東南にカウリサンカル峯あり。千九百三年、ウッド氏の實測によりて前者より凡そ千七百メートル低きことを確められたり。又、エベレストの東にカンチンジャンガあり。海拔八千五百八十五メートルにして、十八世紀の末、イギリス人グラハム氏の探検せしものたり。

中央平原 ヒマラヤ山系の南側に於て、沃野千里遠く相連り、一般に灌溉の利に富み、地質は概ね第四紀層に屬せり。而して西部は土地稍荒蕪なりといへども、東部はガンガ・ブラマプトラ兩河の灌溉地にして、農耕夙に發達し、米・麥・烟草・綿・麻・阿片・砂糖等の栽培夥しく、鬱蒼たる森林、至る所に横はりて、虎・水牛・猿・鹿・鷹の類に住せり。

デツカン高原 アカンとは梵語「南方地」の義なり。インド半島の最南端に位せる三角形の地方にして、北部ヒマラヤ山系とは、地質全く異なり、殆ど別大陸を接合したるの觀あり。一般に基岩は片麻岩よりなり、花崗岩其上に露出し。表面更に玄武岩を以て蔽はるゝもの多し。地味亦肥沃にして、既に開墾せられたるの地は、米・麥・綿・椰子・苧麻等の栽培甚だ盛なり。

〔河流〕 インド河流の重要なるものは、中央平原を流るゝものにして、ガンガ・インドス・ブラマプトラ等殊に名高し。

Kanchenjunga Everest Gaurisankar

ガンガ河の沿岸

ガンガ河の流域地

ガンガ河の水運上の價値

ガンガ河(恒河) 梵語に聖河と稱し、源をヒマラヤ山系の南側に發し、東南に流れてジムナ川を入れ、洋々たる大河となりて廣大なる沃野の間を屈曲東に走り、幾多の支流と合して、更に東北より來れる、ブラマプトラに會し、メグナの巨流をなして、未流更に肥沃なる大三角洲を形成し、以てベンガル灣に注ぐ。印度第一の巨流にして其の水源たる「鳥の口」と稱する氷河より河口迄流程凡そ一千八百哩。

又、巨大なる三角洲の西部には、ガンガの分流としてフーグリ河あり。最も主要なる交通路をなせるものなり。總て本河は、灌溉・舟運共に至便なるものにして、インドが之によりて得る所の利は極めて大なり。彼の三角洲の面積のみにても、實に我が北海道より大なりとす。

ガンガ河の沿岸 には所々に大都會發達して、河道は此等の都市を連絡すること恰も支那の揚子江に似たり。河口に近き所には満潮の場合には所謂ボリアの現象を生じ、水壁の高さ約一丈に達し、一時間約八哩の速力を以て上流に逆進せり。

ガンガ河の流域地 は、古代文化の中心地たりし所にして、土民等は、河水は神聖にして、罪惡を清むる靈驗あるものとなし屍を其沿岸に埋めらるゝものは、永劫幸福を受くるものと信んぜり。

ガンガ河の水運上の價値 に至ては實に怪くに足るべきものにして、其下流沿岸の農夫は各自の舟を利

Hugli Meghna Ganges Jamna

インド地相

二七三

用し、商人は亦それらの船舶を使用し、労働者は又各々自己の獨木船を浮べて交通運輸の便に供し居れり。

ブラマプトラ河 梵語『波羅門の子』と云へる義なり。上流をサンボ河と稱す。源をチベットの高原に發し、ヒマラヤ山系の北麓にそひて東にめぐり、諸支流を合して次第に巨流となり、有名なる大豁谷を造りて水勢漸く緩く、更に南に轉じてガンガ河に合流す。流程凡そ一千六百哩。

本河は専らヒマラヤ山系中の、融雪によりて涵養せらるゝものなるがゆゑに、春暖雪解の頃より河水漸く増加し、西南氣候風の節に至れば、水深愈々大なるに至るものなり。河流の各部の調査未だ詳かならず。支流頗る多く、ガンガ河に比して遙に多くの沙泥を流送しつゝあり。

インドス河 源をチベット高原なるアルグム湖に發し、西北に流れてカシミールをすぎ、西南に屈折して西ヒマラヤ山脈を横斷し、アフガニスタンより來れるカプール河を合せ、更に西南流し來れるサトレンヂ・ジラム・チナブ・ラビ等の諸水を入れ、南流してアラビア海に注ぐ。全長凡そ千九百哩。沿岸は有名なる赭土にして、水蝕殊に甚しければ、水路の變更殊に多し。されど河口より約八百哩の間は舟楫の利あり。而してバンジヤブ地方を除けば、其流域殆ど砂地にして、灌溉水運の利共に遠くガンガ河に及ばざるものなり。唯上流バンジヤブ（五河の義）の地方は地味膏腴にして産業發達せり。

Ravi Chenab Sutlej Indus
Panjab Jhelam

Brahmaputra
Sungpo

此他以上三大河の外較々名あるもの次の如し。

マハナチ河

マハナチ河 源を中部平原に發し、流勢頗る緩漫にして東流し、河口三角洲を造りてベンガル海に注ぐ。河口より四百哩は舟運の便あり。

ゴダバリ河

ゴダバリ河 源を西ガッツ山脈の東部に發し、凡そ八百哩にして奔流をなせども、其後は水勢緩和にして灌溉の利に富み、デカン高原中の最大なる良河たり。河口に大三角洲横はり近年幾多の運河を設けて、灌溉及び水運に便せり。

クリシナ河

クリシナ河 一にキストナともいへり。源を西ガッツ山脈の東麓に發し、深溪なる河道を流れて東方の平原に出で、ベンガル海に注ぐ、流程凡そ七百餘哩。

ナルバダ河

ナルバダ河 源を中部高原に發し、西流してアラビア海に注ぐ。全長七百哩。水流頗る急にして、中流にて有名なる大理石峡谷を穿ち沿岸の風光殊に住なり。

タプチ河

タプチ河 源を中部平原に發し、南流してアラビア海に注ぐ。流程四百哩。河床岩石突起して、或は淵となり或は瀧となり、頗る奇景に富めり。

カウエリ河

カウエリ河 源を西ガッツ山に發し東に流れてベンガル海に入る。中流マインール州の高原を過ぎ、海岸平地に移る所に有名なる二大瀑布懸れり、其一是水高四百六十呎に及べり。

インド水系の特點

インド水系の特點 インドの河流は之を二大系統に分つを得べし、一は北部平野を流るゝものにしてガンガ河及びインドス河之に屬し、一は南部高原を流るゝもの之れなり。而して北部の河流は一般に水運の利あれども、デカン高原を流るゝ河流は中央高地と海岸平地との間に、一大階段状の山脈あるを以て一般に水運を妨ぐるの嫌あり。又インドの河流は其の面積に比して實によく發達せり。之れ年々の雨量の豊富なるに因るものとす。

インド地相

Tapti Nerbada Krishna Godavari Mahanadi

沿岸 此國はインド洋中に突出せる半島國にして、其東南及び西南の兩側面は悉く海洋に瀕すれども、沿岸の屈曲出入極めて乏しく、良灣・良港極めて稀にして所謂海岸地帯の發育を缺けり。其の出入の稍名あるものは、東部にオリッサ・ゴルコンダ・コロマンデルの諸海濱と西部にマラバルの海濱並にカッチ・カンベール・ボンベールの小灣入あるのみ、而して海岸線の延長凡そ三千六百哩に達せり。海岸線一哩につき陸地凡四百十六方哩の比とす。

コモリン岬 インド半島の最南端に位する岬角たり。

アダムス橋 半島の東南なるパーク海峡を隔て、セイロン島あり。其間海底淺くして數多の小島相連接し其狀恰も橋を架したるが如く大規模の計畫に依れば、此地點に據りて印度セイロン島間に鐵道を架設するを得べしと云ふ。故に此稱ありと。

島嶼 沿岸諸島嶼の重なるもの次の如し。(セイロン島につきては後に別説す)

アンダマン諸島(晏陀巒) ベンガル海の東部に位せる火山島にして、周圍に危險なる珊瑚礁群れり。フリー河口をさる凡そ六百哩にあり。竹及び良材を産す。而して本島は大・小の三群島よりなり、大アンダマン島

中・北の三大島と、其他の小島とあり。南アンダマンにブレイア港とて良泊あり。面積凡そ二十方哩。小アンダマン島も亦附近の數小島より成る。

本島は、千七百八十九年、インドより罪人流竊の地に供用せられしが、千八百五十八年以後、更にイギリスの囚人をも移住せしむる所となれり。

アンダマン島の土人 土人の身長は平均五呎に達せず、毛髮は卷縮して黒色なれども四十歳を越れば大

Blair Palk Comorin Bombay Malabar Goconda Orisa
Andaman Adams Bridge Cambay Cutch Coromandel

コモリン岬
アダムス橋
島嶼
アンダマン諸島(晏陀巒)
アンダマン島の土人

灰白色となる、衣服と稱すべきものなく、只僅に腰間に一種種の如きものを纏へるのみ。又身體に粘土を以て種々の裝飾を行へり。家屋は只樹枝、木葉を束ねたるものなり。彼等は巧に獨木船を浮べ、精巧なる竹製の弓矢を以て魚類又は龜類を射殺して食用に供せり。又土人は一般に慈善心に富み、互に困難に陥れるものを救ひ合へり。其親愛の情を表はすには只互に熱視するのみなりと云ふ。

ニコバル諸島 マンダマン諸島の南に位し、其勢恰もスマトラに連繋せんとするが如し。本島は大小十九の火山島よりなり、面積合せて六百餘方哩あり。島内植物の繁茂極めて盛にして椰子實の産殊に多し。千八百六十九年以後、イギリス領に歸したるものなり。

ラカデブ諸島 一に十萬島ともいへり。マラバル海濱をさる凡そ二百哩に位す。本島は十四個の珊瑚島よりなり、椰子實を産する多し。千四百九十九年、マスコ、ダ、ガマ、の發見に係るものなり。

マルデブ諸島 コモリン岬の西南、三百三十哩より南方、五百五十哩に跨がれる無數の珊瑚礁よりなり、セイロン島に屬せり。而して本島は成祖の世、支那に朝貢せしことあり。

氣候 インドは北緯八度より三十七度に跨がり、熱帯と温帯との間に位し、且つ高原あり、平野あり、土地の隆凸一様ならざるがゆゑに、氣候亦頗る雜然たり。一般に、ヒマラヤ山南斜面の地は、北風を受くることなく、又、北方の高山は南風を遮斷するがために、温暖にして濕潤なり。されど土地高隆にして、日光を受くるの度に差異あり。山下の平原、及び其他の地方に於ては、概ね乾濕冷の三季に分たる。乾期は春分より夏至に至るの間

Maldive Lacendive Nicobar

インド 沿岸、氣候
二七七

にして、五六月の交に至れば炎熱俄に加はり、時々雷鳴に伴ふ驟雨襲來して、燒くが如きの暑熱を僅に減殺せしむるのみ。雨期は夏至より秋分の少し後に至るものにして、西南氣候風はインド洋より濕氣を齎らし來り、七月に至りては霖雨殊に甚しく、河水悉く暴漲して、晴雨を見ること極めて稀なり。斯くて雨勢次第に減じて、九月に至れば全く其跡を絶つに至る。此雨期は實にインド西岸の富作豐饒の源因となるものなり。又冷期は秋分後より翌年春分前に至るものにして、東北氣候風は、内地よりヒマラヤ山を越えて來り、雨量最も少くして清涼の季節に入り、最も健康に適せり。

南印度の螢

南印度の螢 印度は一般に氣候暖熱にして、其南印度の如きは終歲螢火の飛ぶを見るを得べし。マドラス市の氣温最高華氏八十八度、最低七十六度。ボンベ、八十五度乃至七十四度。カルカッタ、八十五度乃至六十五度。コロンボ八十三度乃至七十九度。

雨量

雨量 インドに最も多く雨を運搬するは西南氣候風にして、此等は北部ヒマラヤ山並に西岸ガッツ山脈に衝突し、此處に其包含せる濕氣を凝結せしむるものなり。而して氣候の一樣ならざるが如く、雨量亦各地同じからず、即ちボンベにては二千八十九耗なるも、カルカッタに至れば千五百七十二耗となり、更にヒマラヤ山系の南面に至れば、一千耗より三千耗に至るが如し。

世界第一の多雨地

世界第一の多雨地 と稱せらるるチラパンジはブラー河の東南にありて、フーケル氏が三ヶ月間の測定によるも、實に其量一萬二千六百五十耗に達せりといふ。此の如き降雨期に至れば地面は至る所海面の如くなり。且衛生

Cherrapunji

沙漠

上にもよろしからざるを以てカルカッタ附近にては、諸官衙等雨季休業を行ふを例とせり。
沙漠 インドス河下流の東方内地に、一帯の沙漠地あり、蓋しアラビア海の水蒸氣を齎らせる空氣の此地方を潤さざるによるなり。

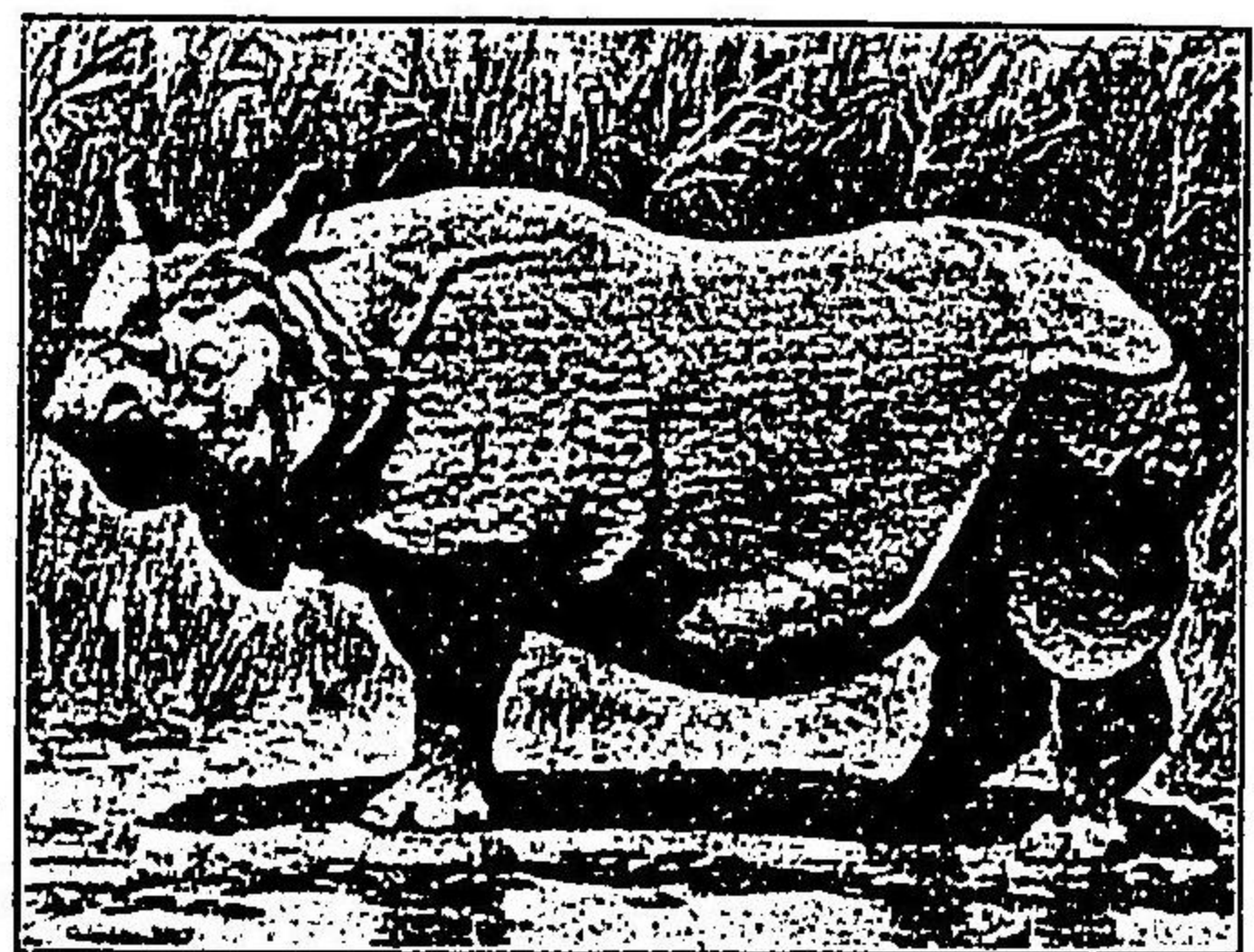
富源

植物は土地豐饒にして、氣候亦一樣ならざるがゆゑに、其種類極めて多數にて、米麥綿珈琲砂糖煙草麻茶阿片藍玉蜀黍等の農作物を始めとし、チーク樹榕樹檀香椰子護謨樹等の森林よく繁茂せり。動物には象獅子虎狼犀水牛野猪猿猴等の獸類、並に鱈魚蛇蝎の如き人畜を害するもの多く、又、牛馬駱駝山羊等の飼養頗る盛なり。鳥類には孔雀鸚鵡等羽毛の美しきもの多くして、鑛物も亦金銀鐵石炭亞鉛及び金剛石紅寶石等に富めども、未だ採掘完からず。

林産

林産 インドに至る所、森林よく繁茂して各種の良材並に果樹に富めり。就中有名なは造船の材料たるチーク及びサルにして、樽若たる森林、實に其盡くる所を知らざるの有様なり。其他榕樹の如き、氣根幾回曲して枝葉廣く繁茂し、樹下猶一軍隊の人馬を宿せしむるに足るが如きものあり。

Teak
Sul



犀の遺迹

林産

インド氣候

又、インドの森林中、其最も利用の多きは、竹、芒果、棕櫚等にして、竹は家屋及び家具に造られ、芒果は下層社會の食料に供し、其皮よりは帯、繩等を造るべく、棕櫚は朝夕の興奮、愉快物として、適當なる飲料釀成の原料に供せらるゝものなり。

産業 産業の重なるきのは、農業にして住民の七割餘は之に従事せり。一般に地積廣大にして地味肥え、國內至る所灌溉の利多きがゆゑに、古來農産物甚だ多し。加ふるに政府は、近年盛に勸農、興耕の法を講じ、大に斯業の改良進歩を計りしを以て、耕種、製産の途、頗る發達するに至れり。

農産

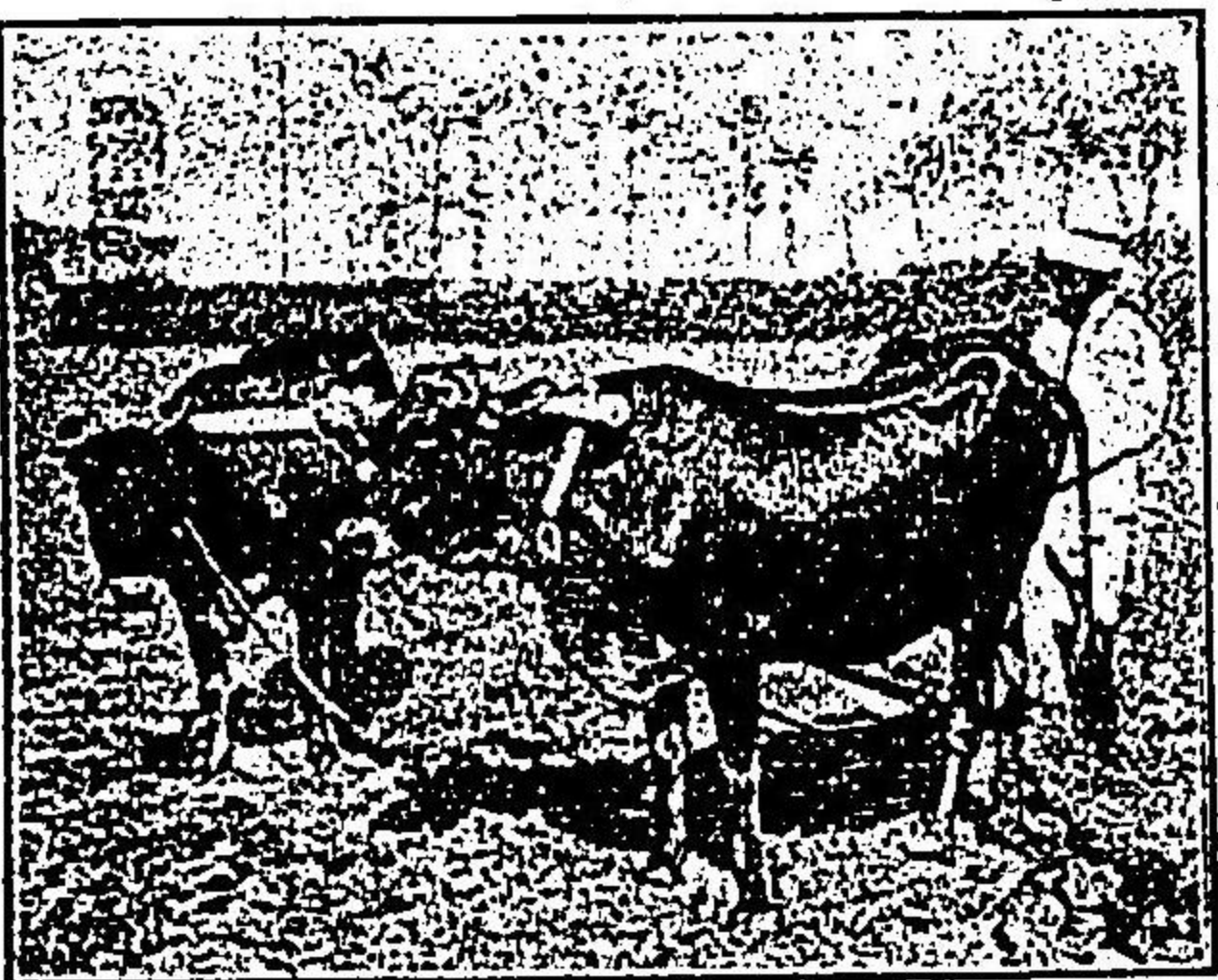
中米、麥、雜穀、茶、烟草、阿片等は、ベンガル、及び中央インド、並に東海岸に多く、小麥、棉花等はパンジヤブ、及び西北諸州、並にマドラス地方に多し。殊にベルガル地方の如きは、一年二回の米收穫あり。牧畜は宗教上の關係より、古來肉食を禁ぜしがゆゑに、極めて幼稚なり。只駱駝、牛、水牛、馬等は、或は皮、毛を得んがため、或は勞役に服せしむるため、若くは乳汁を得んがために飼養せらるゝものなり。而して近年漸く養蠶の業開け初めたり。

漁業

中最も名あるは、ゴア、海峽に於ける、眞珠採集業にして、鹽と共に政府の專賣に屬せり。

工業

中最も世に知られたるは、カシミル肩掛と、インド更紗の兩者にして、其他、刀劍、寶石、象牙細工、刺繍等又名あるものなり。蓋し此國は三千年以前の古文明國にして、全く衰退に陥せりといへども、其精巧なる建築術の如きは、今猶東洋に其模範を窺れ、工藝品の如きも、亦昔日の面影を存す。



牛人ドインに耕作に用す



印度人婦を兒を負ふ

じて、一種特得の妙あり。彼の世人が吸々稱して止まざるカシミル肩掛の如きは、山羊の良毛を用ひ、六十餘種の彩色を施して、一枚を製するにも猶二十週の多きを費し、價格數千金に値するものすらありといふ。

等枚舉に遑あらず。

近年、イギリス人は、盛に工場を設置して、低廉なる勞銀と原料とを利用し、各種の製造業に着手せり。其内最も多きは木綿製造所にして、麻織物、毛織物等に次ぎ、其他製紙、製糖、製粉、榨油

貿易 インドの外國貿易は、商業上最も重要なるものにして、過去數十年前に比すれば殆んど二十五倍以上に達せり。最近に於ける外國貿易額は、總計二億萬磅にして、内輸出一億二千萬磅、輸入九千萬磅なり。而して其内取引の最も多きはイギリスにして、二千七八萬磅以上を輸出し、ドイツ之に次ぎて一千萬磅を出せり。其他フランス、合衆國、日本等之に次げり。

輸出品中最も多きは油種、棉花、米、麻、阿片等にして、其他皮革、茶、藍、珈琲、砂糖、香料、木材、象牙、眞珠、寶石等に次げり。又、輸入品の重なるものは、木綿製造品を最とし、金屬、鐵器、刃物、油類、砂糖、藥品、食料品、毛織物、酒類、鐵道用具等なり。

第六篇 印度及印度支那

貿易港 本國の外國貿易は主として、ボンベイ・カルカッタ・マドラス・ラングーン・カラチ・ツチコリン等にて行はるゝものなり。而して之が商況の一端は、都邑の部に於て記述すべし。

日印貿易 我帝國と此國との間に於ける貿易は近年大に進歩して一ヶ年凡そ八千萬圓以上に達するに至れり。而して我帝國への輸出品は、綿糸及生綿糸等にして、我國よりの輸入品は、羽二重絹製品・メリヤス等を始めとし、樟腦・マッチ・石炭・銅・陶器・磁器・硝子・洋傘等之に次げり。

○日印貿易

インドと日本とは、近時漸く接近の度を加へ來り、留學生の來朝、王族の來遊等歳を追ふて交通漸繁ならんとするに、彼我の通商貿易は、數年來格段の進歩なく、五年前輸出入總額七千一百萬圓を計上せしもの、昨四十一年に至り、僅に九十萬圓の増額を見たるのみなり。加ふるに彼れの輸入額に對して、我れの輸出額は常に其四分の一の割合を保つる狀況にあり。

元來全國の貿易總額は最近二十億圓にして、清國に比して遂に巨額に達するのみならず、イギリスの如きは、之を論外とするも、ヨーロッパ諸國の之と通商を營むもの、何れも皆顯著なる發展を遂げたるに、我商品の壓倒せらるゝ傾向あるは、頗る痛心せざるべからざる所たり。現に機寸貿易の如き、五年前にありては、遂に後進の位置にありたるスウェーデンが、近年我を凌駕して一躍其首位を占むるに至りしが如き、又我が輸出品たる洋傘の如き、數年前にありて五萬餘圓たりしもの、近年三千圓内外に減少したるが如き、實に慮外の成績といはざるべからず。

願ふに粗製濫造は本邦商人の欠點にして、日印貿易の不振も亦之に外ならざれば、特にインドの如き熱帯地方に對しては、必ず特別の調査研究を要すべく、之によりて以て商品の販路を展開せざるべからざる筈なるに、我商人中意を茲に用ふるものなきは、職として日印貿易の不進歩なる主因といはざるべからず。下畧(續覽新聞)

政局 インドは久しくイギリス東インド會社の經營に一任せられ、實權大方其手にありしが、千八百五十七八年の士兵反亂後、會社は従前管理せる地方の全部をあげて之をイギリス女皇の直轄に歸せしめ、明治十年以來イギリス皇帝は同時にインド皇帝の尊號を稱するに至れり。而してインド總督は、本國インド事務大臣の監督に屬し、皇帝の親任により、各般の政務を統理す。

總督即ち副王補佐の任に當るものは、インドに於ける總督府並に本國に於ける高等會議にして、總督府は内務・外務・財務・軍務・土木・租稅・農務・商務・法制の八局よりなりて政務を分掌し、高等會議は常設議員及び臨時議員よりなりて法律の制定に參與す。司法に關しては、高等法衙をカルカッタ・ボンベイ・ハイダラバード・マドラス・アラハバードに設け、最高法院をロンドンに置き、以て終審を與ふ。

地方政治 英國直轄の地方には知事・副知事管理官駐在官等を置きて、各其地方に於ける行政事務を司らしむ。而して行政上之を分ちて九大州及び四五の小地方となす。

九大州は即ちマドラス・ボンベイ・ベルガル・東部ベンガル及アッサム・アグラ及オード・パンジャブ・バルマ・中央諸州・西北邊境州等にして、知事・副知事若くは總督代理官之を治め、其他の小地方はクールグ・アデメア・メルワラ・ベルヂスタン及びアンダマン諸島にして、各代理官之を管轄す。

第六篇 印度及印度支那

英國の政略 英政府は印度に於て直轄地、保護州、酋長國等を巧みに交錯按配して、相互に團結して英本國に反抗する等のことをなすを得ざらしめたり。之れ恰かも我徳川幕府が巧に諸侯を配置して、直轄地、譜代、外様等を交錯せしめ各自の利害を相殺せしめ、以て相互に牽制して、平和を維持せしむるの策を取れると相似たる方法にて實に巧なる政策と云ふべきなり。

地名	面積	人口
縮甸		
上部	1,218,674	5,605,627
下部	6,755,550	5,846,600
東部	6,112,500	1,237,500
合計	14,086,724	12,690,727
東部ベンガル及アッサム	1,000,000	20,000,000
ベンガル	1,100,000	19,000,000
ベハール	1,100,000	18,000,000
オリッッサ	1,100,000	17,000,000
ベンガル	1,100,000	16,000,000
オリッッサ	1,100,000	15,000,000
チョータ、ナゲポール	1,100,000	14,000,000
合計	11,500,000	100,000,000
アグラ	1,100,000	10,000,000
オリッッサ	1,100,000	9,000,000
合計	2,200,000	19,000,000
合同州		
オリッッサ	1,100,000	10,000,000
合計	1,100,000	10,000,000

アチメア、メルワラ	1,100,000	20,000,000
パンジヤブ	1,100,000	19,000,000
西北邊境州	1,100,000	18,000,000
ベルヂスタン	1,100,000	17,000,000
ボンヘー	1,100,000	16,000,000
アデン	1,100,000	15,000,000
合計	6,000,000	100,000,000
中央諸州		
ベラール	1,100,000	10,000,000
クールグ	1,100,000	9,000,000
マドラス	1,100,000	8,000,000
アシタマン及ニコバル	1,100,000	7,000,000
合計	4,400,000	34,000,000

國防 に関し、現今インドの陸軍は北部・東部・西部・セカンデラバッド及び縮甸の各師團ありて、常備兵ヨーロッパ人凡そ七萬五千、土人兵凡そ十五六萬ありて、合計二十三萬に達せり。斯く土地の廣大なるに比し、甚だしく兵員の少きはインド人の制御し易きによ

財政

交通



印度人騎馬 (乗騎に駝駱人度印)
降除はすよるく時
鎖に
せ必
れら
ず
人す
(の)

るならんか。又、海軍はイギリス本國の東洋艦隊中、其一部分がインド艦隊として常に海岸の防備に任じ、其他は僅に水雷艇三隻を繋留せるのみ。

財政 本國の財政はイギリス政府及びインド政府の掌る所にして、前者より一億八千五百萬圓、後者より五億二千萬圓を出せり。而して歳入の重なるものは、地租、阿片税、鹽稅、證印稅、消費稅等なり。

交通 交通に關し、道路は主要なる都會を連絡し、碎石を敷きたるもの凡そ四萬八千哩、敷かざるもの凡そ

十五萬哩あり。又、鐵道は半世紀前迄は一呎も見るを得ざりしが今や其延長凡そ三萬哩にして、官有線及び會社線等あり。アジア大陸中、日本を除きては、印度を以て最もよく鐵道の發達せる所とす。而して其の交通上の大中心はカルカッタ、デリー及びボンベールとす。
水路の交通も亦甚だ便利にして、可航運河約一千數百哩、河道の航行に供せらるるもの又甚だ多く、電線の如きは數萬哩に延長し、文明の機關は各要地を通じて略々盛へり。

文化 普通教育は一般に進歩せず、白人種の外は殆ど教育の必要を感じざるもの、如し。大學はカルカッタ・マドラス・ボンベール・バンジャラ・アラハバードの五ヶ所にあり。人民の



子男の族種ーツンヒ

千四百六十萬人、テルグ語二千萬人にして、マラーチ・パンジャビ・タミル等之に次ぎ、各百六十五萬人餘に達せり。
宗教も亦其種類多しといへども、其内最も多くの信徒を有するものはバラモン教即ちヒンド教の二億萬人にして、マホメット教の六千二百萬人之に次ぎ、其他佛教・キリスト教・

ジャイナ教等之に次げり。

バラモン教信徒の間には、古來四種の階級ありて、僧侶、武士、庶民及び奴隸の別を嚴守せり。之れ印度の文化史及び社會上最も著名なるものにして、眞に印度人民の實情を知らんと欲するもの、看過すべからざるものなりとす。

都會 此國の都會にして、人口十萬以上を有するもの、實に三十餘の多きに及び、二萬人以上のものは實に二百數十の多數に達せり。今其内殊に名あるものをあげむ。

(カルカッタ) ベンガル州の首府にして、ガンガ河の分流、フーグリ河の東岸に位し、人

Calcutta

口凡そ一百万。インド總督の駐在所たり。此地海岸をさる凡そ百二十哩にあれども、汽船鐵道の便極めてよろしく、單に政治交通の中心たるのみならず、商業工業共に繁盛にして、印度第一とす。市街の建築亦頗る壯麗にして、一見歐洲の都會たるの感あり。されど土地一般に低平にして濕潤に失し、飲料水に乏しく健康に適せず。産物は鴉片・米・茶・麻藍等にして、綿布織物酒雜貨等を輸入す。

沿革 英人の始めてカルカッタに居住せしは西紀一千六百八十九年にして、爾來裔々其の根底を固めんとせしも、一千七百五十六年有名なる暗黒牢の變ありて、英人は殆んど佛人の爲めに殺戮せられたり。然るに、翌年クライブの力によりて再び英人の手に歸し、以後次第に發達して遂に印度の首府となり以て今日に至れり。然るに明治四十四年十二月の勅令を以て、印度政廳を此地よりデリーに移轉することなれり。

ホーラー フレーグ河を隔て、カルカッタと相對す。黃麻の製出地なり。

パトナ ガンガ河と其支流ガンダク河との合流點に位し、人口約十五萬あり。此地は往昔佛敎徒の王國を建設したる所にして、佛陀の遺跡頗る多く、釋迦（悉達太子）の出生地も、亦此近傍なりと稱せらる。

此の地は又、宏大なる阿片製造場及びインデコ貿易の中心地として知られたり。

シヤカ(釋迦)

西紀前五百五十八年頃、中インド、カヒラバヌツ(迦毘羅跋率都)に生る。夙に救世の志あり。

Patna
Howrah

釋迦の四大靈場

ブラッシー

ダッカ

ダージリン

ガヤ

ブダガヤの高塔

二十九歳の時、逃れて山林に入り、六ヶ年の修業を積みて大に悟る所あり。婆羅門教に反對して新に一教を開き、一切平等を主義とし、邪惡を去り、繁累を脱せば、無上の幸福を得べしと説けり。斯くて布教に従事するもの前後四十餘年。釋迦とは其の種族の名稱にして、名は悉達多と云へり。

釋迦の四大靈場 (一)誕生所、迦毘羅跋率都。(二)得道所、佛陀伽耶。(三)始轉法輪所、鹿野園。(四)涅槃所、拘尸那伽。

ブラッシー カルカッタの北方に位し、ベーギラチ河口に沿へり。千七百五十七年、クライブが僅に三千の兵を以て佛國の七萬の大兵と戦ひ奇勝を得たる地として有名なり。

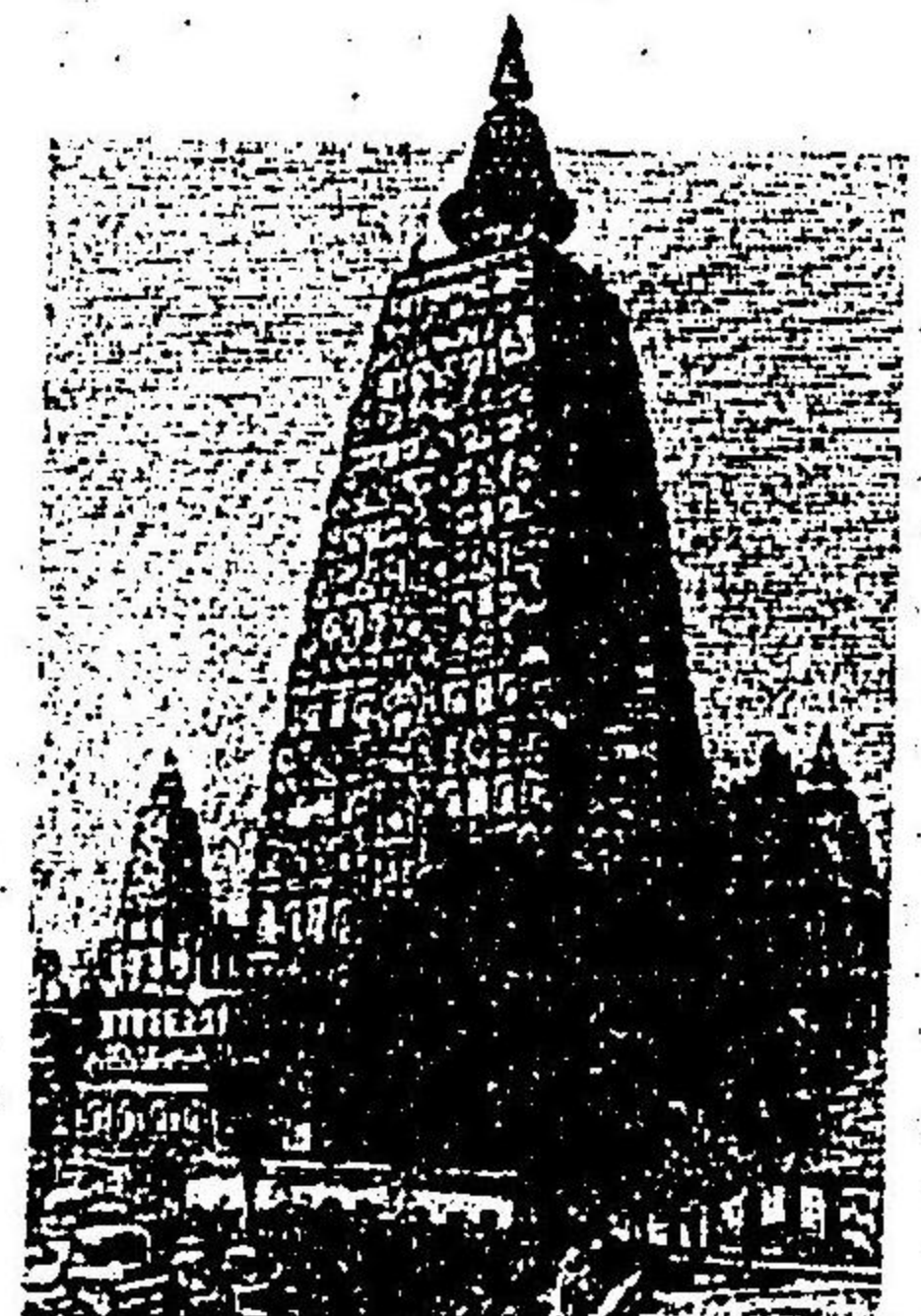
ダッカ カルカッタの東北にありてアラマプトラの一支流に臨み、モスリン製造を以て知らる。
ダージリン シッキムの境に近き避暑地にして、海拔凡そ二千二百米にあり。

ガヤ パトナの南方凡そ七十哩にあり。近傍ブダガヤは佛敎史上著名なる所にして所謂四大靈場の一なり。

ブダガヤの高塔 は高さ百七十尺、四邊各四十八尺、内に釋尊成道の石像を安置す。前面に大菩提樹あり。釋尊成道の地と云ふ。

ベナレス 印度人は之を聖市と稱し、カルカッタの西北凡そ四百哩にありて、ガンガ河左岸に

あり。人口凡そ二十三萬。此地は世界最古の町と稱せられ、文學の淵藪所にして、又、織



塔高のヤガダブ

Benares

Gaya

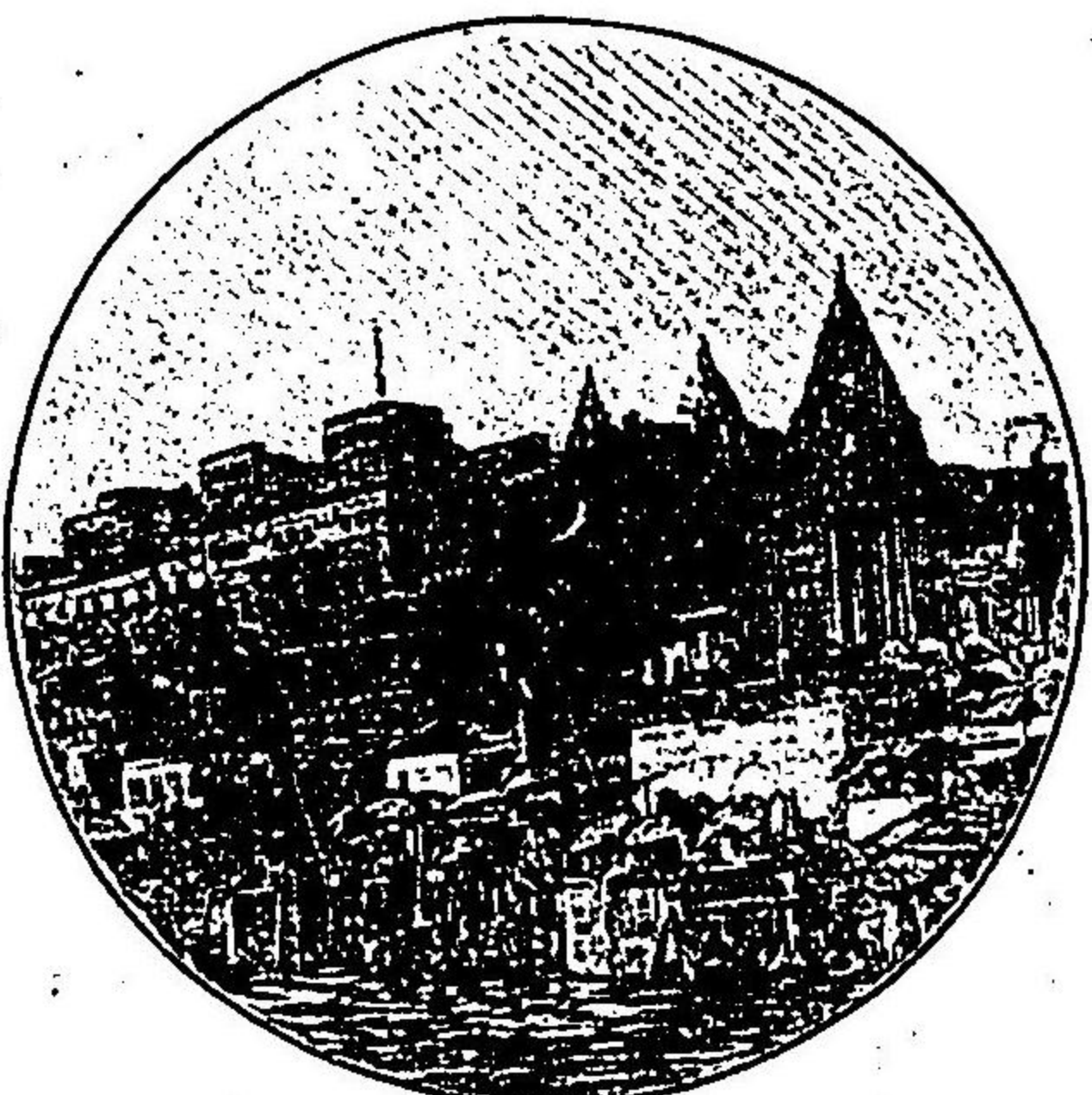
Dacca

Plassey

物阿片黄銅器玩具等の製造地たり。加ふるに、婆羅門教の聖地として世に知られ、寺院、堂塔の壯大なるもの多く、其數千四百五十餘ありといふ。

バラモン教徒の潔齋

バラモン教徒の潔齋 波羅門教徒は群を成して此の地に參拜し、ガンガ河の水に浴して其の罪障を消滅して、幸福を得んとて、老若男女の相競ひて、水を被り、一種の齋經をなすこと盛んなり。



信者の名にスレナベに於けるヒルンズン教
信者の名にスレナベに於けるヒルンズン教

アラハバート カンガ河の支流と相會する所

にありて、人口凡十八萬。西北諸州の首府にして、水陸の交通極めて便なり。此地回教の聖地として世に數へられ、又、綿砂糖藍の集散地として知られたり。

アグラ アラハバートの西北にありて、人口約二十萬。往昔モンゴルの帝國の首都たりし所にして、宏大な宮殿寺院等あり。綿・煙草・食鹽・穀物・砂糖等の集散地なり。

ラクナウ オード州の首府にして、人口凡そ二十六萬あり。市街は宮殿・洋屋多く、頗る美觀を呈すれども、インド式たるを免れずといふ。

カウンブル ガンガ河に瀕し、人口凡そ二十萬あり。千八百五十七年、土兵の虐殺を以て名高き所にして、馬

Lucknow Agra Allahabad Cawnpore

ラクナウ
カウンブル

具靴及び其他の革細工を出すこと多し。

ミーラト

ミーラト デリーの東北に位し、千八百五十七年土兵の憤起せし所なり。人口凡そ十二萬。アムリツアル ラホールの東方に位し、人口凡そ十六萬。カシミヤ毛被・象牙彫刻等を産し、北インドに於ける商工業の一大中心地たり。

ムールタン

ムールタン チナア河を去る二三哩の地にあり。絹布・綿布の産地にして商業盛なり。人口凡そ九萬。

シムラ

シムラ ヒマラヤ山の南面、海拔凡そ二千七百七十米にある避暑地なり。

ラワル、ピンヂ

ラワル、ピンヂ カシミア・アフガニスタン等に對する通商貿易地にして、人口凡そ九萬あり。

ペシヤウル 西北國境州の首府にして、カブール河のインドス本流に合する所にあり。人口凡そ十萬。カブール及び中アジア等に對する通過貿易多し。

デリー パンジャブ州の名都にして、人口二十餘萬。本國北方の大都にして本州商工業の中心たり。又寶石細工・刺繡等の産あり。此地は往昔モンゴル帝國の都城たりし所に

して、大寺・アンカ王の碑柱等、今猶其遺跡多し。明治四十四年十二月現英國皇帝兼印度皇帝の此地に戴冠式を舉行するや、勅を發してカルカッタなる印度政廳を此地に移轉すべきを定められたり。

バベル インド、モンゴル朝の建設者なり。西紀千四百八十二年に生る。年十二、父の死後次ぎて即位せしが、

インド都會

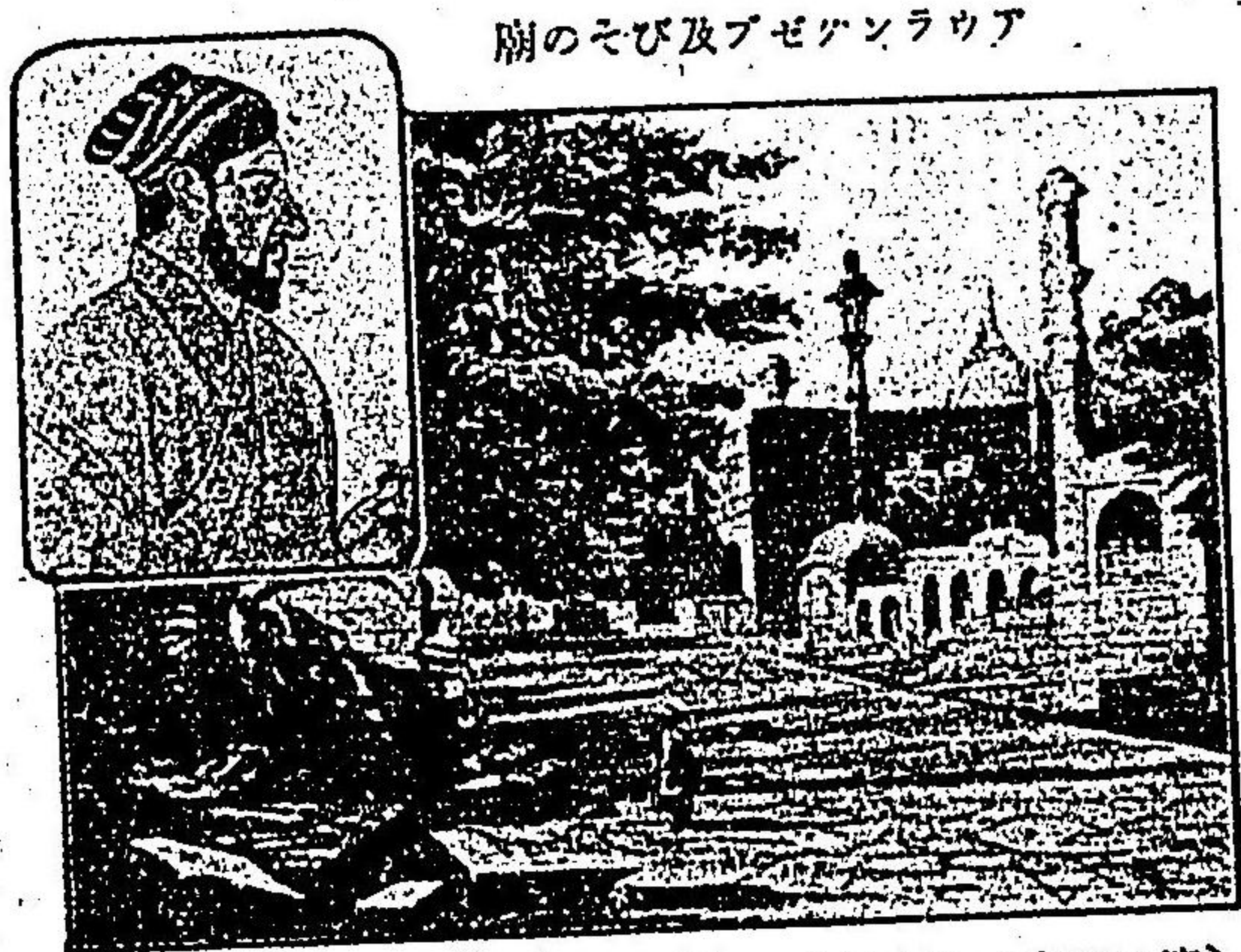
Baber Delhi Rawal-Pindi Multan Meerat Peshawar Simla Amritsar

隣國の侵略に堪えずして、出て、カブールに至り、後大に兵力を蓄へてインドに入り、其大半を征服し遂に帝位に即

き、デリーに都せり。モンゴル帝國の盛時に建設せられたる大宮殿は、間口三千二百尺、奥行一千六百尺に達し、其の宏壯世界に比なく、其の天井には、若し地上に天國あらばそは此の宮殿なり、此の宮殿なりとの名を書せりと云ふ。

ラホール バンジヤブ州の首府にして、ラビ河の左岸に位し、人口二十萬餘。交通の便極めて佳にして、アクバル帝の宮殿及び博物館等あり。

ボンベイ ボンベイ州西岸の一孤島なる東南隅にあり。人口凡そ八十萬。本土と通ずるには棧道を以てし、恰も人工的半島に似たり。港内水深くして灣の大さ東西五六哩、南北十三四哩あり、印度第一の商業貿易の中心地たるのみならず、又、



廟のそび及アゼケンラウア

(リ在に北西の市ドッパガンラウア方地ソカデ度印は廟)

世界屈指の良泊なり。

本港の貿易

此地我横濱と去る二千五百三十三哩に位し、東洋木綿貿易の中心地にして、スエズ運河の開鑿

ボンベイの發達

サルセッタ島及エレンハンタ島 共にボンベイ島の近海にあり。地下寺院を以て有名なり。
スラト タプチ河に沿へる港にして、綿糸刺繍等の製造を以て知らる。人口凡そ十二萬。
ハイヴラバ
アイメダバード サバルマナ河に臨み、人口十八萬餘。回教の寺院多く、又、絹布・綿布の製造盛なるを以て知らる。

以來、次第に繁盛に極き、今や將にカルカッタを凌ぐとするの勢あり。而して輸出品の重なるものは、棉花・阿片・珈琲・香料等にして、輸入品の重なるものは、織物・金屬器・石炭等なり。

ボンベイの發達 ボンベイとは葡萄牙語、良港の義にして、其の葡人の始めて、此地に來りしは、西紀一千五百〇九年のことにして、爾來、次第に發達し、特に千八百五十七年スエズ運河開通以後は南アジア第一の貿易地と稱せらるゝに至れり。

カラチ インドス河口の西北部にあり。數年前までは寂寥たる一小村落なりしが、ベルヂスタン鐵道の開通と共に俄に膨脹せり。人口凡そ十二萬。本港はヘルシアアラビアの沿海各地を始めとし、遠くアフリカの東岸とも交易するの位置にありて、將來頗る有望の地たり。輸出品の重なるものは、米棉花・硝石・菜種等にして、輸入品の重なるものは、金屬器・酒類・織物等なり。

ナグプール 中央諸州の首府にして、人口凡そ十三萬。カルカッタとボンベイとを連絡する鐵道の中央點にあり。附近、棉花・羊毛等の産出多し。

Nagpur

Kutchi Ahme.lbad Sura

マドラス 南インドの東岸に於ける最大の市場にして、印度第三の都會なれども、港灣

未だ良好なりといふべからず。人口凡そ六

十一萬を有し、頗る繁盛の地たり。輸出品

の重なるものは、棉花・砂糖・珈琲・藍米・皮革

等にして、輸入品の重なるものは、織物・鐵

器・食料品・酒類・硝子類等なり。

ツチコリン インド東南岸の一要港にして、セ

・イロン島の西岸と相對す。此地往時、ギリシア人の來

航したる時はコロコイといひ、中葉、明の初代には加

異物と呼びたりしが、明末の頃に至りて今の名に改め

たるなりといふ。椰珈琲・蠶類・家畜の輸出多し。

コカナダ コロマンデル海岸に於て、マドラス

に次げる商港にして、人口凡そ五萬五千あり、

トリチノポリト カウベリ河に沿ひ、織物・煙

草の産出多く、人口十萬餘あり。



船乗の其び及マガダコスバ

マヅラ パンチャ王国の舊都にして、人口凡そ十萬餘。

ツチコリン

コカナダ

トリチノポリ

マヅラ

カリコ

バスコ、ダ、ガマ

カリコ マラバル海岸の一港にして、バスコダガマ氏が、南アフリカを回航して西紀一千四百九十八年五月廿日始めて此地に到着したる所にして歐人、東漸の端緒を開きし所とて、歴史上著名の地なりとす。
バスコ、ダ、ガマ は著名なる葡萄牙の航海者にして、帆船を以て始めて喜望峯を回航して印度に至る航路を發見せし人なり。歐人爲に之より漸く東洋に渡來するに至りしものにして東西交通史上に忘るべからざる人なり（一四六九—一五二五年）

《保護諸州》 保護國中にてインド總督に直隸せるものは、ハイダラバード・マイソル、ゲワリオル・バロダ・ジャイプール・カシミル・トリバンDRAM等なり。

ハイダラバード國 首府ハイダラバードはクリシウナ河の支流に臨み、數多の回々教寺院あり。人口四十五萬。

マイソル國 首府バンガロールはイギリス兵の駐屯地たり。人口十六萬。其の王は先年我國に來遊せり。

ゲワリオル國 首府ゲワリオルは人口十萬餘。

バロダ國 首府バロダはビシワトミラに瀕して肥沃の平野にあり。人口十萬餘。

ジャイプール國 首府ジャイプールは軍事と商業の中心とをかね、重要な市たり。

カシミル國 首府スリナガルは人口十二萬餘。カシニミヤ

羊の牧畜盛んに行はれ、其毛は優良なる毛織物として需要多し。

印度都會



賣掛肩の人ドンイ (人商ルーヨシのアミシカ)

カシミル國

ジャイプー

バロダ國

ゲワリオル

マイソル國

ハイダラバ

ード國

Srinagar Jaipur Baroda Mysore Hyderabad Bangalore

Calicut

Madura

Trichinopoly

Cocnada

Tuticorin

Madras

トリバンドラム國

第六篇 印度及印度支那

トリバンドラム國 首府トリバンドラムは人口五萬八千。茶・木材・珈琲等あり。

二九六

フランス領インド French-India

位置

フランス領インドも往時は頗る廣かりしが千七百六十三年、パリの條約に於て、其大部分を英國に割讓し、今は僅に半島の南部、及びガンガの三角洲に於て、五ヶ所の領地を有するのみ。面積凡そ二百方哩、人口凡そ三十萬にすぎず。

シヤンデルナゴル カンガの三角洲、即ちフーグリー河畔にあり。人口凡そ二萬五千あり。

ヤナオン コダバリ河口にありて、人口凡そ五千餘あり。

ボンデシエリー コロマンデルの海岸にありて、マドラスの南方に方る海港なり。人口凡そ五萬。フランス領インド知事の駐在する所にして、油種の輸出盛なり。

カリカル コロマンデルの海岸にありて、ボンデシエリーの南に位す。人口凡そ二萬あり。

マエ マラバル海岸にある一小港にして、カクット港の北に位す。

ポルトガル領インド

位置

ポルトガル人は他のヨーロッパ人に先ちて本半島に來り、各地に於て殖民及通商に従事し、十六世紀に於て一時全盛を極めたる事ありしが、今は大に衰頹して、僅にゴ

Mahe Pondicherry Chandernagore
Carrikal Yanaon

ゴア

ア・ダマン・ヂウの三地方を有するに過ぎず。三者合せて面積凡そ千五百方哩。人口凡そ五十八萬餘にすぎず。而して産物の重なるものは、椰子・實・食鹽等あるのみ。

ゴア マラバー海岸の最も豐肥なる一地方にして、地勢丘陵多けれども米・木材の産多く、亦製鹽の業盛なり。面積凡そ千四百方哩、人口凡そ五十萬あり。

此地は西紀千五百年、インド、ポルトガル領の總督、アルブケルクの略取したりし所にして、茲に貿易を開始して、大に其威を振ひしが、其後商權次第に衰へて、オランダ・フランス・イギリス等に移るに至れり。

ダマン ボンベールの北凡そ百哩に位する一小港にして、製鹽業盛なり。面積凡そ百餘方哩。人口凡そ六萬五千あり。

ヂウ ダマンの西方凡そ百四十哩にありて、カンベール灣の西北岸に近き一小島なり。面積僅に五平方哩、人口又一萬五千にすぎず。製鹽業盛なり。

ガリー 本島の西南岸に於ける軍港にして、人口凡そ四萬あり。されど前者の良泊たるに及ばず。

ジャフナ 北部に於ける一小島の名邑たり。

(屬島) 本島の屬島にマルヂバ諸島及びラカヂバ諸島あり。

マルヂバ諸島 インド沿岸の肥事を参照すべし。

ラカヂバ諸島 全 前

ヒマラヤ山中獨立諸國 ネパール Nepal or Nepaul

インド 佛領、葡領

二九七

Jajfna Galle Cambay

Diu Goa
Daman

マルヂバ諸島
ラカヂバ諸島

ガリー
ジャフナ

ヂウ

ダマン

ゴア

シヤンデルナゴル
ヤナオン
ボンデシエリー
カリカル
マエ

位置 ヒマラヤ山系中の高原に位し、西南はイギリス領インドに境し、北はチベット

に隣し、東はシキムに接す、長さ凡そ五百哩、幅凡そ百五十哩、面積凡そ五萬七千方哩、

我北海道の二倍より稍小なり。山高く谷狭くして平地に乏し。人口凡そ二百萬あり。

住民

土人の多くはゴルカス族にして、其他少數のダクタン諸族あり。ゴルカス族は十八世紀の末、本土に侵入して國を建てたるものにして、後清朝高宗皇帝に破られ、次ぎて又、イギリスと戦ひしが、千八百十五年、遂に平和條約を結ぶに至れり。

政局

政體は武斷的寡人政治にして、君主は王と稱し、一切の権力は總理大臣の手中にあり。又、イギリス駐劄官は首府に駐在すれども、表面上國務に干渉するを得ず。

貿易品

輸出品の重なるものは、牛皮・阿片・藥材・藥談・穀類・香料・象牙等にして、輸入品の重なるものは、砂糖・食鹽・牛・煙草・石油・金屬器・織物等なり。

カトマンヅ

此國の首府にして、海拔千三百三十米、ガンガ支流の上源にあり。六百餘個所の寺院を有す。人口凡そ五萬餘。

パンツ

此國の舊都にして、人口二萬五千餘。

ブータン Bhutan

位置 ヒマラヤ山系中の東部に位する獨立國にして、東北はチベットに連り、西はシ

キムに接し、南はインドに境せり。東西凡そ百六十哩、南北凡そ百哩、面積凡そ一萬七千

Khatmandu

Gorkhas

Nepal

プナカ
貿易

貿易
ツムロンク
及ガムタツク

方哩、我九州より稍大なり。人口凡そ二十一萬あり。

住民

今より凡そ二百年前に於て、チベットより移住し、土人を征服したるものにして、後イギリス人との衝突などありて、土地の侵略を蒙りしが、遂にネパールと全じく、イギリスの駐劄官、茲に駐在するに至れり。

政局

政體はチベットに類似し、ダルマ、ラジャと稱する法王と、アブ、ラジャと稱する國王と相對立して、主權を分てども、其實、貴族の権力強大にして、王者の權は有名無實なるが如し。

プナカ

此國の首府にして、總ての政治機關等茲に設けらる。唯兵備は極めて不備にして言ふに足らず。

貿易

主としてベンガル及びアッサムの兩地方に行はる。而して輸出品の重なるものは、穀類・煙草・香料・織物・麝香等にして、輸入品の重なるものは、牛・馬・石油・雜貨等なり。

シキム

位置

ヒマラヤ山系の中に位して、東北はチベットに接し、南はイギリス領インドに境し、西はネパールに隣せり。面積凡そ二千八百餘方哩、人口六萬餘あり。

政局

國王をマハラジャといふ。千八百八十九年、インド大守と清國政府との間に締結せられたる條約によりて、イギリスの保護國となれり。されば内治外交共にイギリス政府の全權に屬せり。

貿易

輸出品の重なるものは、穀類・蔬菜・果實等にして、輸入品の重なるものは、木綿織物・煙草・酒類等なり。ツムロンク及ガムタツク 共に此國主要の都邑なり。

インド 獨立 諸國

Tumlong
Gumtuck

Maharajah
Sikkim

Punakha
Dharma Raja
Def Raja

セイロン (錫蘭) Ceylon

沿革 本島は西紀前五百四十年頃、北方インドの一侯王、之を征服し、シナリース王朝を立て、爾來久しく其統轄に属したりしが、千五百年代には、ポルトガル人來りて、其西南部に植民地を設け、千六百年代には更にオランダ人の占領する所となり、千七百年代の終にはイギリス人茲に來りて、遂に外國植民地を占領し、千八百年代の始には、土人政府に對して戦争を布告し、茲に全島をあげてイギリスの版圖となすに至れり。

位置 インド半島の南方、海中に位せる卵形の大島なり。面積凡そ二萬五千餘方哩、我北海道より稍小なり。人口凡そ三百六十餘萬。半島と相隔つるには、ボーク海峡及びマナール灣を以てし、アダム橋によりてデカン半島に連れり。

國名の異稱

國名の異稱 本島は支那史籍に所謂、跋迦又は獅子國と稱するものにして、此の二稱は共にランカ、セイロンの音を漢字に寫せしものなり。ギリシア人及びローマ人は之をタプロバーナと稱し、其他アラビア人にはセレンデブ、東洋人にはランカ(光輝の意)と稱せられたり、土人語のランカ又はセイランを元解とす。

地相 本島の南部は山岳に富み、ペドロタラガラ・キリガルボタ及びアダムス等の諸峯相並びて隆起せり。而して無數の小流は、中南部地方を中心として、四方に流出せり。島中の大河をマハピリ河といふ。本島の河流は、概ね水勢皆急なれども、獨り本河は、源をペドロタラガラの西麓に發し、東北流してトリコマリ港に注ぐの間、中流以下實に舟楫の便なり。其の流域は多雨にして暖熱なる氣候のため、肥沃なる平地をなせり。

Muhavill Pedrotalagala Lanka Taprobana
Adams Serendiib

ペドロタラガラ山とアダムス峯

山共に鬱蒼たる森林を以て蔽はる。又、後者はシヤカ昇天の足跡と傳稱せる所ありて、登山參拜するもの夥し。もとより迷信の地たるのみ。

氣候 **富源** 氣候は熱帶的にして暑氣強けれども、四周海に接すると、又氣候風の影響を受くることにより、寒暑の差甚しからず。一般に健康に適すれども、只西南氣候風と東北氣候風との交替期は、稍々宜しからざるが如し。

産物中、土地は植物の生育に適するがゆゑに、チーク樹紫檀黒檀等の木材を始めとして、椰子・棕櫚・肉桂・茶・烟草・綿・珊瑚等よく繁茂せり。又動物には猿・象・豹・孔雀・鸚鵡及び其他の蛇類棲息し、礦物には碧玉・紅寶石・鋼玉石等を埋藏せり。加ふるにマナール灣産の眞珠は一年一萬八千噸以上に達すといふ。



セイロン島の榕樹及其氣根

産業

農業は頗る盛にして、茶・珈琲・肉桂・煙草等の耕作多く、之に次ぎては、山羊・綿羊等の牧畜あり。礦物は

インド セイロン

貿易

黒鉛を第一とし、其他寶石類の産あり。

貿易 輸出品の重なるものは、茶椰子實、香料材木等にして、輸入品の重なるものは、木綿織物、鹽、酒類等なり。又、貿易額は、一ヶ年一億二三千萬圓以上に達し、主としてイギリス及びイギリス領インドとの間に行はる。

都會 都邑中名あるものをコロンボといひ、他は稱するに足るなし。

コロンボ 本島の首府にして、島の西岸にあり。人口凡そ十六萬、築港以來船舶の出入夥しく、石炭及び水等の供給地にして、印度洋航海者にとりては最も重要な地なりとす。貿易又稍盛なり。市内には公園あり、政廳あり、家屋亦宏麗にして、我横濱を去る四千五百二十二哩に位す。年中氣温變化の度少なく、華氏七十五度乃至八十五度の間をを上下し終歲燈火を絶たずと云ふ。

カンチー 本島の殆ど中央に位し、小湖に瀕す。人口凡そ二萬六千餘。此地はもとシンバル人の國都たりし所にして、現今ペラドニアの宏大なる植物園あるを以て知られたり。

ヌワラ、エリヤ ベドロタラガラ山の西南、海拔凡そ千九百米にあり、避暑の適地たり。

トリンコマリ 東北岸に於ける良港にして、灣内水深く、インド洋に於けるイギリス艦隊の根據地たり。

二、インド支那半島 Indo-China

位置

アジア洲に於ける三大半島の一にして、其東南隅に位し、支那の南、インド及

Nuwara-Eliya Kandy
Trinkomali

Colombo

地學上の位置

ヒベンガル灣の東方に突出せり。其境域東北は清國の雲南廣西廣東の三省に接し、西北はインドのアッサムに境し、東及び東南は南支那海に臨み、西南はベンガル灣・ペグー海及びマラッカ海峽等に瀕せり。東西凡そ千哩、南北凡そ千五百哩、面積凡そ八十三萬方哩あり。我本州の約九倍に當れり。

地學上の位置

極ノ東	東經百九度四十五分	パレラ岬
極ノ西	東經九十度二十分	ブラマプトラ河の最東派
極ノ南	北緯一度十七分	ブル岬
極ノ北	北緯二十七度十五分	支那との境界

區劃 インド支那半島はイギリス・フランス・シヤム三國の分領する所にして、シヤムは本半島に於ける唯一の獨立國なれども、東西より次第に壓迫を受け、境域年々縮小するの觀あり。而して英佛兩國の勢力範圍を比較する時は、イギリス四割五分、フランス四割四分にして、更に人口を比較する時は、イギリス人とフランス人との比は三分の一と三分の二との比なりといふ。

國名	面積	人口
フランス領インド、シヤム	二五六、〇〇〇 ^{方哩}	一九、〇〇〇、〇〇〇 ^人
シヤム	二二〇、〇〇〇	六、七〇〇、〇〇〇
イギリス領バルマ	二三六、〇〇〇	一〇、五〇〇、〇〇〇
インド支那半島 位置、區劃		三〇三

地相

インド支那は之を地相上より論ずる時は、南部支那の延長にして、チベット高原の東より來れる横斷山脈の餘派を受け、本半島にありては概ね西北より東南の方向を取り、海拔約二千米を越ゆるものなく、唯北境に於て、僅に三千米に達するものあるのみ。而して幾多の河川は之が山脈の支脈間に並行に南流して、深き縦谷を形成して下流に土壤を沖積し、幾多の巨大なる三角洲を形成し、河川と山脈と互によく交錯して、重大なる關係を有するもの、他に其例を見ざる所なり。即ちアンナム山脈はソンコイ河及び南海沿岸流とメコン河との分水線をなし、タネン、タウンギイ山脈は、メコン河とサルウィン河との分水脈をなして、マラッカ半島に達せり。此他シャンヨマ山脈はサルウィン河とイラワヂ、シタンの流界をなし、ペクローマ山脈はシタン河とイラワヂ河下流との分水嶺なり。而して、人類の活動上、最も注目すべき所は、ソンコイ河の流域、メナン河の流域并にイラワヂ河の流域是れなり。

地形と文化

本半島の地勢は既に述べたるが如く、其山脈の趨勢は西北より東南に亘り、數派の江河は此等の並行せる谷地を流るゝがゆゑに、氣候は、居民の住域を南北に限定せんとするに反して、山脈は之を東西に制限し、住民をして止むを得ず割據孤立の中に陥らしめ、終始單調なる生活を營みて、以て他より剽擄を受くることなく

Peguyoma Tanen-taunggyi

加ふるに氣候は年中温暖にして、人の心身を緊張せしむるの季なく、遂に文明的競争より其國外に脱せしめたり。是れ本半島の進歩遅々たりし所以にして、今や白人は漸く其の遺利を探らんとて、各地の拓殖開發に従事せるものは、河流を溯りて之が沿岸に膏沃の地を求め、以て盛に殖産の業を進めつゝあり。

《河流及湖沼》 インド支那は地勢上、其山脈の趨勢單純なるがゆゑに、河流も亦何等の屈折變化なく、流域狹長にして概ね南走せり。而して其主なるものは、太平洋斜面に於けるソンコイ・メコン・ナナム等と、印度洋斜面に於けるサルウィン・イラワヂ等なり。

メコン河 はインド支那第一の巨流にして、下流はシヤム國境のコン瀑布まで舟航することを得べく、ソンコイ河も亦能く舟楫運輸の便あり。此他シヤムに於けるメナム河、バルマに於けるサルウィン河、及び之に並行せるイラワヂ河等、其交通運輸の點に於ては、前者に及ばずといへども、夙に世に知らるゝ所なり。

湖沼中最も大なるものは、トンレ、サブ湖(大湖)にして、瓢形をなし、北部を大湖、南部を小湖といふ。面積凡そ百方哩、其水流れてメコン河に通ず。

ソンコイ河
(桑該河)

ソンコイ河(桑該河) 一に紅河ともいふ。源を支那雲南省の高地に發し、トンキン地方に至りてソンボ河(黒河)を合せ、沃野千里の三角洲をなしてトンキン灣に注ぐ。流程凡そ七百五十哩。灌溉・交通・漁獲の利多し。住民群居して、生産上注意すべき地方とす。

インド支那半島 地相

Songkoi
Songbo

Tonle Sap

メコン河
(湄公河)

メナム河

サルウイン
河(怒江河)

イラワヂ河

シッタタン河

第六篇 印度及印度支那

メコン河(湄公河) 上流を瀾滄江といふ。源をタンラ山脈の東に發し、ラオスの地に來りメコンと稱し、漸次其流向を南に轉じ、シヤムとの國境に於てコン瀑布をなし、ブノンベン附近に於て、トンレサプ湖の水を入れ、前後の二派に分れ、更に數派となりて交趾支那地方に巨大なる三角洲を形成し、以て海に注ぐ。流程凡そ二千七百五十哩、灌溉・交通の利多く、下流の地方は農業盛んに行はる。

メナム河

源を北方の山嶺に發し、其下流ベンコックを貫き、屈曲してシヤム灣に注ぐ。流程凡そ八百哩。本流は幅廣く、水深く水勢緩慢にして、舟楫の利あり。此の流域はシヤム國の重要生産地とす。

サルウイン河(怒江河)

源を西藏の西部高地に發し、其通過地に於ては、種々の名稱を附せられ、マルマに來りて、始めてサルウインと稱し、東西二派に分れて、東に越くをメルメイン流派といひ、西に走るをマルタベン流派といひ、以てマルタベン灣に注ぐ。未だ河長・流域等を詳にせず。

イラワヂ河

イラワヂ河とは『象の河』の義なり、上流をミカ河といふ。源を北緯二十八度邊に發し、南流してメルマを貫き、下流數派に分れて以てベンガル灣に注ぐ。流程凡そ千二百哩なり。其の築造せる三角洲は土地肥沃にして、米産多く、盛んに各地に輸出せり。

シッタタン河

イラワヂ河の東にありてマルタベン灣の北角に注入す。

沿河

インド支那は三面圍むに海を以てし、海岸線の延長三千六百哩以上ありといへども、比較的良港灣に乏しく、加ふるに大河の下流に於ける三角洲、若くは沿海流の河口附近にありては、海岸平坦にして砂泥多く、或は岩礁に富みて懸崖絶壁をなせるものありて、完全なる發達をなせりとすべからず。

Sittang Irawadi Salwin Menam Mekong Khong

島嶼

海灣中名あるものを擧ぐれば、南支那海にトンキン灣・ホンコヘ灣・カムラン灣・シヤム灣等あり。インド洋にベルガル灣・ベグー(バルマ)海・マルタバン灣等あり。又、岬角の重要なものには、アンナムのバレラ及びサン、ジャクの兩岬・コシンシーヌのカンボヂア岬・マリ半島のロマニア及びブルの兩岬・下バルマのチグライヌ岬にして、海峡にはマラッカ及びシンガポール、地峽にはクラト、半島にはマラツカ等あり。

島嶼

島嶼の大なるもの極めて少く、其中多少名あるものを擧ぐれば、トンキン諸島・アンナム諸島・コンドル諸島・カンボチア諸島・サムイ諸島・トンタラム島・シンガポール島・サラン島・マラツカ諸島・メルギ群島・ビナン島並にアン

ダマン及びニコバルの二列島等あり。

氣候

富源

インド支那半島は熱帯に位するを以て、氣候炎熱なれども、氣候風の影響により乾濕の二季あり。一般に十一月より四月までは乾季にして、五月より十月までは濕季に屬せり。気温は夏冬に於ける差極めて少く、バンコックに於ては最低二十三度、最高二十八度六、一ヶ年平均二十六度七にして、又、ランゲンに於ては最低二十四度三、最高二十九度一、平均二十六度四にして、夏冬の温度の差僅に五度内外に過ぎざるなり。然れども北部に至るに従ひ、其差著し。

Penang Malacca Kondor Bunu Cambodia Martaban
Mergui Salang PuloNegrais Romanin St. Jacques

インド支那半島沿岸氣候

雨量は一般に多量なれども、殊に西部に多く、東部に少し。マラッカ半島の西岸も亦頗る多く、ビナン島の如きは一ヶ年八米に達することありといふ。而して平均二米半を普通とすれども、支那雲南地方に接する地方には一米内外に過ぎざる所もあり。

産物は支那及びインドの中間的混合にして、更に之を詳説する時は、トンキン及びコシエン、シームは支那風に屬し、カムボジア及びシヤムは兩者の混合に屬し、バルマはインド風に屬せり。而して獨りマライ半島にありてはマライ半島固有の特徴を呈せり。

産物中森林には此地方特産の紫檀・黒檀・チーク樹等多く又椰子多し。動物には象・犀・虎・豹・野猪・狼・水牛・蝙蝠等あり。又、農産物には米・砂糖を主とし、煙草・棉等あり。礦物には金・銀・銅・鉛等ありて、殊に著名なるものは、マライ半島の錫・イラワヂ河流域の寶玉・トンキン地方の石油・アラカンヨマの石油等なりとす。

住民 インド支那半島の住民はマライ半島のマライ人種と北部軀幹部たるインド、シナ種とに二大別することを得べく、後者は亦更に之を五分することを得べし。即ち其第一群はアンナム人・タイ人（シヤン・ラオ即ちシヤム人・ラオス人）バルマ人・カレン人・アラカン人等にして、アンナム人は支那風に化し、バルマ・アラカン人等は著しくインド風を帯べ

Loao Thai
Khmer Shan

り。第二群はカンボジアのクメル人にして、殊にインド的感化を受け、多少ジャバ人に類似せる所ありといふ、第三群は山地に住せる蕃族にして、モイムオン・ブノム・ロロ等の種族あり。ボルネオ島のダヤクに似たる所多く、恰も支那に於ける苗族の如きものなりといふ。第四群はマライ半島内地の蕃族たるオランダ族にして、多くはマライ的感化を受けたるものなり。而して其第五群は即ちマライ人にして、其住居せる範圍はマライ半島のみならず、大陸地にも散在せり。

Orang Pnom Moi
Lolo Muong

フランス領インドシナ French-Indochina

沿革 フランス人が此國を占領するに至りしは、千八百六十二年に始まれり。之より先き、アンナムは支那に從屬して、清の冊封を受けたリしが、千七百八十年頃よりフランスと通商を約し、交通次第に漸繁たるに至れり。斯くて千八百五十八年、フランスと隙を生じて戦端を開始し、其結果コシエン・シーム及びコンドル島を割かしめたるに起因せり。而して千八百六十三年にはカンボジアを加へ、千八百八十四年には、更にトンキンを略取し、又千八百九十三年にはシヤムよりメコン河の左岸を割かしめ、且、ラオスを其保護國となし。千八百九十八年には、アンコール及びパッタムバングを得て、遂に此廣大なる領土を得るに至りしなり。

劉永福 シナ長髮賊の殘黨なりしが、逃れてアンナムに入り、第二佛南戦争の起るに及び、アンナム帝の命を受け、フランス軍を撃退して、其功を奏したることありき。

Angkor
Battambang

インド支那半島(佛領)

位置 インド支那半島の東部にありて、S字状を呈せり。北は支那の廣東・廣西・雲南の三省に接し、西はメコン河及其他水流の關係によりて定められたる、不規則なる境界線によりてシヤムと境し、東南はトンキン灣・シナ海及びビナム灣等に臨めり。面積約我本州の三倍にして凡そ二十五萬六千方哩、人口凡千九百萬あり。

境界 西境シヤムとの間は、メコン河を以てすれども、其實、同河以西二十五料を以て中立地帯となし、以て之をフランス勢力範圍内に於けり。

政治 政治上分ちて五大部となす。

名	稱	面積 方哩	人口
トンキン	(領地)	四六、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
コシエン	シーム(殖民地)	二〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
アンナム	(保護地)	五二、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇
カンボヂヤ	(保護地)	三七、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
ラオス	(保護地)	一〇〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
廣州灣	(支那における租借地)	二七〇	一八〇、〇〇〇

住民 住民は國の南北によりて多少の相違ありといへども、概ね同一種族に屬せり。而して其骨格上より論ずる時は、マライ人及び日本人等に類似せる點少からざれども、風習は寧ろ支那人に近し。而して人口千九百萬中、アンナム人は千三百五十萬を占め、此他にクメル・ラオス・支那人等ありとす。

地相 支那西南部に隆起してタンラ山脈となりたるものは、更に南に轉じて雲嶺となり、其餘脈延いて此國に來り、アンナム諸山脈となりてトンキンとラオスとの間を劃し、更にアンナムとコシエンシームとの間を分ちて、南方次第に其高度を減ずるに至るものなり。而して國內到る所の平原は、大方向支那の境より流下する諸河流の沈澱作用により、肥沃なる沖積土の耕作地を成せり。

アンナム山脈 一に交趾山脈ともいふ。西北より東南に亘り、プロイナッサン・アイツアト・タムホン等の諸山を頂く。何れも二千米乃至二千五百米なり。

ソンコイ河 一にトンキン河と稱し、又河底江若くは紅河とも書せり。源をシナ雲南省に發し、上流にては萬里江の稱あり。斯くて東南に流れてトンキンに入り、シナより來る諸溪流を合し、トンキン灣に注ぐ。全長凡そ七百五十哩。灌漑頗る廣くして下流の平野よりは米綿等の産出多く、半島中人口最も稠密なる地方の一なり。河身又深くして運輸の便あり。河口一大三角洲をなせり。而して支流にソンボー(黒河)・ソンチュ(清河)・ソッカ(黄

Song-Kn Song-Chu Song-Bo Song-Koi



アンナムの河岸の村落

インド支那半島(佛領)

河)等あり。明治十七年、本河の航通權に關して清佛戰爭を惹起せしことあり。

メコン河

メコン河 下流カンボヂヤ河と稱せられ、南部唯一の通路たり。(シヤムの部に詳し)

沿岸 東南一帯の地、繞らすにトンキン灣・シナ海・シヤム灣等を以てし、延長凡そ千七百哩に及べり。而してアンナム中部の沿岸は、一般に深澳なる港灣をなせるがゆゑに、船舶の碇繫に佳なるものあり。されど北部に至れば、沿岸頗る低平なれども、諸河流の吐出する泥土のために濁流澎湃たり。又、トンキン灣の西北端には石灰岩及び大理石の小群島あり。海水之を浸蝕して奇景佳勝に富めり。

カムラン灣

カムラン灣 アムナン沿岸に於ける最良の碇泊地にして、船舶常に輻輳せり。本港は嘗て日露戰爭の際、露國バルチック艦隊がフランスの中立地を犯して碇繫したる所たり。

灣内分れて内外の兩港となり、タイン島と海岸とを以て其一を扼し、タイン島とデラプライス島とを以て其他を扼せり。

ナトラン灣

ナトラン灣 カムラン灣の北方凡そ三十哩にあり、大艦の寄航に便ならざれども、又捨つべきにあらず。

其他

其他 ビンカン灣はナトラン灣の北方にある長澳にして、一時の假泊に適し、又其北にマンフォン灣あり。フンロ灣はバアレア岬の南方に突出せる半島によりて圍まれ、灣内危險の恐れなく、頗る良泊たり。又其北にフニン灣あり。灣内亦良港に富めり。

Nhatrang
Binhkang

Kamr.nh

島嶼

島嶼 島嶼にはケバオ・コンドル・マートロン等稍々著しく、其内コンドル群島はメコン河口をさるる百餘哩に位し、要塞地として計畫せられつゝあり。

氣候

富源

氣候は熱帶性を帯び、年内乾濕の二季に分る。是れ東北氣候と西南氣候風とによるものにして、南部の濕季は五月より八月に至り、乾季は十月より四月に至るを普通とし。又北部はアムナン山脈によりて、南部と全く反對の現象を呈するものあり。

産物 は土地肥沃にして、且雨量多きがゆゑに、米の産出夥しく、平原到る處稻田ならざるはなし。之に次ぐは棉花・甘蔗・玉蜀黍・烟草等の農産物とす、而して國內至る所、山間にはチークの良材を始めとし、護謨樹・椰子・檳榔・檸檬・肉桂等最もよく繁茂せり。

動物中、象は最も有名なるものにして、虎之に次ぎ、其他水牛・山羊・孔雀・岩燕等なり。又礦物は石炭の埋没極めて多しといへども、未だ充分の採掘に至らず、而して之に次ぎて金・銀・銅・鐵・寶石等の産あり。

貿易

産業

貿易

貿易 輸出品の重なるものは、米の三千五百萬圓を首とし、其他、木材・棉花・砂糖・烟草・皮革・象牙・石炭等にして輸入品の重なるものは、織物・金屬器・鐵器・酒・石油等なり。而して此等輸出入の總計は、一ヶ年凡そ一億五千萬圓以上に達し、主として本國フランスとの間に行はる。岩燕の巢は食品として支那に輸出す。

産業

産業は最も盛にして、米・砂糖・胡椒等の栽培多く、牧畜は之に次ぎ、主として牛を飼養せり。又、林産はインド支那半島(佛領)

チーク及び其他の良材あり。工業は最も不振の状態にあれども、亦多少の製作品なきにあらず。

政局 フランス政府より駐在せしめられたる總督は極めて宏大なる権限を有し、インド支那高等會議並に國防會議の協賛により、聯合領土内に於ける行政を司り、且つ内外に對して防禦攻守の責任を有す。而して其配下には、サイゴンに副總督、ハノイ・ヒュー・エ・ブ

ノム・ベン・ブ・エン・チアヌに統監をおき、以て其地方に於ける行政事務を掌らしむ。又、支那廣州灣租借地は此の地の總督の管轄内に隸屬せり。

軍備に關しては陸軍二萬五千人ありて、内一萬人はヨーロッパ人、一萬五千人は土人なり。海軍は甲裝巡洋艦二隻、巡洋艦三隻、砲艦六隻、報知艦二隻にして、根據地をサイゴンに置き、以て極東艦隊を組織せり。

文化 インド支那半島には前既に述べたる如く五種族の外、約四百萬の支那人、殊に清國南部の廣東・福州地方より來往して、商業に従事せるありて、ヨーロッパ人は僅に六七萬内外なりといふ。従つて東部地方アンナム・コシエ・ン・シーヌ及びカンボヂア等にありては、此等支那人多きを以て専ら漢字を使用し、西部地方はインド人の影響を受け、インドのバリ語及びペリ文字を使用せり。又マライ種は回教徒と共にアラビア文字を使用すといふ。而して教育は一般に劣等にして、殆ど顧みるものなく、獨り、シャムに於ては、近年大に力を教育に注ぎ、制度を新にし、文化の發展を圖りつゝあり。

宗教は佛敎を奉ずるもの最も多く、基督教亦之に次ぎてヤソ舊教徒四十萬人、全新教徒十萬人ありといふ。

トンキン
(東京)

トンキン(東京) フランス領インドの東北部を占め、東南はトンキン灣に臨み、南はアンナムに接し、西南及び西はラオスに接し、北及び東北は支那の雲南・廣西・廣東と隣せり。東西凡そ四百哩、南北凡そ二百五十哩、面積我本州の半より稍大にして凡そ四萬六千四百方哩、人口凡そ一千萬あり。分ちて十四州八十ヶ村となせり。地味最も肥沃にして且又鐵礦、金礦に富めり。

Tonkin
Tongk-ing,

コシエ
ン・シーヌ
(交趾
支那)

コシエ・ン・シーヌ(交趾支那) アンナムの西南にありて、西はシャム灣に瀕し、西北はカンボヂアに接し、北はラオスに接し、東南は南支那海に臨めり。長さ凡そ二百七十五哩、幅凡そ百哩、面積二萬方哩、人口凡そ三百萬あり。分ち二十一州とす。

Cochinchine

此地は千八百六十二年アンナム王より讓與を受けし地にして、メコン河の大三角洲一帯を占め、其洪水汎濫ある毎に、肥料を堆積し、灌地を肥沃ならしむ。農産物の重なるものは、米にして其他棉花・樟草・胡椒等の産あり。牧畜も亦盛にして、牛・馬・水牛・羊・豚等の飼養多し。

カンボヂアと南爪 南爪は元來カンボヂア地方の産なりしを、近世我國にも移植して、其地名を取りてカンボヂアとは稱せしものなり。

アンナム(安南) フランス領インドシナの極東を占むる國にして、北はトンキンに接し、西はラオスに接し、南はコシエ・ン・シーヌに隣し、東は南支那海に面せり。面積凡そ五萬二千方哩にして、我北海道の二倍より稍小なり。人口凡そ六百十五萬人あり。

インド支那半島(佛領)

アンナム
(安南)

カンボヂア
と南爪

アンナムに於けるフランスの交渉は千七百八十七年に始まり、千八百八十四年に其保護國となりしものにして、國內山脈多く、メコンの谿谷及びトオ地方に至る途を杜絶し、就中アイレオ峠最も重要と稱せらる。産物は米玉蜀黍、果實、煙草等にして、其他山地には森林多し。又鐵物には鐵、銅、石炭等あり。

附言 アンナムは西紀二百年頃より七百年頃までは、常に支那の版圖に屬し、千年頃よりは其外藩に列せり。國朝の興廢古來定りなく、現朝の始祖は阮福映なるものなり。阮福映は千八百二年、アンナムを統一して清の封册を受け越南王と稱せり。

蓋し此國がフランスより來れるヤソ宣教師の斡旋によりてフランスと交通を開始せしは千七百八十年代にして、其後千八百五十八年、兩國難を拂へ、アンナム大に取られたり。時に阮福映の孫阮弘智位にあり、コシエンシーヌ三州を割きて和を拂せり。然れども王は固よりフランス人の專横を惡みしかば、劉永福を用ひて之が恢復を圖りたりしが再三其破る處となり、遂にトンキン地方を擧げてフランスに讓り、自國を以て其保護の下に置くに至れり。

カンボヂア(東南塞) フランス領インドシナの南部に於ける一小王國にして、アンナム、コシエンシーヌ、シャムとの間に位し、面積殆んど我北海道及び千島の和に等しく約三萬七千四百方哩、人口凡そ百五十萬あり。

此地は千八百六十三年以後、フランスの保護國たりしものにして、産物は米、檳榔樹、煙草、藍靛、玉蜀黍等なり。又南瓜の原産地とす。

沿革 此國は早くよりインド的文化を蒙りたる所にして、第七世紀の始め、支那人來りて此國を征服せしことありしが、當國は全く滅びずして、其後アンナム人を壓倒せしことなどありき。然るにシャムの盛大に越きし頃より

カンボヂア
(東南塞)

Cambodje

ラオス(老
撾)

次第に衰進を來し、十八世紀の始めバッターバンをシャムに割き、千八百六十年頃よりフランスの干渉を受け、千八百六十三年其保護國となり、千八百六十七年の條約により、其二州をシャムに割讓せり。

ラオス(老撾) フランス領ラオス即ち東ラオスは西北より東南に亘れる狭長の地にして、東北はトンキン・アンナムに接し、南はアンナム・カンボヂアに接し、西北は清國の雲南省と隣し、西南はメコン河に限らる。面積凡そ九萬八千方哩、人口凡そ六十五萬人あり。

此地は千八百九十三年以後、フランス保護の下にあるものにして、國內山地多しといへども、土地豊饒にして、米、綿花、煙草、果實等の産あり。住民は所謂ラオス人にして、性朴質、太古の風ありといふ。

都會 フランス領インドシナに於ける都邑の名あるものをハノイ、サイゴン、ハイフォン、ブノムベン、ルアン、プバン等とす。

ハノイ(河内) 俗にケシオといひ、又、東都、交都等の名あり。トンキンの首府にして、ソンコイ河の右岸に位し、人口十五萬餘。市街宏壯ならざれども、安南中人口最も多く、各種の生産業最も盛なる平野に位置し、且フランス巡遣の駐在官あると、四通八達の地に於て、交通上の要衝に當り、百貨輻輳せるを以て商業最も盛なり、特に米の輸出は頗る盛なり。

ハイフォン(海防) ハノイの外港にして、相去ること六十餘哩、貿易頗る盛にして、人口凡そ二萬あり。鐵道は之よりハノイをすぎ、國境を越えて清國雲南省に入る。皆佛國の經營する所なり。

インド支那半島(佛領)

Hai-Fong

Hanoi

Laos

Ailao

ナムチン
(南定)
バクニン
(北寧)

ナムチン(南定) ハノイの西南四十五哩に位し、運河の岸にありてトンキン第二の都會たり。人口凡そ三萬五千餘。城塞を有し、生絲・絹布の製造並に農産集散を以て知られたり。

Son-tay Nam-dinh
Lang-Song

此他 バクニン(北寧) はハノイの東北凡そ十五哩にありて、人口一萬餘。古領史上著名なり。ランソン(涼山)も亦ハノイの東北七十五哩に位し、交通上の要點にありて、古領史上有名なり。此他ソントイは三角洲の頂點を占むる城塞地にして、劉永福終焉の地として知られ、ラオカイは雲南省との國境に於ける城塞地として知られたり。

サイゴン(柴棍) コシエンシーヌの首府にして、サイゴン河に瀕し、インドシナ殖民地の重鎮たり。人口約六萬。フランス政廳のある所にして、總督茲にあり。而して城塞造船所等は南部に、棧橋・新港等は西部に、市街は中部にあり。

Saigon

我國との距離

我國との距離 我横濱より上海を経てサイゴンに至る二千三百八十六哩あり。又、此地は香港を去る九百二十哩、シンガポールを去る六百五十哩ありといふ。

シオロン

シオロン コシエンシーヌ最要の市場にして、商工業盛に、殊に米穀の集散地として知られたり。人口凡そ十三萬餘。

Mytho Bien-hor Cholon
Cap.st. Jacques

ツールン
(茶隣)
クイノン
(歸仁)

ユエ(順化府) 古の比景にして西都順化府と稱す。アンナムの首府たり。人口凡そ六萬餘、此府はフォンギアン河に跨り、王宮は其左岸にありて、宮殿・官衙等大に備はれりとす。へども、實權は悉くフランス政廳の手にあり。附屬港チュアンアンは船舶の碇繋に便ならずといふ。

ツールン(茶隣) ヌエ最近の良港にして、此國の殖民史上著名のものたり。

此他 クイノン(歸仁) はビンデンを去る十餘哩、中部アムナンに於ける最要の開港場にして、カン(永)はソンカ河口を去る十餘哩、沃野の中央にありて、將來有望の地たり。

Vinh Tourne Thuan-an Hue
Qui-Nhon Huong-giang

カンポット

カンポット フノムベンの西南八十五哩にある外國貿易港にして、大船の碇繋には便ならずといふ。

ルアンプラベン ラオスの首府にして、メコン河に瀕し、ラオス王の宮殿あり。人口凡そ三萬餘。此地は我貞觀年間、嵯峨天皇の皇子高岳親王の薨去し給ひし所なりと稱せらる。

Kampot Pnom-Penh
Luang-Prabang Nam-Viam

高岳親王

高岳親王 平城帝の第二子にして、嵯峨帝の皇太子となる。而して年少早く儲貳に陞れるを以て、人稱して降

インド支那半島(佛領)

ウイーン、
シアス

居太子といひ、不祥となせり。會々平城上皇、尙待養子を龍す。之によりて弘仁の亂あり。親王亦坐して廢せらる。斯くて弘仁十三年四品に叙せられしが、後廢差して眞如と號して阿闍梨の位を得たり。斯くて、承和四年、入唐、法を修めんと志を抱き、遂に唐に至り、更に進んで天竺に赴かんとし、羅越國(老撾)に至り、逆旅に遷化せり。年八十有餘。一説に曰く途に猛虎に遭ひ遂に其の襲ふ所となりて老嫗に命を終ふと。

Vien-ghan
Vien-tiano

三、シヤム(暹羅) Siam

此國古代にありては、ラオス人の占居せし所にして、インドより渡來せしクメル人は優秀なる文化を齎して進入し一時盛大を極めたるものゝ如し。然るに西紀五六世紀頃に至りて、北來のタイ人あり、南漸して次第に其勢力を擴張し、千三百五十年頃第一王朝を建設し、尋ぎて第二王朝、第三王朝等之に代りしが、千七百六十七年バルマ人のため大敗を蒙りたり。斯くて其遺臣鄭照之を恢復して王位に推され、死後亦其將ホレマラチャフラダゴトフア位に即けり。之を現朝の始祖とす。斯くて三世を経て現王クラロンコルンに至りしなり。ヨロッパ人の始めて此地に來りしは、十六七世紀の頃にして、ポルトガル人並にフランス人は先づ基督教の傳導を試みたり。斯くて佛王ルイ十四世の在位中、苛酷なる干渉を試みて成らず、佛人漸く其野心を放棄したりしが、十九世紀に至り、又イギリス人、フランス人、ドイツ人等は争ひて使節を送り、通商を營めり。爾來外國との交情兎角不穩なるものあり。千八百九十三年にはフランスと條約を結びて中立地帯を劃し、尋ぎて千八百九十六年、イギリス・フランスの協商となり、更に千九百二年及び千九百四年のフランス・シヤム條約により、愈々其領土を縮小するに至れり。

Chulalongkorn

19/1

近年漸く力を教育・殖産に注ぎ、専ら意を文化の發展に盡さんとし、ヨロッパ諸國に學びつゝあり。而して我大日本帝國とは交情殊に親密にして、立法行政教育等につき、我邦人を顧問或は教師として、聘用しつゝあり。先年當國皇太子の來遊あり、又近く皇太后の來遊あるべしと云ふ。

位置 一にシヤムといひ、漢人の所謂暹羅國にして、後インドの中部を占め、フランス領インドとイギリス領インドの中間に介在し、タイ部とマラッカ半島の一部とより成れり。而してタイ部は東及び東南に於て、フランス領に接し、西及び北に於て、イギリス領バルマに隣し、南はシヤム灣に臨めり。又、マライ部は東に支那海、西にインド洋を控へ、南はイギリス領の海峡殖民地に連れり。面積凡そ二十萬方哩にして、我本州の約二倍餘に相當せり。内六萬方哩はマライ半島にあり。人口は未だ其詳細を知らざるも、凡そ六百萬人なりといふ。

國名の起源 シヤムの名稱はバルマ人が稱してシヤン(鶯色の義)と名づけたるに始まりたるものにして、國人はタイ、或はムアング、タイと自稱すといふ。其の意「自由」或は「自由の國」の義なり。又我日本にては昔時ルソン・ジャバア等と共に、之を一括して南蠻と稱せしことあり。

境界 此國は昔時極めて廣大なる版圖を領有したりしが、隣邦フランスの勢力に敵し難く、年々事を擧げて以て其領土を縮小せられたり。即ち千八百九十三年にはフランスとの條約によりて、メコン河を以て其境界としたりしがフランスは更に其右岸二十五哩の幅を以て中立地帯と定め、千八百九十三年より三ヶ年に亘りてラオスの地積凡そ

Shan
Muang-Thai

國名の起源
境界

シヤム 位置

十一萬方哩を割讓せり。斯の如く東部はフランスより壓迫せらるゝと共に、西部及び南部も亦イギリスの勢力範圍に屬する部分多くして、眞の領土と稱すべきは、殆どメナム流域に限られんとするものゝ如し。

住民 住民の数は併せてシヤム人二百五十萬、チオス人二百萬、シナ人百五十萬、其他マタイ人百萬、等を加へて八百萬以上と算せられしが、今は百五六十萬人程減少してシヤム人二百萬、チオス人二百萬、シナ人百萬、マライ人其他百萬合計約六百萬人と稱せらる。一方里約百五六十人の密處とす。

地相 國の北方には峨々たる一大山脈の蟠踞せるものあり。其餘脈延いて南走し、二三の並行山脈を出し、緩漫なる傾斜を以て終り、茲に宏大なる平野を生成せり。而して東チベットより南下せるタネン、タウンギイ山脈は、メチアン山脈となりて、ムライウイツト山を現出し、マライ半島に至つては極めて低平なり。又、メコンの三角洲の地及びメナム河畔等は、土地豊饒にして、稼穡に適すれども、住民の怠惰無氣力なるため、開拓の緒に就きたるもの僅に二十分の一に及ばざる状態なりといふ。

河流の主なるものはタイ部の西部にメナム・タチン・メクロン等ありてバンコック灣に注ぎ、東にはナムシナムン等ありてメコン河に入れり。此他東境フランスと對するにはメコン河を以てし、西境バルマとの境するにはサルウイン河を以てせり。

メナム河(湄南河) メナムとは「河の母」(母河)の義なり。源を國の北部山脈中に發し、

メコン河
サルウイン



シヤム人象を狩る圖

バルマより來れる數多の支流を入れ、南流してシヤム灣に注ぐ。流程凡そ八百哩、下流には大三角洲あり。本河は實に當國重要な河流にして、全長約九百哩、舟楫漕漕の便共によるしきは勿論、恰もナイル河のイデプトに於けるが如く、雨期に際しては河水を氾濫し、河畔を肥沃ならしむること頗る大なりといふ。蓋しシヤム國生産の中心地方は實にメナム河の流域にして、此の國の生命の懸る所と稱すべきなり。

メコン河 サルウイン河 (共にインド支那地相の部に詳し)

氣候 氣候は乾濕の二季に分たれ、五月より十月までは、炎熱多雨なれども、其他は乾燥にして寒冷なり。故に惡疫流行すると多く、山間にはマラリヤ熱、平野にはコレラ赤痢等あり。されど海濱の地は一般に健康に適せり。氣温の年平均均はバンコックに於て二十七度なれども、稀には晝間三十五六度に達することありといふ。

シヤム住民、地相、氣候

産物は米胡椒・煙草・綿珈琲等の農作物及び至る所チーク樹・紫檀・黒檀等の熱帯性材木に富めり。就中、米の如きはメナム河下流の平地に良く栽培せられ一ヶ年二回の收穫ありて輸出三千萬圓以上に達し、チーク樹の如きも、六百萬圓以上に達せり。此他鑛物には金・銀・銅・鐵・石炭・亞鉛・アンチモニー・水銀等を始めとし、紅寶石・碧玉・金剛石等の埋藏少からずといふ。又動物にては象を以て最も重要なものとし、土民富源の一大方便となせるものなり。

産業 農業は主として米の栽培にして、其他胡椒・珈琲・煙草・麻・綿等の耕作あり。牧畜は頗る盛にして、牛馬象の外、豚・羊・鶏等を飼養す。此他森林にはチーク樹・紫檀等を産し、鑛物には砂金・錫・鐵・鉛等あり。工業は極めて不振の状態にして、絹織物の紡績・金屬器の製作の外記すべきものなし。

貿易 輸出品の重なるものは、米・チーク材・寶貨・海産物・胡椒・皮革等にして、一ヶ年凡そ七百萬磅に達し、主としてシンガポール・香港・インド・ドイツ等に仕向けられ、又、輸入品の重なるものは、織物・金屬器・陶器・藥品・寶貨・マツチ・阿片等にして、一ヶ年凡そ五百萬磅に達せり。我帝國との貿易は年々増加するの傾向あり。本邦よりは主として石炭・マツチ・織物・陶器等を出し、此國よりは、米・チーク樹・綿等を入る。

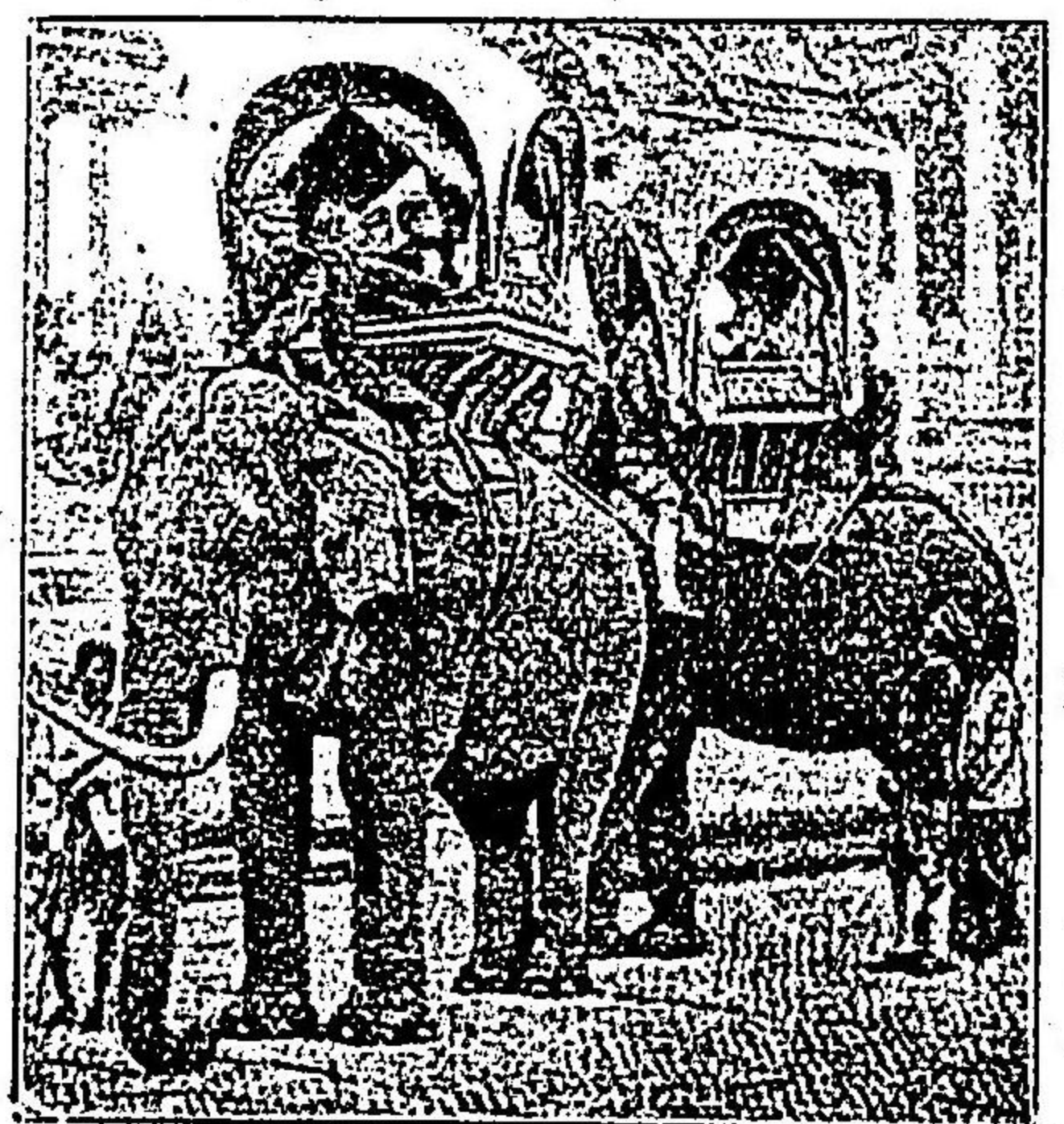
政局 現國王クラロンコルンは千八百六十八年の即位にして、君主專制の王國なれども、専らヨーロッパ風の政體を模倣せり。行政權は内閣の輔弼により國王之を執行するも

のにして、外務・内務・司法・大藏・文部・陸軍・海軍・警察等の各大臣あり。又、別に立法院を設け、法律の制定に參與せしめ、場合によりて國王の裁可を俟たずして、法律を發布するの權能あり。地方の行政に關しては、全國を分ちて四十一州とし、各一名の知事を配置し、

其下に郡長あり。隸屬地にはカンボディア・ラオス・シアン・マライ等の諸州ありて、從來は領主之が行政を司りしが、現今は全く知事の權力に服するに至れり。

國防に關し、陸軍常備兵は將校千人、下士卒三萬人あり。海軍は百噸以上の軍艦二十二隻ありて兵員凡そ五千人なりといふ。

文化 宗教の重なるものは佛敎にして、全國の教育は殆ど僧侶の掌中にあり。全國佛寺の數は一萬にして僧



ク股を至客に上背の象人ムヤン

侶八萬八千人内五萬四千人は生徒なりといふ。官立に係る學校の重なるものは、教員練習學校・貴族學校・高等英語學校・高等國語學校・國語學校等なり。

氣候暖熱にして、生活頗る容易なれば、國民は一般に怠惰放肆にして産業を治むるもの少く、常に賭博を好み、白シヤム・産業・政局・文化

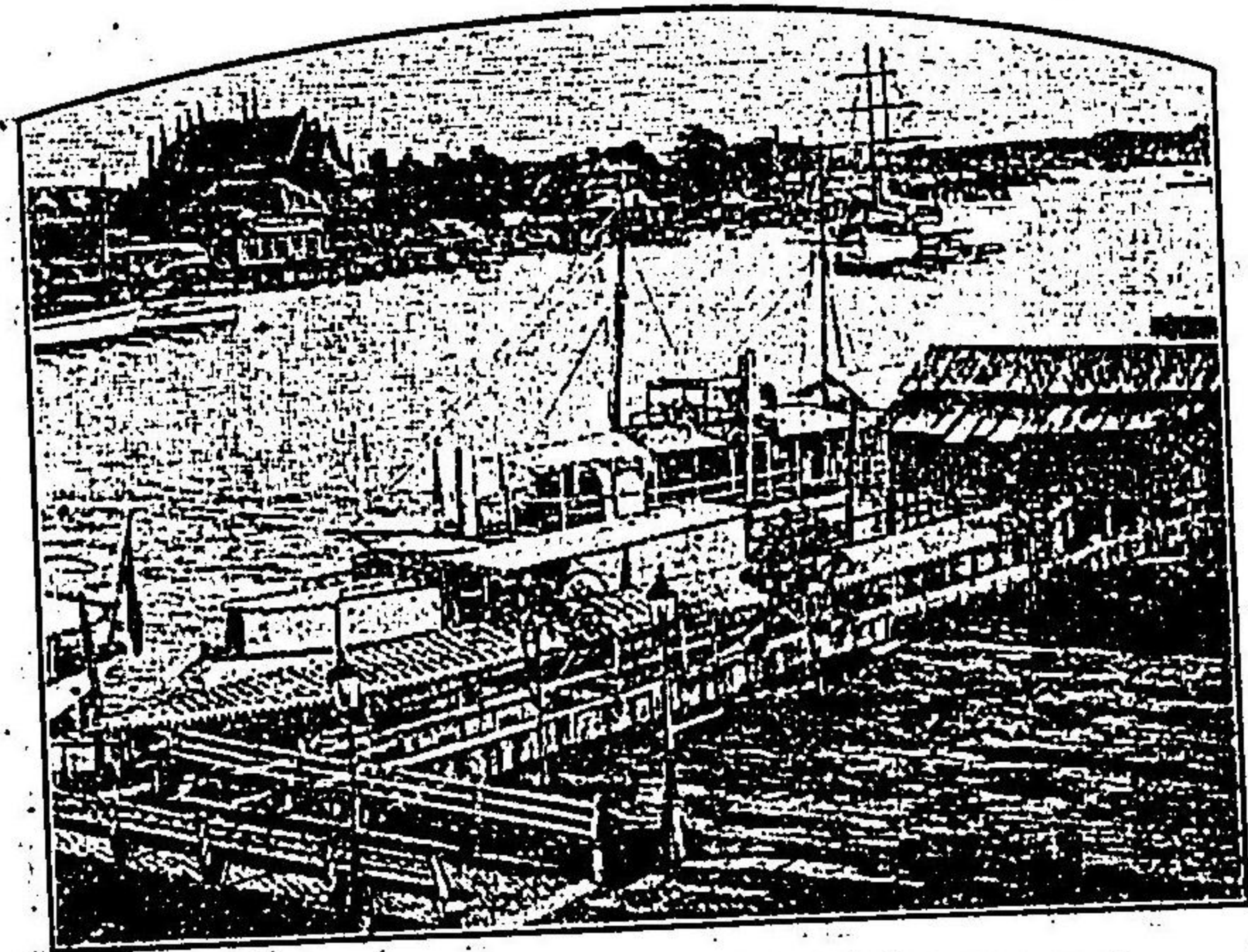
第六篇 印度及印度支那

茲公然賭場を設けて之を行ふ。政府亦之に課税して一財源となすといふ。

シヤム人生活の程度 は、概して頗る其の度低く、氣温高きがために、衣服等は極めて簡易にして、僅に腰部を掩へるのみ。上流の士女にあらざれば腰部の外、肩部を掩ふもの少し。且貴婦人等の如きは、其指の爪を大切に保存し、長さ數寸に至るもの珍しからず。塔宇の建築は一種の特色を有し、凡て屋根の頂きを著しく尖鋭ならしむるの風あり。

【都】 首府をバンコックと稱す。其他アユチア・コラット等あり。

バンコック(盤谷) 宗教名をスナグといひ、西紀千八百六十八年以來の王都にして、メナム河口を溯ること約二十哩、河の兩岸に跨れり。人口約三十五萬。其半數は支那人にして商業極めて繁盛なり。一に『東洋のゴニス』と稱せられ、水上に浮べる舟を家として生活せるもの頗る多大なり。



(りな河ムナメはる流を央中)街市クツコンバ

Bangkok

パクナム
(巴古市)

アユチヤ

アンコール
の廢墟

コラット
(科拉特)

クルンカオ
キエンマイ

此地もとは支那人ピン、タットが創定せし河岸の一小村落にすぎざりしが、西紀千七百六十六年、バルマの大軍侵入して、舊都アユチヤを破壊したるを以て、現王朝の二代ヨトフア玉の新都となり、王宮、官省を始めとし、寺院、高塔軒を列ね、竟を接して、建築宏壯、實に東洋屈指の名都たるに至れり。我帝國を距る凡そ三千八十哩にあり。

パクナム(巴古南) メナム河口の良港にして、バンコックの外港に當り、相距る數哩、鐵道を以て連絡せり、船舶の碇繋によるしく、又パクナムと共に國都の防禦線に當れり。

アユチヤ 此國の舊都にして、河口より八十哩の上流、砂洲中にあり。之れ我豐臣氏の遺臣等が至りし所にし、名高き日本町は其廓外にありたり。今は荆棘深く繁りて僅に昔日の面影を忍ぶにすぎず。

彼の豪傑山田長政の至りしも、亦此都府たりしなり。

アンコールの廢墟 一にナホルワートの稱あり。國の東南、大湖の北岸にあり。何の時代、何人の築造したるやを詳にせずといへども、約二十方哩に亘り、七ヶ所に分れたる大宮殿の跡あり。此地もとはカンボジアに屬したるものなりしが、近年シヤム領に歸せしものなりといふ。旅客の來り訪ふもの多し。

コラット(科拉特) バンコックを距る百三十五哩、メコン地方に遠する要衝に當り。人口一萬餘。城塞を有す。

クルンカオ 商業繁盛なる所にして、人口五萬餘。附近には野象多く、玉璽の御獵地等あり。

キエンマイ メビ河の上流に位し、ラオス地方との商業上重要な地にして、人口五萬餘。又、キエンハイは

シヤム都會

Xieng-mni Korat
Xieng-hni Krung-kae

Angkor
Nakhorvat

Ayuthin Paknam
Park-Lat

メコンの支流メホックに瀕し、ラオスと雲南地方との要衝に當れり。

ラヘン

バンコックの西北二百三十哩に位し、ナビン河畔にあり。人口二萬餘。市街頗る盛なり。

チアンタブン

タロン河の左岸に位し、千八百九十三年以來、フランスの占領する所となれり。

○シヤムと日本との關係

一、我日本がシヤムと交通を開きしは、文祿・慶長年間、即ち西紀千五百九十年頃なり。當時シヤムの舊都アユチャの外廓には日本街を設け、日本居留民既に六七百人以上あり。商人の往復、使節の來聘等頗る盛にして、交通絶えざりき。

二、慶長年間、家康使を遣はして、シヤム國王に鐵砲と奇楠香とを求む、而して所謂御朱印船なるものは浪路遙にシヤムに航して貿易を營み、通商最も盛なり。斯くて慶長十七年には、シヤムの使者駿府に來りて家康に謁し、又元和七年には江戸に來りて、須田町誓願寺を旅館としたることなどあり。山田長政の奇功を奏せしも此の時代のことなり。

三、斯くてシヤムは内亂につゞきて日本人の追放あり。加ふるに寛永十三年、將軍家光鎖國の國是を實行して、外教禁止と外國交通とを斷行せしかば、近年まで全く其交通を絶ちたりしが、明治二十一年、更に修好條約を締結して、爾來二百六十餘年間、杜絶したる

山田長政

交通、頓に發達し、國王も亦大に我國に信頼して、政事・教育等の顧問を招聘するに至れり。

四、始めて交通を開きし以來、我邦人の出で、以て名をなしたるもの少からず、山田長政・木谷左衛門・津田又左衛門・有賀門太夫・天竺德兵衛等最も著はるゝものなり。殊に山田長政・天竺德兵衛の如き、其偉績内外人に知らるゝ所なり。

○山田長政 通稱は仁左衛門或は駿河の人といひ、或は伊勢福宮の隸なりといふ。資性卓落雄志あり。沈淪して駿府に至る。意へらく今天下定り、功名の又成すべきなし、願はくは異邦に事を企てんと。元和中貿易商瀧左衛門及び太田治右衛門、大坂より將に臺灣に航せんとす。長政之に乗らんことを乞ふ。二人長政の身後を危ぶみ之を拒む。長政乃ち碇に船中に伏し、帆を擧ぐるに至り、出て、前附を強ゆ。仍りて漸く臺灣に至るを得たり。時に年二十七。然れども其地小にして、復爲すべきなきを視、乃ち暹羅國に往く。時に暹羅國擾亂して隣邦六昆と争ふに際す。長政其征討の軍を見るに紀律なし。曰く是れ必ず敗れんと。果して其言の如し。或人其言を國王に傳ふ。國王長政を召して軍器を請ふ。長政ために建策する頗る善なり。王乃ち長政を上將軍とし、六昆の兵に當らしむ。對ふ處敵なく、終に六昆國を降す。國王大に喜び、其女を長政に與へて、六昆及び暹比留の地に封ず。長政又王に勸めて、位を弟に譲るの制を改めて、父子相續の制となさしむ。已にして長政の名國內に普しといへども、本邦未だ之を知るものなし。寛永初年、瀧・太田の二商、臺灣人に就きて、暹羅との商賈利あるを聞き、尋きて至る。蓋し長政此地に來りて、倭人との交通其便を圖れるによる。二人尋かれて國王に謁す。王更に又便服して來り、其肩を打ちて曰く、善なきかと。愕きて仰き見れば、乃ち長政なり。長政厚く二人を饗して歸らしむ。又貿易地を設けて日本街をなす。長政嘗に戰に

天竺德兵衛

臨む母に、必ず駿府淺間祠に祈る。軍帳を克つ。是に於て戦艦を描ける扁額を淺間の廟に獻せり。九年五月王即位し、新王立つ。大臣高班もと王母と通ず。是に於て國を奪はんとす。長政藩にありて之を聞き、兵を發して都に入らんとし、途に使臣のために毒殺せらる。時に寛永十年なり。

イギリス領バルマ British-Burma

○天竺德兵衛 播州の人、幼にして奇童の稱あり。寛永十年、角倉與市の船に乗りて天竺に渡航し、三年を超えて長崎に歸る。寛永十四年十一月、再び長崎を發し、十六年八月歸る。其肥する書に天竺圖書あり。後刺髮して宗心と改め、貞享中病歿せり。年六十八。

上古のこと知るべからずといへども、思ふに若干の佛教國ありて覇權の掌握を争ひたるものゝ如し。斯くて千七百五十二年ベグー人全土を統一し、翌年アロンブラ興りて、一時國勢大に振張したりしが、遂々内亂の生ずるあり。時恰もヨーロッパ人の來るもの多く、茲に内憂外患相起りしかば、イギリス人々に乘じて、千八百十六年ガンガ河以北を奪ひ、之を根據として千八百二十四年第一バルマ戦争に於てアサムを取り、千八百五十二年第二戦争によりて其他の諸地方を略し、千八百八十五年第三戦争によりて、遂に全土を占領するに至りしなり。

位置

インド支那半島の西北部を占め。東北は雲南省に北はチベットに境し、西北はインドのアッサム及びベンガル州に隣し、西及び南はベンガル灣に臨み、東はフランス領インドシナ及びシヤム國に接せり。面積凡そ二十三萬六千方哩、我本州の三倍より稍小なり。人口凡そ一千五十萬あり。分ちて上下東の三部となす。

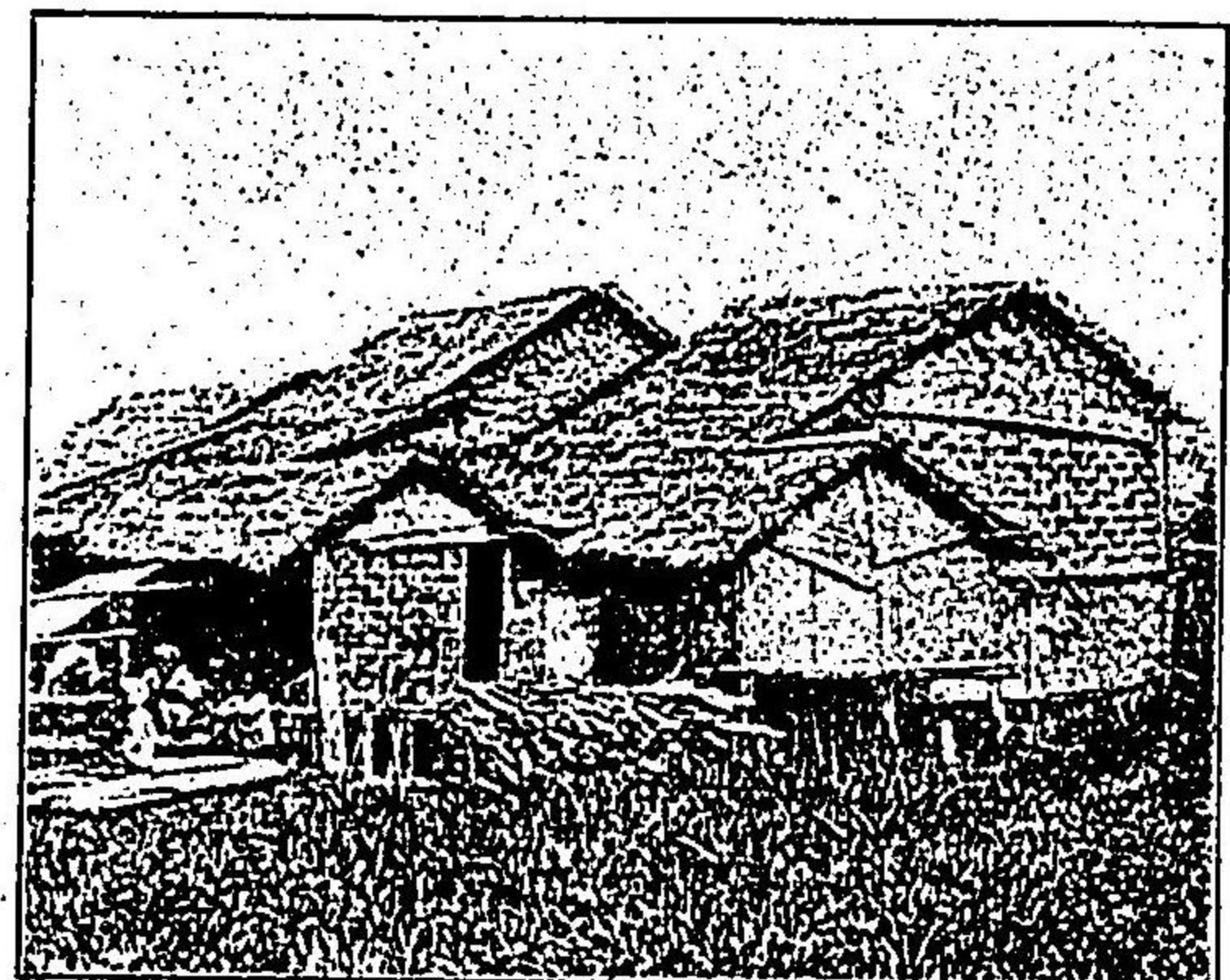
地相

地勢は一般に高峻なれども。東部及び北部にはタネンタウンギイ山脈・シヤンヨマ山脈・ベグーヨマ山脈等ありて、サルウイン河・イラワヂ河・シタン河・ブラマブトラ等の分水界をなせり。而して河の流域は最も注目すべき地域にして各種の生産に富み、住民多く、實にバルマの中樞區と稱すべき所たり。

イラワヂ河、サルウイン河 (共にインド支那地相の部参照)

沿岸は稍々屈曲に富めりといへども、良港灣の稱すべきものなし。其内名あるものを舉ぐれば、海灣にはマルタバン灣・ベグー(バルマ)海あり。岬角にはネグライスあり。又、島嶼にはメルギー群島・アンダマン列島・ニコバル列島等あり。

アンダマン及ニコバル諸島 バルマの西南端ネグライス岬を大スンダ列島に接続し、南北に弧形を呈して相連れる群島にして、前者はインドの殖民流刑地たり。(インド沿岸の部参照)



バルマ人の村落

氣候

氣候は概して炎熱にして、沿岸は森林相連り稍々溫和なるも、イラワヂ上流地方は殊に寒暑の差著しく、雨量はベンガル海岸にては世界屈指の多量を示せり。

バルマ(英領)

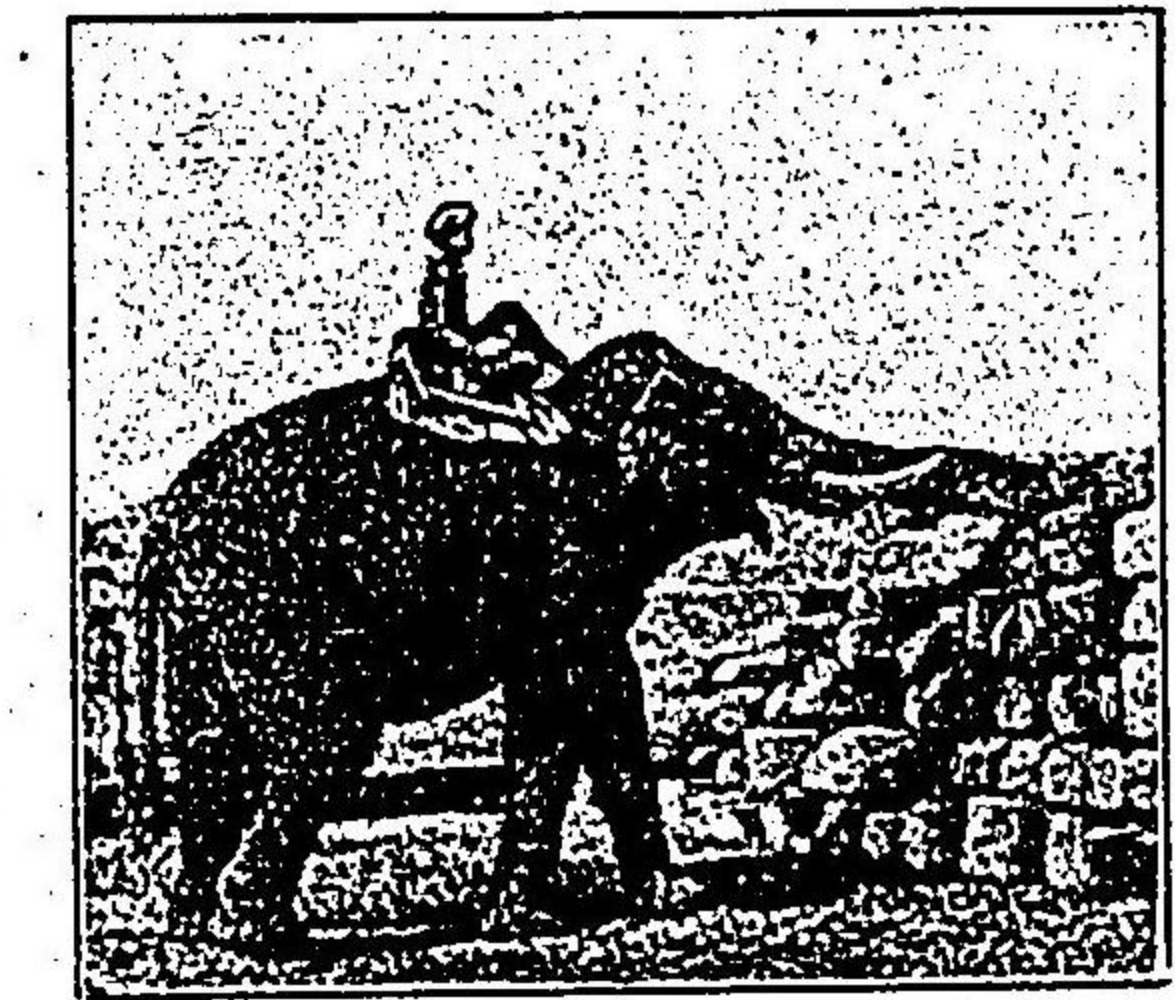
イラワヂ河
サルウイン

アンダマン
及ニコバル
諸島

之れ印度洋を渡り来れる多湿なる季候風の影響に由るものとす。(アジア及び印度支那の氣候の部参照)

産物は米を第一とし、麥・綿・煙草・藍・甘蔗・チーク材等の栽培之に次げり。牧畜には牛・羊・豚等あれども、佛教徒の肉食を禁ずるにより、未だ發達せず。礦物は鉛・銅・鐵・石油・石炭・寶石等の埋藏ありと稱すれども、採掘未だ盛ならず。

都會 都邑中名あるものは、ラングーン・マンダレー・バローム等なり。



馬ルバ人象使役して木材を取扱ふ

に輸出する南京米の集散地として知られたり。此の地千八百五十二年に英人の手に歸せし頃は矮小なる小屋の群集せる小都邑なりしも、今や街路廣く建築宏大となり。實に大都會としての面目を具ふるに至れり。

Rangoon

マンダレ ラングーンの北三百五六十哩にありて、上バルマの首府たり。人口十八萬五

千。イラワヂ河の在岸に瀕し、舊王城並に廣大なる著名の寺院あるを以て、巡拜者の來り集ること多し。

プローム イラワヂ河の上流左岸の米産地方にありて、商業上及び軍事上の要地たり。人口三萬餘。

マウルメイン サルウイン河口に瀕する市街にして、此地方に於ける木材の集散地たり。人口凡そ六萬。

此他 バッセインは全名の河に瀕して米の輸出盛に、又、バモはイラワヂ河畔にありて、支那の國境に近き交通上の要衝たり。

食用、燕の巢 又南方テナツセリムの海岸なるメルグイ港は小港なれども、附近の海岸及び島嶼より一種の燕の巢を多量に採收して、支那人の最も好美とする食品として輸出するを以て、著名なり。



マンダレーの佛塔

Mergui Bassein Promo Mandalay
Bahmo Maulmain Mandalay

海峽殖民地及マライ保護國

Straits Settlements.

位置 イギリス領海峽殖民はシンガポール島・ピナン島・ウエレスレト、チンデンングマ

海峽殖民地(附屬國共)

食用、燕の巢

プローム、マウルメイン

ラツカの五部よりなり、面積凡そ一千五百餘方哩、我佐渡島の約四倍に當る。人口凡そ六十萬あり。イギリス政府の直轄に屬せり。

住民 住民の多数は所謂マライ人種と稱するものにして、風に航海に長じ、有力なる海賊として遠近の各群島に對據して大に其威を振ひしが、ヨーロッパ人の來航と共に、其勢力を削滅せられ、支那人多く來住して其大部分を占むるに至れり。

拓殖の新方法

拓殖の新方法 住民の多くは白人の使役する所となり、白人は經營者となりて彼等の勞力を利用して各種の生産業を營めり。此の如き方法は近年に至りて盛んに各地に行はるゝ所にして、特に白人等の健康に適せざる熱帶地方等に於ける最良の拓殖方法と信ぜらる。

氣候 此地は全部熱帯に位すれども、他のそれに比すれば、あまり酷烈ならず、最高温度といへども三十五度以上に達すること稀なるがゆゑに、頗る健康に適せりといふ。又雨量は概して十一月より四月に至る間を以て多しとす。

産物は熱帯性の有用植物に富めり。即ち胡椒・コブラ・珈琲・椰子・サゴ・米・麻・鳳梨・ゴム等は皆土人の生活上必要なるものにして、各地に輸出せらるゝことも少からず。此他動物には虎・象・豹・犀・水牛・鹿等ありて礦物には錫の産名あり。

サゴ米 はサゴ椰子の髓より製する澱粉性の食料品にして、白色の粒状をなせり、大豆の如し。

シンガポール島 (新嘉坡) Singapore

サゴ米

此地は千八百十九年、ラツフル氏の風に着眼したりし所にして、千八百二十四年、英人の手に歸し千八百六十六年マラツカ・ベナン等と共に海峡殖民地を組織し、翌千八百六十七年よりイギリス政府の總督之を治む。

位置 マライ半島の南端に位せる花崗岩地盤の一小島にして、スマトラ島とマラツカ半島との間なる海峡にあり。而して半島を隔つるもの僅に十二三町に過ぎずして、其間相隔つるにオトル海峡を以てす。島の長さ凡そ二十七哩、幅十四哩、面積凡そ二百餘方哩あり。

本島はもとジオアリの酋長が支配したりしものなりしが、千八百二十四年イギリス人が買収したるものにして、氣候の炎熱なるにも係らず、頗る健康に適し、土地低平にして最高處とすへども、百五十八米に過ぎずとす。

島名の起源 シンガポールの第一義はシンガプトラの轉訛にして、マライ語の獅子市より來りたるものなりといふ。又其第二義は轉訛の義にして、シナ海とインド洋との咽喉に當り、南洋を控へ、將來益々繁榮轉訛の甚たるに垂るべきを以てなりと。蓋し第一説探るに足るが如し。

シンガポール 本島の要港にして、同時に海峡殖民地の首府たり。人口凡そ二十餘萬に達し、其過半は支那人にしてマライ人次に次ゆるといふ。市内には政廳・各國領事館・植物園・動物園等見るべきものあり。又、港は自由貿易港として、日本・支那・インド・ヨーロッパ

島名の起源

Lion-City

Johnr

Raffles

等に對し、深き關係を有するのみならず、交通上の要衝に當り、仲繼貿易極めて繁盛にして、其の港の如きは船渠、棧橋、繫船場、倉庫起重機其の他の設備殆んど完全にして、東洋に於ける模範的港灣の一と稱せらる。

此地明時代のシナ人は羅漢嶼と稱へ、盛に貿易通商を營みたるものにして、爾來愈々發達して、以て今日の盛況を見るに至り、今や市街は壯麗に、船舶は輻輳し、實に東洋屈指の一大市場たるに至れり。我横濱をさる二千八百七十哩にあり。

貿易 貿易の進歩は、イギリス人が本港を開きて自由港となしたる以來、非常なる發達をなしたるものにして、今年に三億萬圓以上に達すといふ。而して輸出品の重なるものは米・穀物・サゴ米・胡椒・咖啡・錫・香料藥物等にして、輸入品の重なるものは、木綿織・石炭・石油等なり。我本國に輸出するものは錫・米・生綿・藍等にして、本邦よりは石炭・マツ



景の近附ルーボガンシ

チ・漆器・キヌハンカチーフ・絨物等を輸入す。

ピナン島 Penang

貿易

位置 マライ半島の西海岸に近き、一小島にして、シンガポールをさる南北凡そ三百五十餘哩、半島を隔つる僅に二哩に過ぎず。面積凡そ百方哩にして、其五分の三は丘陵地たり。

本島はもとシヤム領なりしが、千七百八十五年、ケダールの酋長より買収して、イギリス領となりしものなり。一にプリンスオブウエルス島と稱す。風景最も秀美にして、地味頗る肥沃なり。

島名の起源 ピナンはマライ語のペーナンより來りたるものにして、檳榔の嶼なりといふ。

《ピナン》本島の首府にして、人口約十五萬餘。ヨーロッパ通航船の寄港する所にして、頗る繁盛の要衝たり。

ジョージタウン 本島の東岸にあり、此の附近における要都とす。

諸島嶼 ウエルスリーはマライ半島の西岸にありて、ピナン島と相對し、面積凡そ二百七十方哩あり。氣候極めて健康に適し、米・珈琲等の耕作頗る盛なり。

ウエルスリーも亦千八百年以來イギリス領に歸したるものにして、首府ウエルスリーには人口十二萬餘あり。商業頗る盛なりといふ。

Wellesly

Penang

Kedah

島名の起源

ジョージタウン

ウエルスリー

海峡殖民地、マライ保護國

此他の島嶼

此他の島嶼 ヤンチング島はピナンの南七十哩にありて、海峡殖民地の一部をなし、此他スマトラ島の西南六百八十哩に於けるキーリン諸島(椰樹島)並に同島の東に於けるクリスマス島の如きもイギリス領にして、前者は凡そ十方哩、後者は凡そ四十方哩あり。

Dinding Keeling

マラツカ Malacca

此地はもとマライ人の建てたる王国にして、千五百十一年、ポルトガル人アルブケルケ氏の占領に歸し、爾來同國政府の管轄下にありしこと凡そ百三十年、商業頗る繁盛なるに至り、次ぎてオランダ人の手に歸し、千八百二十五年更にイギリス領に歸するに至りしなり。

アルブケルケ

アルブケルケ ポルトガルの航海家にして、其勢力をインドの開拓に盡し、本國政府のため貢献する所多くなりしが、遂に嫉妬に迷ひて歸國の途につき、途次病を獲て死せり。

位置 海峡殖民地中最も古く、且つ廣さものにして、半島の西南端にあり。長さ凡そ四十哩、幅十哩乃至二十五哩にして、面積凡そ六百七十餘方哩、人口凡そ十萬あり。ペナンの南凡二百四十哩にあり。

産物

産物の主なるものはタピオカ、藤胡椒果物、錫等なり。タピオカは我が葛粉の如きものにして、マニホツト(大薯)と稱する植物の根塊より製造する澱粉質の食料品にして、西洋人の常用する所たり。

マラツカ

マラツカ マラツカの首府にして、夙に貿易開け、世界の商業界に轟きしが、今は全くシンガポールに繁盛を奪はれ衰微を極むるに至れり。人口約五萬。

マライ保護國

地理上マライ半島と稱するは、タラ地頭以南にして、ペルマ灣とシヤム灣との間に突出せるものを地條とし、一旦タラ地頭に没すれども、北東岬以南に至れば、再起して山勢頗る高峻を極む。一般に地條の構成は他のマライ群島に同じ。

位置 マライ半島の大部分を占むるものにして、三面海に瀕し、北方の一部、狭き地頭によりて接続せり。面積凡そ三萬五千方哩。我北海道より稍大なり。人口凡そ百萬あり。

氣候

富源

地勢北部は山岳聳集すれども、南方に至るに従ひ、漸次低下せり。氣候は一般に酷熱濕潤にして、低地にはマラリア熱流行せり。産物は錫を以て第一とし、其他鐵、鉛等の埋藏あり。此他森林には良材多く平野には米、胡椒、藤等の産多し。

區劃

分ちてペラク・セラングル・チグリセンピラン及びスンダイ・ウジオン・パハン・ジオホール等とす。此等の各邦は皆ラジャアを君主に頂きけるが、千八百二十一年シアムに征服せられ又千八百九十六年以來、駐在官支配の下にありて、英國シンガポール知事に隸屬せり。

人口 マライ半島の北部を占め、面積凡そ七千五百方哩、人口凡そ三十八萬餘あり。地勢高山脈多く、頗る錫に富めり。此國も亦千八百七十年以來イギリス政府の保護を受くる

Perak

海峡殖民地、マライ保護國

タイピン

に至りしなり。

タイピン 此國の首府にして、錫・椰子・珈琲等の輸出多し。

〔セラングル〕 ベラの南にあり。面積凡そ三千方哩、人口凡そ二十二萬あり。千八百七十年以後イギリス政府の保護を受くるに至れり。

クワラ、ラ
ンボ

クワラ、ランボ 此國の首府にして、錫の外、胡椒・珈琲等の産あり

〔ネグリ、セムビラン〕 ネグリ、セムビラン及びブスング、ウジオンはもと九個の小國なりしが、千八百九十五年聯邦組織をなし、以てイギリス政府の保護を受くるに至りしなり。

面積凡そ二千七方哩、人口凡そ十二萬あり。

コーラムビユル 此國の首府にして、錫・胡椒・珈琲等の貿易多し。

コーラムビ
ユル

〔パン〕 マライ半島の東側を占め、面積凡そ千四方哩、人口凡そ八萬五千あり。イギリス保護國中最も發達せざる所なり。

ペカン 此國の首府にして、錫の輸出多し。元來此國には錫・金等の埋藏多けれども、未だ採掘せられずといふ。

ペカン

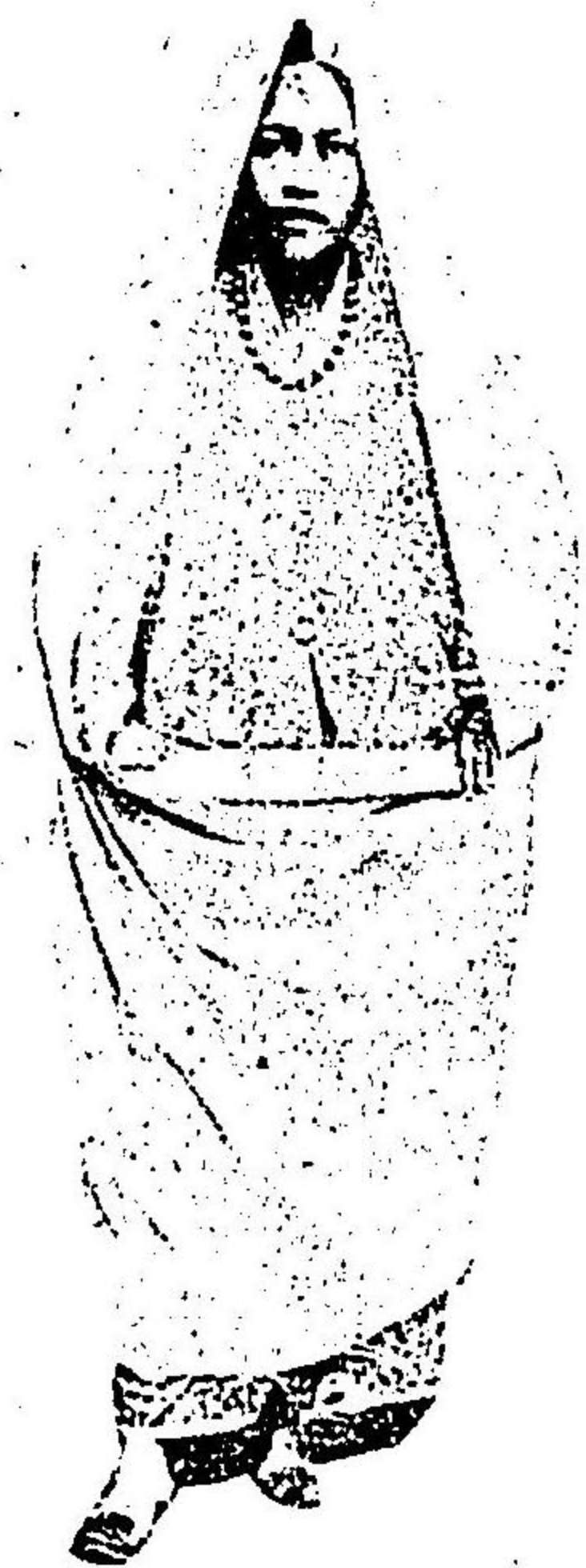
〔ジオホール〕 マライ半島の南端に位し、面積凡そ七千方哩、人口凡そ二十萬あり。此地

ジオホール
パール

千八百八十五年以來スルタンの外交は、イギリスの代表する所となり、ガンビル・胡椒・珈琲等の輸出あり。

ジオホール、パール 一に新シンガポールの稱あり。此國の首府にして、錫・鐵等を出すを以て知られ、シンガポールを去る三十哩の地にあり。

Johore-Bahru



マライ半島の婦人

Kwllumpnr Sungei-Ujong Kwala-Lampur Thaipng
Pahang Negri-Sembilan Selangor

Djohere Pekau

第七篇 マライ (馬來) 群島 (又東印度諸島)

Malay (East Indian) Archipelago

マライ人は舊來の住民中、頗る勇敢なるものあり。常に太平・インド兩洋を航して、東はポリネシアに及び、西はマダガスカルに達し、其勢頗る盛なりき。然るに西紀十六世紀頃より、歐羅巴人の來航あり。ポルトガル人はスンダ近海に出發して、肉豎寇の輸入を試み、モルッカ群島の占領に關して、イスパニアと多少の争論をなしたる外、十七世紀の始めに至るまでは、殆ど獨占者たるの觀ありしが、オランダ人の爲に漸次其疆域を縮小せられたり。斯くてオランダ人は、十八世紀の末に至るまで、其勢力旺盛なりしが、又もイギリス人の蠶食にあひ、次第に領土を失ふに至り、十九世の末更にアメリカ人之に加はり、イスパニアに對する戰勝の結果として、フィリッピン諸島を領有するに至りしなり。

ウォーリス線 マライ群島は、古來オーストラリアと共に大洋洲の一部とし、若くはアジアの一部として、之を分類し來りしが、地學上より論究するも、又生物學上より觀察するも、明かに二群島に分割することを得べし。即ちボルネオ海、ジャバ海等は周囲の島嶼と共に一體の陸地をなして、水深僅に五十尋を超えざれども、一朝東すれば新ギニアの沿岸に至るまで、最も深き海底相連続せり。之が境界線は即ちウォーリス線と稱せらるゝものにして、其の線はバリ・ボルネオ・フィリッピン諸島の東を過ぎ、更に我輩海の東に至るものとす。而して此線の西にあるものは、臺灣・フィリッピン諸島・大スンダ諸島(ボルネオ・ジャバ・スマトラ)等にして、東にあるものは、セレベス・モルッカ諸島・小スンダ諸島等なり。而して此の線以西の諸島はアジア的にして、以東の諸島はオセアニア的なりと稱す。

最近の批評

抑々此の線は、十八世紀の初めに於て英國博物學者にして大旅行家たるアルフレッド・ワッセル

Wallace-Line

ウォーリス線

最近の批評

ウォーリス氏の圖上に畫せるものなるが爲めに、其名を得たるものなれども、最近研究の結果に因れば、ウォーリス線の深く信ずるに足らざるものなるを知るに至れり。即ち地體構造上より見るも、又生物分布上より見るも、而かく明瞭なる境界線を設くるは、頗る獨斷的方法にして精密に事實と合一せずと云はるゝに至れり。

位置 一にマライシア又はインドネシアの稱あり。アジア大陸とオーストラリア大陸との間に横はれる大小無數の島嶼を總稱せるものにして、西はバシ海峡、シナ海及びマラッカ海峡を隔て、臺灣・シナ・後インド諸國に對し、南はインド洋に面し、東は太平洋に臨み、東南はチモール及びアラフラの二海並にハルマヘラ海峡によりて、オーストラリア及び新ギニアに連れり。面積凡そ九十二三萬方哩、人口凡そ四十五萬あり。

區劃

マライ群島に於ける政治的區劃次の如し。

邦名	面積	人口
北アメリカ合衆國領	一一五、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇
オランダ領東インド	七三五、〇〇〇	三六、〇〇〇、〇〇〇
イギリス領ボルネオ	七五、〇〇〇	五五〇、〇〇〇
ポルトガル領チモール	七、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇

マライ諸島の一特質 此の群島は地球上に於て最も島多き地方の一にして、東西約三十經度の間に散布せり。而して其の西半部は大體の上に於て亞細亞的にして、東半は概してオーストラリア的なり。又火山に富み、其の

位置、區劃

三四三

マライ諸島の一特質

活動の作用も最も活潑なり。而も地味は極めて豊饒にして、天産物豊に特に植物の繁茂著しく。和蘭領最も多し。

地相 マライ諸島は世界有名なる火山地方にして、其脈分れて二者となり、一はジャバ・スマトラ等の諸島を貫通せるものと、一はモルッカ・セレベス・フィリッピン等を経て、我が臺灣島に來るものとあり。而して島嶼の形成の如きも、火山の有無によりて大に其趣を異にし、六十有餘の活火山と、數百に達する休眠火山とが、本諸島内に配置せらるゝかゆゑに、之に伴へる地震作用の如きも、亦恐るべきものあり。諸島中火山の最も多きをジャバとし、スマトラ之に次ぎ、又最も少くして殆ど其痕跡を認めざるは、ボルネオ島なり。而して此等諸島嶼中、其火山岩よりなれるものの四周は、無數の小珊瑚嶼によりて圍繞せらるゝを普通とすといふ。

沿岸 各島に於ける沿岸の如きは、勿論同一ならずといへども、一般に太平洋並にインド洋に臨める沿岸は、斷崖絶壁多くして、海岸線の延長の如きも、ボルネオの如き土塊狀の島嶼を除けば、よく發達して出入多く、特にフィリッピン群島・セレベス島・ハルマヘラ島の如きは、他に多くの類例を見ざる所なり。

海洋及海峽 マライ群島中に於ける海洋及び海峽の重なるものを擧ぐれば、スル海・セレベス海・モルッカ海・

海洋及海峽

バンタ海・スンダ海(フロレス海)・チモル海・ジャバ海・バシ海峽・モルツカ海峽・ハルマヘラ海峽・スンダ海峽・マラッカ海峽等とす。

氣候 本諸島は概して回歸線内にありて熱帯圈内に位すれども、氣温は一ヶ年平均二十六七度内外を保ち、最高最低氣温の差も僅に二度内外に過ぎず。雨量も亦土地の高低により、多少の差異あれども、概して氣候風の影響により、乾燥に失するの恐なく植物の發育を助け、健康に適せり。

産物中、植物には黒檀・紫檀等の熱帯性植物多く、森林全島を蔽ひ、動物には猩々・獅子・象・虎・豹・水牛及び羽毛の美麗なる鳥類多し。生物學者ウォリス氏は、多年本諸島の生物を研究したる人にして、ウォリス線の西に於ける群島にては棕櫚・竹・桂・檜等の植物、及び猿・虎・犀・象・孔雀・雉子等の動物ありて、所謂アジア系に屬するもの繁殖し、東に於ける群島にては、ユーカリ樹・アカシア・カシニアリナ等の植物、及び有袋獸・鸚鵡・食火鶏・極樂鳥等の動物多く、所謂大洋洲系に屬するもの繁殖すとす。

北アメリカ合衆國領フィリッピン群島 Philippine Is.

本諸島の始めてヨーロッパ人に知られたるは、西紀千五百二十一年にして、ポルトガルの大航海家マガリマニス

フィリッピン群島

Halmahera or Djilolo Banda
Mangkassar Lombok Bali Flores

によれり。而して當時、氏はイスパニア王カロロ五世の保護の下に本島に來りしものにて、始めはサン、ラザルスと
呼びたりしが、其後二十年を経て、西王フィリップ二世の名譽のため、フィリピンと命名したるものなり。
斯くて千五百六十五年、ゼブ、パナイを最後に、ルソンを征服し、イスパニアの領有たること、十九世紀の末葉に及
びたりしが、島民の思想漸次發達し來り、千八百九十六年には、革命黨の首領アギナルド起りて反旗を翻せり。而して
千八百九十八年（明治三十一年）米西戦争の結果、本島はアメリカ合衆國の領有に歸したれども、叛は猶繼續して千
戈を重ねたる後、全年バリ條約の結果、遂にアメリカ合衆國支配の下に屈服するに至れり。

我國との關係

我國との關係 而して之より米國は特に東洋に關係を有することとなり、從て我國ともいよく密接の關係
を生ずるに至りしものにて國勢の發展上注意すべき所なりとす。

アギナルド

アギナルド マニラ叛黨の巨魁にして、千八百九十六年八月、イスパニアに向つて獨立の叛旗を翻し、共和政
體を建設せり。然るに千八百九十八年米西戦争の結果として、フィリピン諸島をあげて之をアメリカの領に歸し米國
は其代償として二千萬弗を支拂ひしが、アギナルド之に服せず、交戦實に三年の久しきに亘りしも、千九百一年（明治
三十四年）遂に捕虜の身となりて、其志を挫折せられたり。

位置

マライ諸島の北部に位し、北にルソン、南にミンダナオの二大島ありて、其間
に基布羅列せる大小無慮千二百餘の島嶼よりなり、總面積凡そ我本州及び北海道の和に類
似して十一萬五千方哩、人口凡そ八百萬あり。

境界

境界 北はバン海峽を隔て、バタン及びバプアンの二小群島を介し、以て我臺灣に連り、西南はスル海を隔てて
パラワン及びビスマ群島の二連嶺により、ホルネオ島と連絡し、東南はミンダナオ島の南部に於て、タラウト及びサン

緯度上の位置

緯度の兩群島を経て、セレベス及びモルッカ兩群島に接続せり。
緯度上の位置 北緯四度四十五分より三十二度一一度に至り、東經百十七度四分より百二十六度四分に至る
ものなり。

地相

諸島は一般に火山的山脈連亘して頗る高峻を極め、活火山約十二座あり、外に多
數の休火山あり。從つて地震は實にフィリピン諸島の一特徴ともいふべく、颶風の襲來と
共に住民の非常に恐懼する所なり。即ち千八百六十三年に於ける地震の如きは、マニラ市
に建てられたる西洋風の家屋すら悉く破壊せられ、又、千八百八十年に於ける震災の如き
も頗る強大なりしといふ。最近千八百九十七年七月一日の火山地震の際には、村落を埋め、
死者二百二十名を出せり。又舊噴火口よりなれる湖水の如きも、其數亦頗る多しといふ。
沿岸の屈曲は概して多大なれども、近海は海水淺くして暗礁多きか、若くは潮流急に
して航行に危険少からず。

山岳

山岳 諸島中山岳の名あるものは、ルソン島南端にマヨン山あり。ミンダナオ島中部にアポ山あり。インドロ
島北部にハルコン山あり。何れも皆二千五百米以上に達せる火山たり。

河流

河流 河流は一般に短小にして舟楫に適するもの少なしと雖も、河口附近に於ては概ね小汽船を停ぶるを得べし。
特にルソン島に於けるカガヤン最も著し、ミンダナオ島のリオ、アグアン河之に次げり。而して前者は源を島の中
央に發し、煙草の名産地方を灌溉して海に注ぎ、後者も亦源を島の中央に發し、南流してマニラ灣に入る。

位置、地相

島嶼 フィリピン諸島内に於ける島嶼の重なるものをあげれば、(一)ルソン(二)ミンダナオ(三)パラワン、(四)シンドロ(五)サマル(六)バナイ、(七)ネグロス、(八)レイテ(九)セブ、(十)ホホル(十一)スル等の諸島なり。

氣候 **富源** 氣候は熱帯性に屬し四時恰も我國の夏に等しとすへども、海洋性を帯ぶるがゆゑに、生活あまり困難ならず、又、熱病及び其他の流行病ありとすへども、健康に適せざるにあらず。雨量は一般に多くして、植物の發育に適し、風位の變更上、乾濕の二季あり。即ち毎年十月より四月までは東北風多く、四月より十月までは西南風多し。而して其變更する際には颶風(バギオ)の襲來を見ること多く其の被害少からず。

富源中植物には菩提樹・肉桂・胡椒・椰子・コ、ア、コーヒ、砂糖、大麻等多く、動物には猿猴・野猪・水牛等あり。又礦物には金・銅・鐵・硫黃等あれども、採掘盛ならずとす。

産業

産業の最も盛なるは農業にして、米・甘蔗・アルベカ・烟草・咖啡・綿等の耕作多く、之に次ぎては水牛・牛・馬・豚等の牧畜なり。鑛業未だ微々たるものなれども漸次盛ならむとするの傾向あり。

貿易

輸出品の重なるものはマニラ麻・砂糖・コブラー・烟草・コ、ア・藤等にして、主としてアメリカ合衆國・イギリス・香港・フランス等に仕向けられ一ヶ年凡そ三千三百萬弗に達せり。

位置

地相

ルソン島 (呂宋) Luzon
フィリピン群島中北部に位し、群島第一の大島なり。面積凡そ四萬方

哩、我九州の約三倍に當れり。人口凡そ四百萬あり。
地勢北部は塊状をなせども、南部は奇状を呈し、沿岸の屈曲出入は頗る夥しく、カマリオン半島を現出せり。島内至る所山脈の起伏多く、各所に火山の噴出せるあり。山岳河流亦比較的多し。



人土のンピリイフ (較比のと人白)

山脈及河流 山脈の重なるものは、西岸にコルデラ、デル、ノルテ山脈あり、東岸にシニラ、マドレあり。相並行して其中間にカガヤン川を擁ぎ、土地豊饒なり。此他南部カマリオン半島中にマオンタール・イサログ・アルサン等の活火山多し。カガヤン川の流域に烟草の産多し。又、河流の名あるものは、カガヤンの外、アグノ・バンパンガン・パンシグ等なり。

海灣 沿岸は頗る屈曲に富み、海灣亦少からず。其内重なるものを挙げれば、西海岸に於けるマニラ灣、南海岸に於けるラゲー灣、東南岸に於けるアルベイ灣及びラゴノイの二灣なり。

マニラ フィリピン諸島中の首府にして、マニラ灣に瀕し、バング河に跨り、政治上は勿論、商工業上の中心地にして、市街壯麗、北アメリカ合衆國の總督茲にあり。此他烟草製造並にアルベカ機織の業盛にして、大商人の來り住するもの多し。人口凡そ三十五萬

- Munila
- Ragay
- Albey
- Lagonoy
- Agno
- Pampangan
- Pasig
- Taal
- Ismog
- Bulusan
- Cordillera-der-Norte
- Sierra-Madre
- Caguyan

地震及び暴風の災害

カビテ
リバ
ラオアグ
メタンガス
リンガイユ

あり。慶長年間より朱印船其他にて、しばしば邦人の來往せし所とす。

地震及び暴風の災害 マニラは千五百七十三年頃建設せられたる都會なるが、全島火山脈の上に立てるを以て火山地震多く、風害を受けること屢々にて、千六百四十五年の地震には三千人の死者を出し、千八百五十二年には市の大部分破壊せられ、全六十三年にも又千餘人の死者を出せり。又風烈しき爲めに、しばしば火災を起し、千八百九十三年四月の大火には、四千の人家を焼き、全九十五年四月には三萬戸を燒棄せりといふ。

カビテ マニラ湖の東岸にあり、米國太平洋艦隊の根據地なり。

リバ マニラの東南四十五哩にあり。アルバカ布製造を以て知らる。人口凡そ四萬。

ラオアグ 島の西北端にあり。農産物の集散地として知らる。人口三萬五千餘。

メタンガス サンベルナルデノ海峡の西端に臨み、木材及び農産物の輸出あり。人口三萬三千餘。

リンガイユ 全名の灣に臨み、農産物の集散地たり。人口凡そ三萬五千。

ミンダナオ島 Mindanao

位置 地相 本群島中ルソン島に次げる第二の大島にして、南部に位し、面積我四

國九州の和に比敵し凡そ三萬七千方哩、人口凡そ三十萬あり。

地勢は一般に火山に富み、至る所山岳蟠幄せり。即ち南海岸にはアボ山あり、北海岸にはウルダネダ及びマリندان山あり。皆活火山に屬し、時々震災至ることあり。河流も亦

Urdanten Apo
Malindang

Batangas Lipa Cavite
Lingayen Lacang

沿岸

ブツアン

イロイロ
セブ
マクタン

其數少からざれども、概ね短小なり。而して土地は一般に豊饒にして農産物に富み、森林蒼鬱として有用の材を出す。氣候は一帶に暖熱にして濕氣に富み且年々附近の海洋より來れる颶風の害を受けること呂宋島に同じ。

沿岸 沿岸の屈曲出入は頗る夥しく、シンゲー・イラナ・ダバオ等の灣入ありて風波を避くるに佳なり。

ミンダナオ 本島の西南端にありて、本島第一の繁盛なる地なり。人口二萬餘。

ブツアン アグサン河の下流にあり。有名なる航海者マカリアエニス氏が本群島に來りし時、始めて上陸したるの地なり。

此他 ミサミス・ダバオ等の都邑あり。

其他の諸島

ビサヤ諸島 ルソン島とミンダナオ島との間にありて、サマル・レイテ・ボホル・セブ・ネグロス・バナイ及び其他の小島嶼よりなれり。

イロイロ バナイ島に於ける開港場にして砂糖・タバコ・煙草・香料等を出すを以て知られ、人口凡そ二萬餘あり。又セブはセブ島に於ける都會にして、植民地の最も古きものなりといふ。

マクタン マカリアエニス氏が將に世界一週の偉業を終らんとするに當り、不圖海手に罹りて死したるの地なり。時は西紀一千五百二十一年とす。

ミンダナオ島

Zebu Ilo-ilo

Misamis Zamboango Sibuguey
Davao Butuan Davao Oillana

マガリアエンス ホルトガルの航海者にして、千四百七十一年に生る。カロロ五世の時、世界の廻航を企て西インドより南アメリカの南端に至り、マガリアエンス海峡を發見し、更に太平洋に出て本群島に航し、マタンの戦に於て、遂に土人の刃に罹りたり。然れども共同行者は目的を達し、千五百二十二年、セルビアに歸港せり。是れ最初の世界廻航たり。



マガリアエンスの肖像

○フィリピン諸島と本邦との關係

本諸島は我臺灣と一帯帯水の間にあり。従つて往時より通商盛に行はれ、世人の之を見る、亦頗る注意すべきものありたりき。

足利氏の末葉、天下麻の如く亂れ、志を當時に得ざりしもの、思を雲烟萬里の外に馳せ、海外に驥足を延べんとせしこと一にして足らず。而して此等の徒、黨を組み支那海岸・安南・シヤムより遠く本諸島に來り、剽掠を事とし、威力を逞ふせしかば、豊臣氏の世、原田孫七郎なるもの、策を建て、大に征南軍を起さんことを勧めしが、時恰も征

《パラワン列島》

カラミアヌ・パラワン・ヂウマラン・パラバグの諸島よりなり、パラワン島最大にして、面積凡三千七百方哩あり。土地頗る豊饒なれども、住民極めて少し。フェルトブリスエ市はパラワン島にあり。

《スール列島》

一にヒオロ群島ともいふ。バシラン・スール・バンダラン・タプル・タウイタウイの五群島よりなり、面積凡千五百五十方哩、人口凡十五萬あり。イサメラ及スールは共に本列島の名邑なり。

Palawan

明の役に際し、かば、捨て、顧みられず。徳川氏の始め、關ヶ原に敗れしもの數千人、大舉して沿海を駭がし、かばイスパニア大守肝を潰ぶし、幕府に上書して之が償贖を乞ひしことあり。斯くて徳川氏は大に之を制限禁止せしかば其勢力次第に減少するに至りしといふ。然れども家康以來の通商貿易獎勵主義の下に『自日本至呂宋國舟也』との免許を得たる所謂御朱印船は、しばしば往來して、彼の地の産物を齎したり。今や臺灣既に我領有となり。一帯帯水、語らば將に答へんとす。通商貿易の事業、漸く世人の注目する所となり、軍事上、商業上一日も眠るべきの機にあらざるなり。我國にマニラ麻(製綱の原料として大に用ゐらる)煙草・砂糖等を輸入せり。

オランダ領東インド Dutch-East-Indies

オランダ人 は千五百九十五年始めてジャバ島に來りて後千六百二年、東インド會社を組織し、漸次今のオランダ領東インドの地を蠶食し、殆ど二百年間之を管轄せしが千七百九十八年全會社の解散と共に、諸領地は悉くオランダ政府の所有となるに至れり。

位置

アジアに於けるオランダ領地は之をオランダ領東インドと稱し、北緯六度より南緯十一度に至り、東經九十五度より百四十一度の間に位せり。面積凡を七十五萬五千方哩、我本州の大約九倍に相當せり。人口凡を三千六百萬あり。

内領と外領 オランダ領東インドは政治上之を分ちて直轄地・隸屬地及び聯合地の三種に分ち、其内ジャバ及びマツラを内領若くは本土と認め、其他の地を外領と稱す。

オランダ領東インド

内領
外領

ジャバ。マツラ
スマトラ。ボルネオ。セレベス。モルツカ。小スンダ諸島。

JAVA

本島はヨーロッパ人の渡来以前、即ち西紀前十二世紀より千二百年代まではバラモン教並に佛教徒の勢力盛に、其後十五世紀の終頃までは回教徒の勢力を占めたり。然るに十六世紀の始め、ポルトガル人來りて數ヶ所に貿易場を設け、續きて、千五百九十六年、ホウトマン氏來りてバンダンに着し、千六百二年所謂東インド會社なるものを設立を見るに至りしかば、オランダの勢力大に擴張せられたり。斯くて千八百十一年一時イギリスに歸せしことありしが、後五年を経て再びオランダ領に復し其後幾變遷を経て今に至れり。

位置 西はスンダ海峽によりてスマトラと分れ、北はジャバ海峽によりてボルネオと相對せり。東西凡そ六百哩、南北凡そ百二十哩、面積約五萬餘方哩、我本州の大約三分の二に當り、人口凡そ二千八百萬あり。

地相 本島は世界第一の火山島にして、其數實に百餘個の多さに達し、其中殊に名高きものは東部のセメルにして、三千六百七十餘米に達し、其他三千米以上に及ぶもの猶九座もありといふ。活火山總計二十座に達し、其の特に噴火の激烈なるはサラック山にして千六百九十九年の大破裂あり。ゲデ山の如きは千七百四十七年より今日に至るまで既に八

Semeru

Galunggung
Merbabu Bromo

ガロンゴエン火山

河流、

沿岸

回も破裂したることありといふ。此他ガロンゴン・メルバブ・ブロモ等皆名あるものにて火山活動のために災害を蒙ること甚だ多し。而も土地は一般に肥沃にして、オランダ領中最も重要視せらる。風色頗る秀麗なり。

ガロンゴエン火山 千八百二十二年のガロンゴエン火山の大破裂の時の如きは、百十四ヶの村落を破壊し、四千の生靈を奪ひたりと録せらる。此の他に類すること甚だ多し。

河流 河流は一般に短小にして殊に舉ぐべきものなく、只ソロと稱するもの稍々巨流にして、舟楫の便あり。其他タルム・プランタス等亦之に次げり。

沿岸 本島の南岸一帯の地は断崖絶壁をなし、港灣乏しきにあらざるも、暗礁亂立して良泊と稱せらるゝなし。又北岸一帯の地は低平にして屈曲出入少なし。

氣候 氣候は熱帶性に屬すれども、海洋的なるがゆゑに、生活に困難ならず。一般に夏冬に於ける氣温の差極めて少し。雨量は多き方にして、十二月より三月までは西南風、五月より九月までは東北風なり。

富源としてあくべき産物は土地肥沃なるがゆゑに、砂糖米キニーネ茶珈琲等の産多く、又森林にはチーク樹よく繁茂し籐も亦多し。礦物は石油錫を除きては砂金マンガン。鐵・水銀等あれども、稱するに足らず。又、動物には猿類・虎・犀豹及び其他各種の鳥類棲息

ジャバ

せり。

キニーネ

キニーネ キニーネはチンチヨーナと稱する植物の樹皮(之を規那皮と云ふ)より製出せる物にして、薬用に供す。ジャバ島キニーネの産額は世界第一とす。一にキナ(機那)とも稱す

本邦との貿易

本邦との貿易 我國との貿易は徳川時代より頗る盛なりしものにて、當時彼等の砂糖・丁子・錫等と、本邦に於ける銅・樟腦等と交換したる事は歴史の語る所にして、今猶砂糖・咖啡・藍等の我國に來るもの少からず。又石油・キニーネ等を輸入すること頗る多し。

バタビア

バタビア 土名をジャカトラといふ。本島の西岸にありて、人口凡十二萬、オランダ東インド政廳のある所たり。市街は新舊の二街あり。商業頗る盛なり。千六百十九年の創建

Batavia

にかゝれり。今我領事館あり。風光美にして一に世界の公園と稱せらる。

ジャカタラ

ジャカタラ 都名バタビアはオランダ人の舊稱にして、賽を輸出すること多し。始め泰西人の本邦に來るや、盛に之を我邦に送りしかば、邦人遂にジャカトラなる地名を以て賽の名となすに至りしなり。

プリオク

プリオク バタビアの東方五哩に位する良泊にして、海陸の交通便に、バタビアの附庸港をなせり。

スラバヤ(蘇盧馬益) 本島の東端ブランタ河の左岸にあり。人口凡十五萬。本島屈指の市場にして、支那明時代より通商盛なる所たり。且つオランダ東洋艦隊根據地として知られ、又、造船業盛なり。而してトレンクタル海峡には優良なる港を控ゆ。

Soerabaya Piok

ボイテンゾルク

ボイテンゾルク バタビアの南方三十五哩にあり。世界第一と稱せらる有名なる植物園のある所にして、海抜二百六十五米に位し、風光明媚なるを以て知られたり。人口凡十萬。

スラカルタ

スラカルタ ソロ河の支流に瀕し、本島屈指の都邑にして、人口凡十萬餘。

サマラン

サマラン スラカルタの北方三十餘哩にあり。本島の北岸に於ける重要な商港にして、砂糖・咖啡・煙草・印度藍等の輸出あり。

バンタム

バンタム 本島の西北岸に位し、西紀十六世紀ヨーロッパ人の來つて上陸せし地なり。

〔屬島〕 本島の屬島にアヂェラ及びクラカタウ島等あり。

アヂェラ島 ジャバ島の附屬島嶼にして、其東北岸に位し、スラバヤ港口を扼す。ジャバ島の屬島中最大なるものなれども、面積人口共に稱するに足るものなし。

クラカタウ島

クラカタウ島 前者と共にジャバ島に屬せり。スンダ海峡に於ける一小火山島にして、千八百八十三年八月二十五日より二十八日まで四日間、世にも珍らしき大破裂をなし、二十五日には非常なる大鳴動をなし、二十六日には大破裂大噴火をなし、熱灼せる熔岩流は四方に奔流し、一大海嘯起りて沿岸地を襲ひ、二十七日には別に新火山を噴起し附近の航海者に大危険を與へ、同時に火山灰は天日を掩ひ、地球の大部分は其の掩ふ所となりて、連日太陽は赤褐色に見え、翌二十八日迄に死者三萬五千を出し、實に稀有の大噴火と稱せられ、地學上有名なる事實なりとす。而して此海峡よりバタビアまでは無数の火山質島嶼羅列せり。

Krakatau Maura Bantam Samarang Bultenzorg Soerakarta

スマトラ島 (蘇門答臘)

Sumatra

Marco-Poro

本島にヨーロッパ人の始めて来りしは、千二百九十一年伊國人マルコポロ氏を以て第一とし、其後千五百九十八年に至り、オランダ人技に殖民を始め、爾來次第に盛なるに至れり。

位置 マライ群島中第二の大島にして、群島中の西部に位し、西はインド洋に瀕し北はバルマ海に臨み、東はマラッカ海峡・シナ海・ジャバ海等を控へ、南はスンダ海峡に面せり。延長凡そ千哩、幅三百哩にして西北より東南に延長し、赤道の南北凡そ六度に跨れり。面積凡そ三百二十三十萬方哩、我本州の三倍餘に當り。人口甚だ少し。

地相 本島の西岸に接して高峻なる一帯の山脈ありて全島を縦貫し、中に六十餘座の噴火山あり。最高峯をコリンチと稱し、其他ボング、アボング及びシンボング等名高し。

又、東方に傾斜せる地は冲積平野にして、地味肥え、幾多の河流其間を流れて、灌漑の便極めてよろしく、下流はマラッカ海及びシナ海に注げり。其内名あるものはデアンビ・バンバン・ムシ等なり。

湖沼には本島の中央山地に生成せられたるシン、トバ及びシン、カラーの二あり。

沿岸 西方インド洋に面せる部分は灣曲出入少く、概ね低平なれども、他の内海に接せる方面には灣曲多く亦

Shin-toba Diambi Korintji
Shin-kurah Musi Palembang

沿岸

絶壁少からず。

氣候 **富源** 本島は赤道を横断して其南北に位せるがゆゑに、氣候の全く相反せるものあり。一般に雨量多くし、風も亦烈しく、健康に適せりとはいふべからず。

富源として擧ぐべき産物中農作物には胡椒・砂糖・珈琲・煙草等あり。礦物には金・鐵・硫黄・石炭・石油等あり。又森林にはカッタベルチャ・樹樟・オプテロカルビア等よく繁茂し、動物には狸・猿・猴・鱉・魚等多し。

都會 都邑の名あるもの次の如し。

パレンベン(巴淋馮、淳淋邦) 本島第一の都邑にして、海岸をさる六十餘哩の地に位すれども、ムシ河に跨るがゆゑに船舶の往來繁く、煙草・米・ゴム等の集散盛なり。人口凡そ五萬五千あり。

Palembang

パダン 本島の西岸第一の都邑にして、珈琲集散の中心をなし、本島屈指の市場たり。又、コックはパダンの高地によれる堅固の要塞地たり。

Padang Kock

アチエー 全名の國の首府にして、アチエー河畔に位し、附屬港オレーレーを去ること僅に一哩許胡椒の輸出多きを以て知られたリ。

Atych Olch-leh

屬島 本島の屬島には、リオ、リング諸島・バンカ島・プリツン島等あり。

スマトラ島

パダン
アチエー

リオ、リンガ諸島

ベンカ島
ブリツン島

本島の一部
はイギリス
領なり

リオ、リンガ諸島 マライ半島の先端に近きマラッカ海峡の入口に散在せるものにして、スマトラ島の東岸にあり。面積凡そ二萬五千方哩。附近にアナンパ・ナツナ等の諸島あり。

ベンカ島 ベンカ海峡を隔て、ボルネオ島と相對せり。面積凡そ四千五百方哩。錫の産出を以て知らる。
ブリツン島 ガスバル海峡を隔ててベンカ島と相對し、面積凡そ千八百方哩あり。ベンカ島と共に錫の産出を以て知らる。

此他 バビニアス・パツ・メンタウイ等の諸島はスマトラの西岸七八十哩の海中に並列せり。

ボルネオ島 Borneo

オランダ人の本島に來りしは、十六世紀の末葉にして、當時イギリス人も茲に來り、ベンジエルマシに其根據を占め、以て土人の征服に従ひたりしが、十八世紀の末に至り、遂に之を放棄するに至れり。之より先き本島は早く支那人によりて知られしが、白人の來りしは十六世紀の始め、ルドビク、バルデマ氏を始めとし、次ぎて千五百二十一年、イスパニア艦隊に寄港し、更に千五百二十六年、ポルトガル人モロッコに至るの途次、常に寄港して以て貿易を營めり。然るにオランダ人は漸次其領土を擴張し、更にイギリス人の後を襲ひ、以て現今の領土を得るに至りしなり。

位置 世界第三の大島にして、マライ群島第一の大島なり。全島不規則なる三角形をなし、長さ凡そ八百哩、幅凡そ七百哩、面積凡そ二十八九萬方哩にして、我本州の三倍餘に當り、人口凡そ百二十三十萬あり。而してオランダは本島の南部凡そ七八分を占め、人口

Ludovic-vantheema Batu Nias Eabi Banka Riau-Lingga
Mentawi Gaspar Natuna Anamba

境界

オランダ領
とイギリス
領

亦凡そ全數の三分の二を有す。

境界 本島は北緯七度より南緯四度に跨り、東はマンカツサル海峡によりてセレベス島に連り、北はバラバク海峡によりてフィリピン諸島に對せり。

オランダ領とイギリス領 本島はオランダ・イギリス兩國に分屬するものにして、其内前者に屬するものは、其地積次の如し。

ボルネオ西海岸	五五、八二五方哩	四一三、〇六七人
オランダ領	一五六、九一二方哩	七一六、八二二人
ボルネオ東南地方		

地相 本島に於ける山脈は、東北に於けるキニバル及び東南に於けるタナーラウトの外、中央にタバン山脈ありて、數多の支脈之より射出し、以て四條の分水界をなし、比較的平地に富めり、附近の島嶼と異にして火山極めて鮮し。一般に内地は元始的森林と沼地とに富み、人は概して其河流に沿ふて以て内地に通ずといふ。

河流 河流は山脈の形成に従ひ、四條の分水界により、パリト・マハッカム・カプア・レヂアン・カハヤンの五大流域をなせり。一般に本島の西北に於けるものは短小にして東南に流るゝもの稍大なり。河流の數頗る多く雨期に際しては、沿岸氾濫して廣き第四紀層の平原を濕せり。

沿岸 全島一の土塊状をなせるがゆゑに、海岸は極めて低平單調にして、延長僅に三千七八百哩に過ぎず而して南北の沿岸は東西の沿岸より屈曲多し。

Redjang Kapua Barito
Kubayan Mahakkam

Tabang
Kinibalu

Mancassar
Balabac

ボルネオ

氣候 **富源** 氣候はスマトラ島と同じく、平均気温二十七八度にして、冬夏の差少しとすへども、雨量多く、夜間の濕氣甚しくして、不健康地たるを免れず。

産物も亦之に同じけれども、動物中狸々の多きと、鳥類の種類多きとは、他と異なる所たり。此他砂金・錫・アンチモニー・石油等も亦少からず。又金剛石の産地として廣く其の名を知られたり。

バンジェルマシ 本島の首府にして、東南部に位し、バリト河口に臨み、人口五萬餘、貿易頗る盛なり。オランダ總督此所に駐在して政治を行へり。

ポンチアナク 本島の西部に於ける自由港にして、カプアス河口に近し。砂金・金剛石・胡椒等を出す。人口一萬五六千あり。

サマリンド

マハッカム河に沿ひ、藤木材・燕窩（支那の貴人好之を食す）等を出すを以て知らる。

セレベス Celebes

オランダ人の本島に來りしは、十六世紀の始めにして、漸次其勢力を擴張し來り、十七世紀の中葉に至りては、盡くポルドガル人を逐ひ、以て今日に至れり。されど今猶、土人酋長の有に關するもの少からず。

位置 西はマンカッサル海峡によりてボルネオと相對し、北はセレベス海を隔て、

Samarinda Pontianak Bandjermassin

イリツピン諸島と對峙せり。面積凡そ七萬二千方哩、我本州より稍小なり。人口凡そ二百萬あり。

地相 本島は細長なる四個の半島突出して、山脈中央部より射出し、其形狀頗る奇なり。島内一般に低地少く、南半島のロンボタン山、及び北部半島のカラバト山等、共に二

三千米以上に達し、活火山多くして、地震少からずといふ。河流は概ね短小にして、稱するに足るものなく、湖水ボソソ稍々名あり。同名の川によりてトミニ灣に注ぐ。

Posso Lompobatang
Kulabat

氣候 **富源** 本島の北部は熱帶的にして、南部は乾濕期一定し、マライ群島中、最も人の健康に適せるものとして知られたり。

産物中最も豊富なるは鑛物にして、銅・石炭・硫黄等を始めとし、亜鉛・金・鐵等の産出多し。又農産物には米・煙草・珈琲綿等あり。其他燕窩・鼈甲等も世に知られたり。又密林所々に立ち、其間に良好なる牧場地を有し且耕作に佳なる沃地に富み、最も注目すべき良島なりと稱せらる。

都會 都邑中名あるものをマンカッサルとす。

セレベス

《マンカッサル》一にマンングカッサルといふ。南方半島に於ける一大市場にして、自由港を有し、珈琲・香料・眞珠・羽毛等を輸出す。人口凡そ二萬。

メナド

メナド 北部半島のミナハッサに於ける都邑にして附近は有名なる珈琲産地たり。

《屬島》 本島を圍繞せる諸島頗る多し。其内北方に於けるタラウト・サンギル、東方に於けるスラ・バンカイ・南方に於けるボウ・ニムナ・プトン・サラヤル等を主なるものとす。

モルツカ群島 (美洛居)

Moluccas.

本島の發見者は、千五百二十一年に來航せしポルトガル人なりしが、尋ぎて千六百十三年には、オランダ人茲に來り、次第に全島を征服して、其有に歸するに至れり。

《位置》 一に香料群島ともいふ。之れ丁子、其他の香料に富めるによる。セレベスの東方、新ギニアの西方に散在する群島にして、其最大島なるセランを中心として、北にハラマヘラ群島、西にブル島、東南にチイ群島・アル諸島等あり。面積凡そ四萬三千方哩、我本州の半に似たり。人口凡そ四十萬あり。

セラム島
アンボイナ島

セラム島 モルツカ群島中、最大なるものなれども、探検未だ完からざるを以て、未知の事項多し。
アンボイナ島 セランの西南にあり。小島なれども、群島中最も開けたるものにして、首府アンボイナには

Ceram
Amboina kei
Aru

Banggai Talaut Menado Macassar
Bowoni Sangi Mangkassar
Buton Muna Sula Salayar

ハラマヘラ島
バンタ諸島
ブル島

人口二萬餘を有し、丁子の産地として最も其の名を知らる。

ハラマヘラ島 一にチロロ島ともいふ。セレベスの西北にあり。面積六千五百餘方哩、人口凡そ十萬あり。

バンタ諸島 セランの南方にありて、アンボイナの東百四十哩にあり。世界に於ける肉豆蔻の主産地として知られたり。肉豆蔻は其の果實の外皮を細末となし、食品の調理用に供す。

Halunbera
Banda Djilolo

ブル島 セラム島の西方に位す。

小スンダ諸島 The Lesser Sunda Isl.

本群島の大部分はオランダ領に屬すれども、其内猶ポルトガル領に屬するものあり。

《位置》 島嶼 ロンボク以東、チモル・ラウト諸島に亘る一帯の總稱にして、總面積凡そ六萬五千餘方哩、人口凡そ百十六萬餘あり。

諸島中稍々名あるものを、バリ、ロンボク・スンバワ・フロレス・スンバ・チモル・チモル、ラウト諸島等とす。

チモル島(底勿、地悶、吉里地悶) 小スンダ諸島中最大なるものにして、長さ凡そ三百哩、面積凡そ一萬七八千方哩、人口十二萬餘あり。其多くはネグロイドと稱せらるゝ黒人なり。周囲の海は水頗る深くして、二千尋以上に達し、又島内の河水は極めて短小なれども

Timor

モルツカ群島、小スンダ諸島

砂金を得ること多し。

首府をクバンといふ。商業頗る盛なり。

本島は風に支那明人などの交通したりし所にして、千六百十三年頃までは、ポルトガル人其全部を領したりしが、オランダ人のために其南部を奪はるるに至れり。

ロンボク島 バリ島と隔つるにロンボク海峡を以てす。島の長さ凡そ二十五哩あり。本島の最高峯リンアニは高さ一萬二千餘尺ありて我富士山と略々同高にして、航海者の目標とする所たり、又アンパナムは本島の良港にして、マタラムは内地の都會なり。

本島の東にスンバワ島あり。有名なるタンボロの火山あるを以て知られたり。

フロレス島 スンバワの東方に位し、長さ二百二十哩、幅極めて狭隘なれども、内地の探検未だ充分ならず。島内のランツカはポルトガル領に屬し、世人に知られたる都會なり。

チモル、ラウト諸島 小スンダ諸島中、最東部に位し、ラウト・ヤムドナ・セラルの三島より成る。全島皆珊瑚礁よりなれりと。全面積凡そ二千方哩、人口凡そ三萬なり。

ポルトガル領チモル チモル島の東北大半部にして、東部四十七邦と、西部三邦との外に、カンビンゲ島あり。面積凡そ七千方哩、人口凡そ三十萬あり。高地は一般に健康に適すれども、低地は不良なり。産物は珈琲・ココア・胡椒等なり。ココアは菓子となし、胡椒は辛味の料に用ゆ。首府をデリーと稱す。本島の良泊なれども市街の状況は頗る振はず。

ポルトガル領チモル

チモル、ラウト諸島

フロレス島

ロンボク島

イギリス領ボルネオ British Borneo

マライ群島の大部分は、千八百十一年イギリスの所領に歸したれども、千八百十七年に至り、以前の統治者に還せられて、英領は僅に北ボルネオのみとなれり。而して北ボルネオはブルネー・スルの各王より一會社の手に譲與したるものにして、千八百八十八年イギリスの所領たる告示を受け、翌年ラプアン島を添加するに至れり。

位置 イギリス領ボルネオはボルネオ島の北部より西部に亘りて、北ボルネオ・ラプアン・ブルネイ・サラワックの四部よりなり、面積凡そ七萬五千方哩、我本州より稍小なり。人口凡そ五十五萬あり。

北ボルネオ ボルネオ島の北部にあり。面積凡そ三萬方哩、人口凡そ十八萬あり。領内山岳重疊して、沿岸の出入移しく、延長凡そ千哩を有す。土地は北ボルネオ特許會社に屬し。煙草・珈琲・蜜蠟・燕窩等の産あり。住民は沿岸にマライ人あり、内地に土人あり、多くは回教の信徒たり。首府サンダカンは東北岸にあり。イギリス派遣の知事茲にありて九州を管理す。海底電線は此地とシンガポールとを連続せり。

北ボルネオ

ラプアン島 ボルネオの西北岸に於ける小島にして、千八百四十六年英國に歸し、千八百八十九年を以て、北ボルネオ特許會社の兼併となれり。面積凡そ三十方哩、人口凡そ八千五百人あり。沿岸にはポート、ビクトリア及びポートラップルスの二港を有せり。

ラプアン島

ブルネイ 北ボルネオとサラワックとの間にある土人領にして、千八百八十八年以來、イギリスの保護を受く

ブルネイ

イギリス領ボルネオ

Brunei Port-Victoria Sandakan North-Borneo Bort-Raffles Labuan

Labuan

Delhi Kambing Selaru Larat Larantuka Mataram Lombok Yamdena.Flores Sumbawa Ampanam Timor-Laoet Kupang